

幕張ベイタウン

『 はじまり物語 』

団体・サークルの誕生



2020年4月
発行； まち育て研究会

1. 幕張ベイタウン「はじまり物語」の作成に当たって

2020年(令和2年)4月

『 本年で幕張ベイタウンは、まち開きから4半世紀、25年目となります。

当時75歳で入居した人は100歳になります。世の中も変わり「少子高齢者時代」が間違いなくやってきました。

バブル時代にベイタウンへ入居して平均年齢30数歳の若い希望に満ちたぴかぴかの未来型都市も、ご存知のように公共設備が劣化あるいは壊れ、2回目の大規模修繕を

している街区もあります。2006(平成18年)の住民フォーラムの時、設備も、機械も、人も歳を取っていく経年劣化していくものだというご意見がありました。

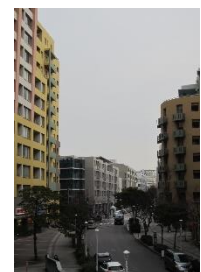


そんな中で、そもそも幕張ベイタウンの成り立ちにもう一度思いを致し、どの様にサークルや公的団体が始まったか、年表で歴史を追うとともに、はじまりの物語を残しておきたいという有志が出てきました。

つきまして、ベイタウンの開闢当時から関係された皆さま、またその後入居された皆さまに、是非ご協力戴き、直接「その思いや苦労話など」を書いて戴き、今後続くベイタウンの諸活動に供したいと考えております。これらは住民によるまち育ての志にご賛同いただける、公人・私人を問わず、勝手連的な「まち育て研究会」の様な形で、なんとか実現したいと願っております。

A4版で、1~3ページ程度の短い記録で構いません

また、感想やエッセイでも、口頭のご意見でも構いません。
ご協力いただければ幸いです。』



以上が、昨年(2019年秋)に、故辻 和夫氏(8番街在住)が、その趣意書に書いてくれた「各団体への依頼の文章」です。

辻 和夫氏は、その後、病を得て、誠に残念ながら、本年1月急逝されました。

ここに謹んで哀悼申し上げるとともに、その思いを残された仲間と継いで参りました。

この度、関係する皆様方の絶大のご協力のもとにやっと、その物語の一部ではありますが、まとめることができ、発表する運びとなりました。

今後、機会があれば、今回未収録の「物語」を再び作成できればと思っています。

趣意に沿って、ご賛同戴き、物語をお書き頂いた皆様方のご協力に、大いなる感謝を申し上げます。

編集代表

濱 宏純

二二 目次 二二

1. 幕張ベイタウン「はじまり物語」作成に当たって 濱 宏純

2. 各団体・サークルなどのはじまり物語

1) 公共・公益的な行事・団体グループ・行事		執筆者 (敬称略)	頁
1	幕張新都心事業の住宅地区の歴史	加瀬靖博	1
2	幕張ベイタウン地域運営委員会	小川陵介	2
2.1	マネージメント円卓会議(こども円卓会議)	辻 和夫	4
3	幕張ベイタウン協議会(作業部会)	辻 和夫	5
3.1	地域連携センター	濱 宏純	7
3.2	市政だより配布実行委員会	松田和紀	9
3.3	景観委員会	辻 和夫	11
3.4	事業委員会	松田和紀	12
4	幕張ベイタウン自治会連合会	伊藤正昭	14
4.1	防犯委員会	一石武宏	16
4.2	防災委員会	吉田一成	18
4.3	打瀬3丁目公園管理運営委員会	辻 和夫	20
4.4	イベント委員会(含BT祭り)	一石武宏	21
5	610地区 民生委員・児童委員協議会	濱 宏純	23
6	打瀬中学校区青少年育成委員会	西村侑身子	25
7	幕張ベイタウン商店街振興組合	山根治仁	28
7.1	うたせ認知症を考える会	山木則男	29
8	千葉市社会福祉協議会 打瀬地区部会	濱 宏純	31
8.1	高齢者福祉委員会	梅田明子	33
8.2	児童母子福祉委員会	西村侑身子	35
8.3	障がい者福祉委員会	南雲・井上	37
8.4	認知症福祉委員会	小柴憲次	39
8.5	福祉ネットワーク委員会	百瀬文男	41
8.6	うたせシニア体操	尾崎敏明	42
9	打瀬地区スポーツ振興会(市社会体育振興会)	内田 隆	43
9.1	ベイバスターズ少年野球	原 正典	44
15	敬老会(自治連、地区部会、民児協 共催)	濱 宏純	45
2) シニアクラブ関連他			
21	シニアクラブ	濱 宏純	46
21.1	ゴルフ会 ⇒ ベイタウンゴルフ会	濱 宏純	48
21.2	グランドゴルフ打瀬会	辻 和夫	49
21.3	写真クラブ	小林 滋	50
21.4	詩吟を習う会	濱 宏純	51
21.5	太極拳サークル	高橋榮寿	52
21.6	幕張ベイタウンテニス(MBT)連合	辻 和夫	53



3) 個別活動

23	コア研究会(図書館・メディア研究会、ファツイオリ)	辻 和夫	55
24	幕張ベイタウン・コア開設	辻 和夫	56
25	ベイタウンニュース	松村守康	58
26	ひまわり会	辻 和夫	59
27	子どもルーム	吉川伸子	60
28	ジュニアコーラス フェアリーズ	中村美紀子	61
29	むかし遊び	鎌田 繁	63
30	ラジオ体操	鎌田 繁	65
31	寺子屋・工作ランド	鎌田 繁	67
32	季節の歌を楽しく歌う会 花時計	吉田ちづ	69
33	打瀬卓球クラブ	熊倉英雄	70
34	将棋サロン・こども将棋大会	高田朋治郎	71
35	男の料理教室	徳光 脩	72

4) コア・サークル 関係

40	ベイタウン音楽愛好会	大垣真利子	73
41	ベイタウン中年バンド	柴崎 隆	75
42	混声コーラス GAFU	斎藤章子	77
43	女性コーラス 瀬音	花藤留美子	78
44	コア・チェンバーシンガーズ	松村守康	79
45	千葉ソロギターサークル	上原 淳	80
46	ナツメロ打瀬	渡辺 博	82
47	フルートアンサンブル (ルパート)	鈴木登美子	83
48	ベイタウン囲碁同好会	増田啓一	84
49	ベイタウン俳句会	辻 和夫	86
50	土筆(つくし)の会 (かな書道)	濱 悦子	87
51	コア・水彩サークル	東山孝幸	88
52	ダンススケッチ	今津直子	90
53	すこやか健康クラブ	小林 滋	92
54	草以会(生け花の会)	山根貴以子	93
55	幕張ベイタウン・コア3B体操	まとう幸子	94
56	ベイタウン日本語教室	堀 康二	95
57	をどり 組	本宮厚子	96
58	着付け教室(一水会)	重村由香	97
59	わくわくおはなし会	田中、井上	98
60	篆刻サークル；石門印会	中田 勲	99
61	クロワッサン (パン教室)	梅田明子	100

3. あとがき (終わりに) (2頁)

濱 宏純

追加：

1. ベイタウンの詳細年表 (暫定版) (19頁)
2. 地域運営委員会 公的団体の概要 (6頁)



「幕張新都心事業の住宅地区の歴史」

2020.2.29

1. はじめに

幕張ベイタウン住宅地区の事業計画は、幕張の地区の埋め立て開始の1945年から実施計画が決定する1990年までに、社会情勢の変化により何度もの計画変更を経て、幕張ベイタウン事業が確定した。実施計画の発表直後の1991年にバブル崩壊に遭遇し、事業実施も危ぶまれた。その際、しりごむ事業者がこの事業の将来性を説き事業推進を説得したのは、県からこの事業を囑託されたマスタープランの策定者であり、事業計画調整委員会の中心メンバーでもある、渡邊定夫氏と蓑原敬氏であったと聞いている。このようなバブルが崩壊した住宅事業としては最悪期に幕張ベイタウン事業は着工されたのである。

しかし、まだバブルの傷跡が残る1994年に最初の分譲が開始された6つの街区は、最高倍率が365倍となる高い人気を博した。2015年に最後の街区が完成し事業は終了した。これまで9,400戸が供給され2019年現在では、約25,400人が住む街となっている。

2. 事業開始までの計画の変遷

- 1945年 戦後の食糧増産のため幕張の埋め立てを閣議決定した。その後中小工業地造成に変更され1964年に60haの造成が完了した。
- 1967年 稲毛、検見川、幕張に計画人口24万人の大住宅地、海浜ニュータウン建設計画された。
- 1973年 幕張地区の埋め立て工事が始まる。
- 1975年 「幕張新都心基本計画」発表。業務中枢都市機能の一極集中に歯止めをかけることを目的に。業務機能を持つ新都心を建設することを決定。業務研究、タウンセンター、住宅、海浜公園などの要素も出そろおう。
- 1976年 「学園のまち」構想が示され大学3校、高校6校、海外職業訓練協力センターなど6つの文化・教育施設により文教地区が形成された。
- 1980年 1978年に成田空港が開港、1980年に埋め立て造成工事が完了。
- 1983年 [幕張新都心構想]などの「千葉県新産業三角構想」が決定。新都心にふさわしい都市的住宅たるべく、多様で個性豊かな表情を持ち、街に開かれたスタイルの共同住宅としての基本的な考え方が示された。」
- 1985年 「幕張新都心都市施設基本計画」が策定。21世紀にふさわしい都市として。ゴミの空気輸送システム、無電柱化などの整備計画が決定。住宅地区では、沿道型建築が決定。
- 1989年 幕張メッセが完成
- 1990年 千葉マリンスタジアムオープン
- 1990年 国際業務都市にふさわしい都市型住宅の建設を目指す計画が策定される。「都市デザインガイドライン」がまとめられ、運用に関する検討や調整を行う「幕張新都心住宅地区・計画デザイン会議」が設置された。
- 1991年 住宅事業者8グループ（公団、公社及び民間6グループ）を選定
- 1993年 住宅地区着工
- 1994年 幕張ベイタウン分譲開始6グループが同時 幕張方式（土地転借権付き分譲住宅）で分譲 最高365倍の応募
- 1995年 2月に街ひらき、3月から入居開始第一期704戸、1,800人
- 2015年 最後の街区が完成
- 2019年 9,400戸、25,400人

加瀬 靖博 記

(元千葉県企業庁幕張新都心整備課)

「幕張ベイタウン 地域運営委員会」

2019.12.9

1. 設立経緯

幕張ベイタウンにおいては、もともと、自治、福祉、教育等の観点からの行政施策に対応した団体に加え、住民の自主的な発意による各種団体が活発に活動している状況がありました。このような中 2011 年(平成23)6月に、住民主体のまちづくりを考える組織として「幕張ベイタウン協議会」を設立しています。

一方、千葉市及び千葉県の行政側も、「新しい公共」という理念の下で、地域の多様な団体が相互に協力して地域課題の解決に向けて取り組む活動を支援する「千葉県連携・協働による地域課題解決モデル事業」(2011～2012 年度)及び「地域課題解決・連携支援モデル事業」(2013 年度)を創設していました。

協議会は、2012 年度よりこれら支援制度を活用することとし、美浜区役所の協力の下に NPO 法人、有識者等のまちづくりの専門家にも参加いただき、関係団体が参画する円卓会議、連携会議を組織し、シンポジウム、ワークショップ、まち歩き等の事業に取り組みました。

当初は、主としてまちづくりの活動資金を確保する観点から支援制度を活用した面がありますが、この取り組みを通じて、ベイタウンで活動する多様な団体に加え小中学校の校長先生方も一堂に会して議論し情報を共有する場ができた意義は大きかったと考えています。

2. 設立時の状況

千葉市は、上述した取組成果を踏まえ、2014 年度に、地域で活動する様々な団体が参加して住民同士の「助けあい、支えあい」による地域運営を目指す「地域運営委員会」の仕組みを創設しました。加えて、これまで地域の団体それぞれに交付されてきた補助金を統合して地域運営委員会に一括交付し、地域で用途を決めることのできる地域運営交付金を支給することとしました。

この千葉市からの提案について検討するため、各団体の参画の下に(仮称)幕張ベイタウン地域運営委員会を 2014 年 5 月及び 7 月に開催し、千葉市と意見交換を行いました。各団体からは、地域運営委員会を設立する方向性には賛同するものの、住民ボランティアで組織を運営することから、実務を担う人材や時間の制約、各団体間の交付金配分の調整の難しさ等について懸念が表明されました。これに対し、千葉市は、美浜区役所に地域担当職員を配置する等により支援することを約束しています。

その後、同年 8 月に、協議会、自治会連合会を始めとする 7 団体及び小中学校 4 校を構成団体、UR、千葉大学及び淑徳大学を支援団体、千葉市をオブザーバーとする地域運営委員会設立準備会を設立し、2 か月毎の定例会に加え千葉大学の小林秀樹教授等の有識者を講師とする勉強会を精力的に開催しました。

これらの準備期間を経て、2015 年 5 月に幕張ベイタウン地域運営委員会設立総会を開催して同委員会を正式に発足し、現在に至っています。

設立時から現在までの活動及び体制

課題であった地域運営交付金の各団体への配分については、千葉市各部局と各団体との間でのこれまでの補助金の経緯があるため、当初は、従来の補助金額を踏襲して配分せざるを得ない状況でした。現在は、千葉市から地域運営委員会全体への活動支援補助金10万円を活用しつつ、各団体の年度毎の事業費の変動を踏まえて、地域運営交付金の一部ではありますが団体間の配分の調整に取り組んでいるところです。

一方、ベイタウンの小中学校4校の生徒及び先生方が主体となって、地域づくりを考え活動する「子ども円卓会議」を2012年度に立ち上げ、街の清掃活動（クリーン作戦）、まち歩き等の取り組みを続けています。地域運営委員会は、この活動を地域の立場から支援する役割も果たしています。

3. 将来の展望

現在は2か月毎に定例会を開催し、関係団体が課題を持ち寄り相談、議論する場として定着している感があります。特に、千葉市役所及び美浜区役所の担当官も毎回同席していただいております。行政も含めてお互いに対等の立場で意見交換できることは貴重だと考えています。

ただ、地域運営交付金の運用については、2014年度の制度創設当初より、千葉市が次年度の交付金を予算化する前に地域の要望を把握し、必要に応じて総額を調整する仕組みがなく、現在もその課題が残っている状況です。

また、地域運営委員会の構成団体で、定例会の場となる地域連携センターの運営会議を定期的で開催し、住民主体でその維持管理を行っています。地域連携センターは、協議会が千葉市との間で施設の使用貸借契約を毎年度締結して使用していますが、長期的に安定して使用できるような施設の位置づけを千葉市及び土地所有者である千葉県に求めたいところです。

以上

小川 陵介 記

追記(濱)：

現在(2020.1)の構成団体(略称)

自治会連合会、避難所運営委員会、商店街振興組合
社協地区部会、民児協、育成委員会、青少年相談員
連絡会、スポーツ振興会、打瀬中学校、打瀬小学校、
海浜打瀬小学校、美浜打瀬小学校、UR千葉、
ベイタウン協議会、

オブザーバーとして

千葉市市民自治推進課、美浜区地域振興課、打瀬公民館



以上

「ベイタウンマネジメント円卓会議」

2019.12.15

1. 設立時の趣旨および経緯

2012（平成24）年、千葉県から新しい公共「連携・協働による地域課題解決モデル事業」の公募があった。これは内閣府からの2億5100万円の交付金に基づき、市民の参加NPOや企業などが積極的に公共的な財・サービスの提案・提供を主体とするもの。市民が、NPO等や市町村が連名で、マルチステークホルダーとして地域課題解決に向けて取り組む、円卓会議を立ち上げ進めるものである。これに2012年2月幕張ベイタウン協議会・千葉まちづくりサポートセンター（NPO）と千葉市（美浜区地域振興課）三者名として応募し、ベイタウンマネジメント円卓会議を立ち上げた。協働アドバイザーを千葉大の関谷昇先生にお願いした。

交付金受領額は2,018千円

2. 設立時の状況

2012年4月キックオフミーティング開催。申請3団体の他、ステークホルダーとして幕張ベイタウン自治会連合会、街区管理組合・自治会、社協打瀬地区部会、61地区民生児童委員協議会、打瀬中、打瀬、海浜打瀬、美浜打瀬各小学校、同保護者会幕張インターナショナルスクール、打瀬地区青少年育成委員会、打瀬地区スポーツ振興会、幕張ベイタウン商店会、グリーンサム、千葉大大学院工学部中山研究室へ呼びかけ、29名が出席し、2回の準備会を経て7月に第1回円卓会議を実施した。

3. 設立時の活動および体制

各団体から35～40名が参加団体から、現状と課題につき発表。同時にマルチホルダー研修を実施。8月住民アンケートを実施。子どもがまちづくりに参加する仕組み、子ども円卓会議につき意見交換。商店街街歩きワークショップ実施。4小中学校の子どもたちが「こどもまち歩きワークショップ」実施。円卓会議は2012年7月～13年1月まで計7回、円卓会議広報誌発行2回。地域マネジメント、企画啓発研修、ワークショップなど合計8回、また狭山市へバスで出かけ、先進事例視察交流会を行った。

4. 現在の活動および体制

2013年1月円卓会議・シンポジウムにて、成果発表」アンケート結果報告。会場の約100名の参加者と意見交換・討議を行った。

同時期子ども円卓会議の作画・作文をコアと美浜区区役所にて展示。第7回最終円卓会議、活動拠点の設置や情報・課題の共有など地域マネジメントの展開への方向づけを行い、モデル事業を終了した。2013年3月県モデル事業報告会「ベイタウンマネジメント円卓会議」発表。

円卓会議は、実質的には地域運営委員会へ引き継がれ、子ども円卓会議はクリーン作戦、子どもまち歩きラジオ体操・ベイタウンマラソンなどの形で現在も継続。

5. 将来の希望**6. その他**

辻 和夫 記

1. 設立時の趣意および経緯

2007(平成 19 年)3 月立ち上げの企業庁・千葉市・住宅事業者・住民代表 4 者による「まちの管理・運営あり方研究会」が 2008 年 3 月最終回。住民アンケートやシンポジウムを踏まえ、まちの管理運営機構を作る方向が確認された。住民総意を得る仕組みとして自治会連合会を超えて網羅的にすべての管理組合に呼びかけ、住民協議会の設立検討を住民協議会準備会として始動した。

2. 設立時の状況

分譲街区 28 街区のうち管理組合ないし街区自治会の 18 街区が参加表明、ほか個人有志など約 40 名が参加。2008 年 4 月にベイタウン協議会規約を起案。幕張ベイタウンの優れた景観、安全で快適な都市環境及び都市機能の維持・向上を図る事によって幕張ベイタウンの住民など会員の共通の利益を増進することを目的とした。3 年間の準備と活動を経て 2011(平成 23 年)6 月設立総会をもって発足。

3. 設立時の活動および体制

「200 年住まい・まちづくり担い手事業」へ応募。これを資金とし上記「まちの管理のあり方に関する研究会」の報告書をもとに、住宅・都市問題研究所に依頼し、住民向け広報資料として取りまとめ全戸配布。転機を迎えるベイタウンこれからのまちの担い手を認識し、協議会準備会作業部会約 20 名が中心となり活動推進。まち歩き、シンポジウム 2008 年 11 月(基調講演齋藤広子)、2009 年 2 月(同鈴木雅之)、3 月(同前田英寿)と 3 回開催。2010 年早大佐藤滋教授、2011 年 1 月千葉大北原理雄教授を講師としてシンポジウム開催。ワークショップ 2 回開催。また「まち育て」を協議会ニュースとして 2011 年まで 10 号まで発刊。公共施設の千葉市への移管、民間事業者グループの撤退、千葉県企業庁の終息などから生じる課題が浮き彫りにされた。

2010 年に街並み景観を住民が意識し、参加するために「ベイタウン 36 景」写真絵画を募集 26 を選定。第 2 回はホームページによる投稿を含め 2011 年に審査委員会選定 12 景。2011 年 6 月にデザインガイドツアー開催、まちの設計曾根幸一氏の解説。

2011 年 6 月発足時には会長遠山、副会長伊藤、樺田、事務局長辻、法人化委員会(中田)、駐車場委員会(濱)、ゴミ問題委員会(湯浅)、HP 委員会(草原)を立ち上げ、作業部会のテーマを分担。

2012 年ゴミ輸送管設備の千葉市へ移管にあたり、費用負担の問題が顕在化、ゴミ問題委員会が論点を整理し、要望書作成や企業庁説明会や千葉市との折衝調整にあたった。結果住民の費用負担はないものとなった。



2011.6 設立総会

この間、幕張ベイタウン協議会 NEWS1~6 号、臨時号発行。ベイタウン協議会の対外的な窓口として、情報の提供や意見の交換、会員の共通認識の醸成を主眼として活動

2012 年連携・協働による地域課題解決の円卓会議は別項参照。

4. 現在の活動および体制

現在自治会、管理組合、自治会連合会社会福祉協議会、民生・児童委員協議会、商店街振興組合、スポーツ振興会等団体登録 29 と個人登録。毎月 1 回の作業部会は団体個人 40 名、年 1 回の総会を持っている。 広報委員会（遠山会長兼務）市政だより配布実行委員会（伊藤）、センター運営会議（濱）、景観委員会（湯浅）、ゴミ問題委員会（小川）、法人化委員会・駐車場委員会に代え事業委員会（松田）を構成。

2013 年旧子どもルームを千葉市から借受け、地域連携センターとし拠点を確保。

同年 市政だより配布モデル事業を千葉市から受託、委託費の一部を協議会活動資金へ。

2015 年（平成 27 年）に、一般社団法人まち育てサポートを上げたが、

2017 年 休業。

2014 年景観委員会が勉強会の形で千葉市の景観形成指定地区申請をめざし景観基準を検討開始、景観形成基準等につき千葉市と検証を継続している。

2018 年街路灯の LED 化に伴う街路灯デザインを千葉市と協議、街路灯交換工事。

引き続き協議会の運営機関として作業部会と事務局を置き、課題項目をリストアップ具体的な行動計画を立案、順次実行。

協議会 HP ニュース平成 23 年以降を参照。

5. 将来の希望

6. その他

以上

辻 和夫 記



当初の作業部会



バイタウン祭り



バイタウンガイドツアー



同ツアー中庭案内

1. 設立前のベイタウンの状況

- 1) ベイタウンの開闢以来、「住民活動の拠点設置」の要望が強くあったが具体化されずいた。
- 2) 平成19年(2007)4月に千葉県企業庁主導のもと、千葉市、住宅事業者、住民代表(主に自治連)による「幕張新都心住宅地区の管理運営に関する研究会(以後あり方研)」が設置され 将来のベイタウンの管理・運営のあり方をなどの検討に入った。
- 3) 平成20年(2008)3月、この「あり方研」報告書の中で、将来の「管理運営構の全体イメージ」として、住民代表としての「住民協議会」の設置が求められた。
- 4) その後、住民同士の議論を経て、平成23年(2011)6月に「住民協議会」を「ベイタウン協議会」として設立した。
- 5) これまでの「あり方研」研究の中でも「住民活動の拠点」の要望が取り上げられたが、平成23年(2011)12月1日付けで、住民側から企業庁、千葉市、美浜区に対し「活動拠点の確保」に関する「要望書」を提出した。
- 6) 更に、企業庁が土地所有の千葉市建設のコア横の「打瀬子どもルーム」が、移転撤去する事となり、住民側として平成24年1月に、企業庁、千葉市にこの建物の住民拠点への転用要望書を提出した。

参考： 要望書は平成24年(2012)3月12日付け。

- 7) また、平成24年4月のあり方研では、「幕張ベイタウンの課題一覧表」を作成提示し、その中での優先項目として、当該子どもルームの転用を提示した。
- 8) その後、ベイタウン協議会内、及び関係団体間での意見調整を行い、利用の目的、利用団体の制限、運営方法など規約を纏め、千葉市(政策調整課、こども未来局健全育成課との話し合いを経て、平成24年6月「活動拠点への転用計画書」を纏めて、千葉市(美浜区役所)へ提出。

参考： 協議会の作業部会に専門委員会として「旧子供ルーム委員会」を設置(平成24年5月13日の作業部会議事録。)して検討した。

「活動拠点への転用計画書」(案)を平成24年(2012)6月13日開催のあり方研究会「子どもルーム転活用専門部会」に提出。

- 9) 平成25年(2013)1月 企業庁内の土地貸付の了承と、千葉市からの建物・土地の暫定3年間の転用の契約を得るに至った。 契約は、土地・建物それぞれに千葉市と行う。

参考： 契約は、借付は使用貸借(無償)、借受人は幕張ベイタウン協議会。(自治会連合会、商店会では契約できない。(千葉市))。

当初契約は、平成25年7月1日付け。

- 10) 平成25年(2013)5月 千葉市より出入り口のカギを受け取り使用開始。

この間、千葉市、美浜区からは、机、いすなどを多量に貸してくれた。

また、住民側からも、いす、机、テーブル、時計その他多くの寄付を戴いた。

- 11) 運用に当たっては、ベイタウン協議会の元、平成25年6月「幕張ベイタウン地域連携センター運営会議」を設立し、都度の会議で課題を整理しつつ利用している。

参考： 「幕張ベイタウン地域連携センター運営管理規約」(利用関係団体は当初7団体、現在8団体)、「幕張ベイタウン地域連携センター運営管理要領」、利用予定表、利用簿などを整備して自主運営、自主管理を行っている。

2. その後の状況

3年経過後は、都度、単年度ごとの契約更新を行ってきた。

参考：平成30年度(2018)の契約更新に向けて平成30年3月11日付けで幕張ベイタウン地域運営委員会から要望書を提出。

この間、通称「あり方研」での論議、ベイタウン内の各団体との転用に関する話し合いなど、主として、地区部会の伊藤正昭部会長、故砂原正行氏、濱宏純とベイタウン協議会の松田和紀氏、辻和夫氏、遠山孝行氏、湯浅美和子氏など多くの方のご助力を得て、拠点を確保することができた。

3. 現状（2019年11月現在）

1) 平成31年(2019)に至り、企業庁の廃止に伴う組織変更や当該担当のベイタウンそのものに対する課題意識の変化もあり、契約形態の変更となった。

建前上、県が千葉市の「幕張新都心行政上の利用」の形で土地を無償で貸し出す。

そのため、千葉市とベイタウン協議会との間は、従来の土地及び建物の契約から「建物の使用貸借契約」のみとなった。

また、建物所有者の千葉市が、土地を県から借用する立場から、建物は地団体への貸付の他、単独での利用も行うこととなった。

契約は、ここ最近の契約通り、毎年更新となる見込み。

参考：コア横の公益施設用地の千葉市への早期移管が重大な懸案事項。

2) 一方、貸与以来、大雨強風時に屋根に枯葉が大量に落ち、雨樋を詰まらせ、樋の水位が上がり、排出できず、樋から室内に雨が多量に漏れこむことが数回起きた。

調査の結果、雨樋の構造上の不備が明かとなり、樋部を改造することとなった。

2019.11.10 現在

また、屋根に落ちる木の葉を減じるべく、建屋横の枝木のカットを行った。

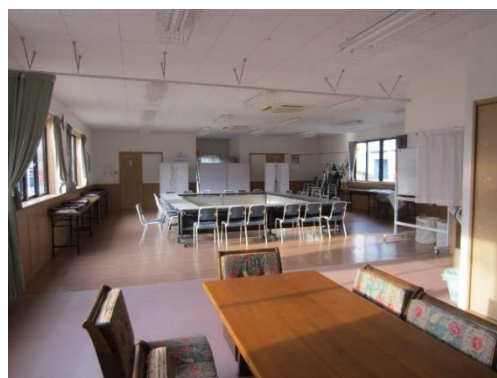
(千葉市土木課 対応)

4. 今後の課題

施設の更新(大規模修繕含む)があり、千葉市との調整が必要。



地域連携センター 外観



同 内部状況

以上

濱 宏純 記

幕張ベイタウン協議会（以下「協議会」という。）は、現在、ベイタウン内の全戸に千葉市が毎月一回発行する「ちば市政だより」（以下「市政だより」という。）を配布している。

配布の実施による千葉市からの謝礼は、協議会の活動を支える大事な資金となっている。

1 そもそも始まり

千葉市は、市政だよりの配布を新聞折込により行ってきたが、新聞購読者の減少に伴い、市政だよりの配布を受けない世帯が増加したことから、市民による各戸配布のモデル事業を平成23年度から実施していた。

協議会は、平成24年（2012）6月に千葉市広報課から「ちば市政だより市民配付モデル事業」の追加募集について説明を受け事業参加の検討を行うこととした。

事業概要は、

- (1) 事業名 ちば市政だより市民配付モデル事業
- (2) 実施主体 市町内自治会連絡協議会に加入の団体
- (3) 募集対象 地区町内自治会連絡協議会(中学校区)
- (4) 配付エリア 地区町内自治会連絡協議会の居住エリア
全域(会員以外も配付)



- (5) 配付要件 納品日から発行日までの5日間で、全戸配付。
- (6) 開始時期・終期 平成24年9月1日号から平成25年3月15日号
- (7) 契約額 1回8円/世帯

事業参加のスケジュールは、

2012年6月中に市広報課と協議、契約審査を経て7月下旬までに契約事務、8月28日に9月1日号納品配付スタート、10月上旬実績報告書と請求書提出以降毎月同様サイクルで、実施当たりのポイントは、

- ① 配付体制の維持と配付完遂の責任
- ② 納品受領、配付仕分けのスペースとマンパワー
- ③ 制度上契約の当事者は地区連に加盟の町内自治会連絡会

とのことであった。

市政だより配付検討委員会を設置し事業参加の検討を行い、第47地区町内自治会連絡協議会を契約当事者として、協議会が事業実施を担当者としてベイタウン内の全戸に市政だよりの配付を行うことし、平成24年（2012）7月に応募申請を行い、平成24年9月1月号から配付を行うこととなった。

協議会は、市政だより配付開始に先立ち、外部からの連絡を受けるためのメールアドレスと携帯電話を用意し、千葉市と協議会連名でポスティングによる市政だより配付開始の周知チラシをベイタウン内の全戸に配付した。

2 配付実施体制の整備

市政だより配付検討委員会では、配付実施を千葉市からの受託金の2分の1を謝礼として支払う配付サポーター（以下「サポーター」という。）の協力を得て行うことを想定して、サポーターの公募を行い、応募者を対象に行った説明会でサポーター登録票の提出を受けた7名の協力を得て配付を行うこととした。

協議会は、パティオス11番街の協力を得て、11番街の集会室で毎号所定の日に納品を受け取り、サポーター毎の担当部数に仕分けを行い、各サポーターに取りに来てもらい渡す

こととし配付事業をスタートした。

協議会は、配付事業に参加する、サポーター及び協議会員の万一の事故に対する保障として、平成24年9月から傷害保険を掛けている。

パティオス11番街及びマリノフォートは、配付開始当初から、街区の管理員により配付・配布が行われている。(パティオス19番街は当初の2回、街区の管理員により配付が行われた。)

3 配付・配布の実施

協議会は、平成24年(2012)11月に、「市政だより配布検討委員会」を改組して協議会員有志11名による「市政だより配布実行委員会」を設置し、メーリングリストにより情報共有して、配付事業の安定した実施を支える体制を整えた。

平成25年(2013)7月から、納品受け取り仕分け作業の場所は、協議会が千葉市から無償で借り受けることとなった幕張ベイタウン地域連携センターに移った。

千葉市の「ちば市政だより市民配付モデル事業」は、平成26年(2014)4月から「ちば市政だより市民配付事業」とし、市政だよりの市民配布が本格実施されることとなり、これを機会に、第47地区町内自治会連絡協議会に代わり協議会が事業者となった。

協議会は、サポーターの退任による人数減少や新しい街区の入居開始に合わせてサポーターの追加公募を行うなどして、配布実施体制を維持してきた。

この間、配布従事者証の発行、仕分け方法の改善、配布実行委員会メンバーとサポーターとの懇談会や旅行会の開催など、確実に円滑な配布実施に努めてきた。

千葉市は、平成29年(2017)10月1日号から、これまで月2回発行していた市政だよりを毎月1回発行することとし、併せて、新聞折込による市政だよりの配布をやめて、公募入札により決定した事業者に配布を委託することとした。

市民配布事業は引き続き継続されることとなったため、千葉市は市政だよりの発行の変更を市民にお知らせする「ちば市政だより号外」を作成し、協議会はこれを全戸配布して、ベイタウン内の全戸に協議会が市政だよりを配布していることの周知を図った。

市政だよりが毎月1日号の発行になったことに伴い、これまで1日号(8頁)、15日号(6頁)であった市政だよりが1日号(12頁)となり重量が増え、少人数の配布サポーターでは負担が重くなるので、協議会はサポーターの追加募集(公募)を行い、平成29年(2017)10月1日号からサポーター23名になった。

サポーターは、千葉市が新たに発行した配布員証を携帯して配布を行っている。

その後、退任者があり、平成31年1月からはサポーター18名の体制で配布を行っている。

配布部数は当初1回の配付部数は約8,300部であったが、全ての住宅街区の建設が完了し入居が進んだ現在は、毎号約9,100部の配布を行っている。

協議会は、この間、仕分け表を改良して仕分け作業の効率を向上させるなど、確実に円滑な配布の実施に努めている。

以上
松田 和紀 記

1. 設立時の趣意および経緯

幕張ベイタウンは「幕張新都心住宅地区」として、都市計画のもとに普通の住宅地とは違い、多くの建築家と造園家により、居住環境と都市デザインを備えた都市型ライフスタイルをリードするという基本理念に基づき計画開発された街である。具体的には事業計画を補完するものとして「デザインガイドライン」が作成され、住棟、道路、公園などの施設の計画設計内容の指針が示された。調和のとれた街並み形成を図り、創意工夫に富んだ魅力的なデザインの展開が図られ、街の景観を形成した。入居後の住宅環境を維持向上し、保全再生可能な街を管理する街全体の管理運営につき、2009年3月まで企業庁・千葉市・住宅事業者・住民代表による研究会で議論されてきた。

2010年千葉市が景観計画を策定、景観形成指定地区へ申請できることになった。2012年度まちの公共施設を含む管理運営を、企業庁終息に伴い千葉市へ移管。2013年移管に伴う都市計画・デザイン調整を継承する仕組みづくり、景観形成指定地区申請準備などを目的に維持管理の取り組みに景観委員会が設けられた。



2. 設立時の状況

2012年幕張ベイタウンは千葉都市文化賞を受賞、景観形成取り組みの住民活動などが評価されたもの。2013年住民を報告者とした景観シンポジウム開催。同年企業庁、千葉市に呼びかけ景観勉強会や、千葉市長・副市長面談、千葉市協議を通し、景観形成推進による街の維持管理を模索。千葉市は都市景観デザイン室をもって行政ルールの枠内管理との方向を示すも、11項目のまちの課題、地代とか、ゴミ問題等を含めての議論へ展開。

3. 設立時の活動および体制

千葉市との協議を通じ千葉市がデザインガイドラインは開発時の指針にすぎないとするも、街の景観維持にはガイドラインの理念を引き継ぐまちのルールが必要との見解のズレ。

2014年景観形成推進地区申請のためにまちづくりアドバイザーを申請、住宅・都市問題研究所平井允、吉岡佑代氏、環境都市問題研究所金丸宜弘氏をアドバイザーに迎えた。ワークショップ「ベイタウン景観ワールドカフェ」を開催。2015年から16年にかけて千葉市街路灯のLDE化について維持管理課と協議の場にて住民意見を述べ、デザイン変更後の工事を終えた。他にバス停、道路舗装、チェーン等につき行政と住民の協議検討の場を作った。

4. 現在の活動および体制

景観形成推進地区申請には住民総意が必要との千葉市条件があり、この実施のための各街区説明会開催。デザインガイドラインをもとに景観形成基準案の取り纏めを協議継続。

5. 将来の希望

6. その他

以上

辻 和夫 記

幕張ベイタウン協議会（以下「協議会」という。）は、21世紀にふさわしいまちづくりを目指して整備された幕張新都心住宅地区（以下「幕張ベイタウン」という。）の優れた景観、安全で快適な都市環境及び質の高い都市機能の維持・向上を図ることによって、幕張ベイタウンの住民等会員の共通の利益を増進することを目的として設立された。

協議会は、千葉県企業庁の土地造成事業により生み出された税金によらない資金で整備された幕張ベイタウンの良好な街並みや高品質なインフラ設備等を、将来にわたり維持するために、幕張ベイタウン内の公共公益施設や賃貸資産を一元的に管理運営する「管理運営機構」（県企業庁、千葉市、住宅事業者、地域住民代表による「幕張新都心住宅地区の管理・運営のあり方に関する研究会」（以下「あり方研」という。）の研究成果）の設立を目指し活動を続けてきた。

1 駐車場委員会（駐車場企画委員会、駐車場検討チーム、駐車場検討委員会） ～事業委員会

税金によらない資金で整備された高規格の街の管理運営を担う管理運営機構を成立させるためには、税金によらない資金の導入が不可欠であることから、駐車場運営による収益をこれに充てるための仕組みづくりを検討するため、協議会は、設立直後の平成23年8月に駐車場事業の可能性を検討する検討チームを設置し、ベイタウン内の駐車場経営の実態調査を行い、これを下に駐車場の運営収支のスタディーや初期費用の調達方法（金融機関から融資）などを検討した。

また、平成24年4月から駐車場運営を行うことを目指すこととし、駐車場用地の貸付主体の県企業庁に要望活動を行った。

一方、協議会が駐車場運営などの事業を行うために、事業主体として法人が必要との認識に立って、平成23年9月に法人化委員会が設置され、NPO法人、一般社団法人など具体的な法人化の検討が行われた。

県企業庁は、駐車場運営を随意契約で地域に委ねることはできないとして、平成24年2月に応募条件として「駐車場経営の経験があること」とした公募を行い駐車場事業者を選定したため、協議会の駐車場運営への参入は見送りとなった。

当面活動を休止することとなった駐車場委員会は、法人化委員会と統合して新たに事業委員会を設置することとなり、事業委員会は、法人化と共に旧打瀬子供ルームの地域活動拠点としての活用などに取り組むこととなった。

2 一般社団法人 まち育てサポート

街の維持管理等の実務を担う組織として、収益確保に向けた事業を展開するためには法人格が必要であることから、一般社団法人の設立を視野に法人化の具体的な検討が深められたところ、千葉市から、千葉市が予定しているベイタウンコアの指定管理者募集に地域の団体も参加できる可能性が示され、指定管理者募集に対応するためには法人格が求められること、県企業庁において平成28年度に、ベイタウンの駐車場の管理委託先を入札で決定していこうとする動きがあり、受託するためには法人格が必要であることから、法人の設立を具体的に進めることとした。

平成26年7月の協議会の第5回総会において「一般社団法人幕張ベイタウンまち育てサポート」（以下「まち育てサポート」という。）の設立が提案され、承認され、同日、「まち育てサポート」の設立総会が開催され、法人が設立された。

参考 「一般社団法人幕張ベイトウンまち育てサポート」の概要

(目的)

当法人は、幕張ベイトウン協議会が企画・立案する事業の支援・実施を通じて幕張ベイトウンの優れた景観、安全で快適な都市環境及び質の高い都市機能の維持・向上及び地域マネジメント等のまち育て活動を推進し、もって地域社会の健全な発展に資する事を目的として設立する。

(事業)

当法人は、上記の目的を達成するため、幕張ベイトウンにおいて次の事業を行う。

- (1) 幕張ベイトウン協議会が企画・立案する幕張ベイトウンにおける都市機能や居住環境の維持・向上、街並景観の保全及び地域マネジメント等のまち育て活動の支援・実施
- (2) 幕張ベイトウン協議会ニュースの発行等各種まち育て活動等に関する情報発信
- (3) 指定管理者制度に基づく打瀬公民館(幕張ベイトウン・コア)の運営の受託
- (4) コミュニティ活動拠点施設の整備
- (5) 公共施設の維持、管理及び整備の受託
- (6) 駐車場の運営・管理
- (7) 賃貸店舗の保有又は受託による運営
- (8) 賃貸住宅の保有又は受託による運営
- (9) 地代徴収及び納付、建物譲渡及び譲受承諾、デフレーター
(物価指数)の確認及び地代変更額の通知等の土地転貸借業務の受託並びに土地転借権の継承
- (10) その他当法人の目的を達成するために必要な事業
- (11) 前各号に付帯又は関連する一切の事業



(コア横空き地)

まち育てサポートは、協議会から、市政だより配布事業に係る事務を受託すると共に、各種事業の具体化に向けて取組みを行ったが、公民館の指定管理者は千葉市の外郭団体の財団が市内全館について選任され、駐車場事業への参入も当面見込めないなど、具体の収益事業が見込めない一方で法人税等の支出がかさむため、平成28年4月から業務を休止することとし、平成28年9月に千葉西税務署等に休業手続きを行った。

3 事業委員会の再開

協議会は、休業したまち育てサポートの事業再開に向けて収益事業等の検討を行うため、まち育てサポートの設立以降休止していた事業委員会の活動を、メンバーも拡充して平成29年4月から再開させることとした。

再開された事業委員会は、協議会の活動資金を安定的に確保するための事業展開に向けて、県企業土地管理局(企業庁の後継組織)にコア横用地の活用に向けた働きかけを行うこととし、平成29年12月、千葉県が所有するコア横用地(暫定駐車場、センター所在地、広場)の千葉市への早期移管を働きかけるため、千葉県及び千葉市を訪問した。

また、駐車場事業への参入を検討するため、平成30年3月、千葉県に駐車場用地の貸付契約の現状及び事業者選定の経緯等に関する行政文書の開示を求めた。

さらに、駐車場事業への参入については、平成31年2月に行われる駐車場事業者募集への応募を目指し、駐車場専門事業者との共同事業を模索したが不調に終り応募を断念した。

現在は、駐車場事業への参入について取り組み方を模索しつつ、千葉市が行う幕張新都心将来ビジョン策定の中に、コア横用地の活用など地域の意見を反映させるべく、千葉市のビジョン策定の動きを注視している。

以上
松田 和紀 記

1. 運用開始の趣旨及び経緯

ベイタウンの最初の街区入居開始 1995 年（平成 7）以来 2 年後の 1997 年（平成 9）6 月 1 番街、2 番街、3 番街、4 番街、5 番街、6 番街、8 番街、10 番街、11 番街、12 番街の 10 の街区毎に結成された自治会を千葉市第 47 自治会連合会として千葉市町内自治会連絡協議会に加盟することになった。1996 年秋に自治会連合会結成を呼び掛けそれが加盟各団体の合意をもって新しい組織として発足したものである。

各街区だけでは解決しきれないベイタウン全体の課題の解決を全員で協議しながら解決していこうと決意の表れでもある。自治会連合会の基本理念として会則にも盛り込まれた①気品あふれる美しい街ベイタウン、②心ふれ合う文化の街ベイタウン、③環境と人にやさしいベイタウンの実現を目指した活動のスタートであった。

2. 開始時の状況及び体制

下記の委員会を設置し活動開始

事務局

- ・行政との連絡調整
- ・他地区連合会との連携
- ・ベイタウン内における自治会設立、支援
- ・各街区との連絡調整

広報委員会

- ・ポスターによる各種広報
- ・コミュニティ誌の創刊
- ・議事録の作成、保管
- ・インターネットによる情報交換
- ・外部からの撮影依頼への対応

防災・防犯委員会

- ・自主防災組織の設立
- ・防災防犯計画の作成
- ・防災訓練
- ・ベイタウン防災組織編成
- ・加盟各番街へ自主防災組織編成推進
- ・災害時の対応マニュアルの整備
- ・加盟各街区ごとの防災訓練推進
- ・スーパー防犯灯設置対応

交通関連委員会

- ・駐車場問題の解決
- ・道路問題
- ・公共駐車場の整備
- ・路上駐車問題対応
- ・児童通学路の安全対策
- ・富士見通り安全対策

コミュニティ・コア研究会

- ・コミュニティ・コア事業の促進について自治体とタイアップして活動
- ・ホール使用規則の整備
- ・ピアノ選定及び管理
- ・コア拡充整備計画の検討

環境・美化委員会

- ・花壇・駅前駐輪問題の解決
- ・コア花壇の設置及び管理
- ・ベイタウンクリーン作戦事務局

文化・芸術・スポーツ

- ・文化・スポーツ活動のサポート
- ・3丁目公園管理運営委員会設置

各種イベント

- ・ベイタウン祭り実行委員会
- ・その他イベントのサポート

3. 現在の活動及び体制

体制としては、会長、副会長、事務局のもとに、常設委員会、特別委員会、賛助会員

から構成され、個別の活動は、それぞれの委員会で主体的な活動を行う。

1) 常設委員会活動

①広報委員会

- ・HP の活用 連合会活動の広報、
- ・撮影許可申請処理

②防災委員会

- ・避難所開設体制の整備（ 5 避難所ごとに担当街区割り当て ）と避難所開設訓練の実施
- ・防災 HP による情報開示
- ・災害時要援護者への対応、各街区ごとに対応方法検討

③防犯委員会

- ・防犯の観点からの街路樹の実態調査
- ・毎月街灯の点灯状況
- ・移動交番だより街区掲示用に配布
- ・定期的な防犯パトロール

④交通委員会

- ・交通状況の点検と対応検討
- ・児童通学路の安全確保のためのパトロール

⑤イベント委員会

- ・ベイトウンまつり企画運営

⑥環境美化委員会

- ・コア花壇運営管理
- ・ベイトウンクリーン作戦事務局

2) 特別委員会

①ピアノ委員会

- ・ピアノ運営管理
- ・公民館と連携してのコア設備管理

②3丁目公園管理運営委員会

- ・テニスコート、球技広場自主運営管理

③ベイトウン・グリーンサム

- ・ベイトウン内街路樹見守り、3丁目緑地運営管理

④打瀬3丁目「風のガーデンの会」

- ・第3公園花壇管理運営

⑤ベイトウン・女子部

- ・ハロウィンまつり企画運営、イベント委員会補助

⑥菜の花クラブ

- ・2丁目花壇運営管理

⑦ベイトウンにエコパークをつくる会

- ・エコパーク運営管理

3) 事務局

- ・連合会備品貸し出し
- ・印刷機運営管理

4) 賛助会員

- ・ベイトウン協議会
- ・民児協
- ・社協地区部会
- ・育成委員会
- ・スポーツ振興会
- ・商店街振興会

5) その他

- ・ベイトウン協議会、地域運営委員会などの会員としての活動。
- ・支えあいのまち推進協議会活動
- ・美浜区町内自治会連絡協議会

以上
伊藤 正昭 記

【はじめに】

2012年(平成24)6月に開催された自治会連合会総会において一石が委員長に指名された際、前任者は存在せず、委員会は活動休止状態であった。少なくとも2010年12月までは活動の記録が残っているが、その間の状況についてははっきりしない。

本稿では、2012年およびそれ以降の防犯委員会の活動について述べる。

【再立ち上げ直後】

一石が防犯委員長に指名されたのが2012年6月、再開第一回目の委員会開催が同年11月。まず各街区から委員を選出してもらい、実際に集まってもらうために5ヶ月かかったことになる。時間がかかった理由の一つは「防犯委員会の活動をどうするか」について悩んでいるあいだに時間が経過したことがある。実際は活動内容について考えがまとまることなく委員会を再開することになった。

幕張ベイタウンは、街路灯の数が多いこと(千葉市平均の約2倍)また警察に交番設置の要望を出してもおよそ実行可能とは思えない優先順位にされたこと、また目立った犯罪の話を耳にしないこと等「安全な街」と言える状況に2012年当時も現在もある。その中での「防犯活動」は何をすべきなのか当初は一人で考えていたが、「何をすべきか考える」ところから委員会活動をスタートさせた。

委員会の活動は「防犯のための情報交換」および「関連諸団体との連携」を中心に行うという基本方針で実質的な活動をスタートさせた

【再立ち上げ翌年】

2013年(平成25)から本格的な活動を開始。関係各位のご協力いただき、まず青少年育成委員会主催の夜間パトロールに参加(2013年2月～)を皮切りに毎月の街路灯点検(2013年3月～)をスタートさせた。この活動は今日まで継続し、また防犯委員会の中心的な活動となった。

【現在の活動】

多少の紆余曲折はあるものの、現在の防犯委員会は「ベイタウンは安全な街であるが、この状況が未来永劫継続する保証はない。状況が変化した場合に自分たちでその変化に気づけるよう身の回りを関心を持って常に見守る」ことをベースに行っている。また「見守り活動」は強制したところで定着させることはできないと考え「来るものは拒まず、去る者は追わず」というある意味「ゆるゆる」な委員会運営を行っている。

それでも再立ち上げ当初は委員会出席者が10名強であったものが最近では20名近い方の出席をいただいて委員会を開催するまでになった。また青少年育成委員会主催パトロール参加者は当初の一石1名から4～5名が参加するところまで活動として定着してきたと考えている。

【委員会活動を継続させる施策】

委員会再立ち上げ直後は委員長である一石が一人で委員会を切り盛りしている状況であった。やむを得ない状況であるとしても、一人に頼った組織運営ではその一人に何らかの問題が発生した場合に以前のような活動休止状態に追い込まれかねない。「活動休止」にならないために下記のような施策を取ってきた。

まず委員会議事録作成を委員長作成から委員の持ち回りに変更（2013年6月～）。副委員長の指名（2015年1月）。常任委員・幹事会の設定（2017年12月）。幹事会を立ち上げたことにより、委員長が何らかの理由によりいきなり退任しても防犯委員会の活動が休止に追い込まれる状況にはなくなった。

【最後に】

2012年6月に初めて委員長に指名されてから8年目に入った。幹事会は立ち上げたものの同一人物が委員長を長きにわたってつとめる状況は変化させることができず、ある意味これが委員会最大の課題であるかもしれない。

以上

一石 武宏 記

以下追加 図 （濱）



以上

1. 設立時の趣意および経緯

1997(平成9年)6月防災・防犯委員会として発足。

- ・ベイタウン防災組織の編成
- ・防犯防災計画の作成
- ・加盟各街区へ自主防災組織設立編成推進
- ・災害時の対応マニュアルの整備
- ・加盟各街区単位の防災訓練推進
- ・スーパー防犯灯設置対応
- ・防災訓練実施
- ・小学校の津波避難訓練

2. 設立時の状況

1番街、2番街、3番街、4番街、5番街、6番街、8番街、10番街、11番街
12番街からの選抜メンバーで活動開始。

3. 設立後の活動および体制

1997(平成9年)6月防災・防犯委員会として発足。

1999(平成11年)には、防災・防犯委員から各委員が独立し、防災委員として、
各月年6回の定期的な活動開始。

初年度(平成9年度)の自主防災組織は3街区、平成11年度には既に8街区と、
街区における自主防災組織と幕張ベイタウンの編成が着々と進む。

発足当初から専門委員として神谷秀美さん、その後に川端信正さんも加わり、
より高い防災知識と地域の防災力の熟度の向上に貢献していただいております。

1999年10月：美浜消防署打瀬出張所との懇談会

2001(平成13年)1月：防災委員会・会則。同7月には打瀬地区防災施設の充実
強化について千葉市長への要望書を提出しております。

2003年1月：幕張ベイタウン家庭用防災マニュアル、幕張ベイタウン大規模地震時
の各番街マニュアルの作成。

2005年8月：大規模地震時の幕張ベイタウンの協力体制についてのマニュアル、
10月には幕張ベイタウン我が家のセキュリティと地域防災力に強化に邁進。

2011(平成23年)3月に東日本大震災が発生。地域防災のあり方が見直されました。
防災委員長木村さんを陣頭に2012年11月：避難所運営委員会設立準備会議を
設立。幕張ベイタウンにおける在宅避難と各学区における避難所運営の方向性を確立
しました。

川端信正さんには打瀬中学校のEX講座で長年に渡り防災活動の啓発と活動の輪を広
げていただいております。

2013年度から春にはそなえパークの日、秋には九都県市合同防災訓練と実際に即し
た避難活動を継続。

2016年打瀬小学校、2017年美浜打瀬小学校、2018年海浜打瀬小学校、
2019年打瀬中学校と毎年モデル校を設け、各避難所開設マニュアルの完成に至る。

4. 現在の活動および体制

2020年2月現在、森川委員長、吉田副委員長、専門委員、川端さん神谷さん
常任委員、三原さん、赤川さん、釘嶋さん。自治会連合会から伊藤さん、木村さん
各街区の防災委員で構成活動中です。

打瀬地区の自主防災組織も30組織となり、各番街における防災意識の向上に貢献し
ています。

5. 将来の希望

打瀬地区における防災の基本は

自助：在宅避難

共助：街区ごとの自主防災組織

公助：避難所開設

と各自の役割を今より以上に浸透できればとの思いです。

6. その他、今後の課題

UR都市機構、千葉県住宅供給公社を巻き込み地域における防災力をさらに
高めたい

以上

吉田 一成 記

以下 追加の写真など(濱)



打瀬小校庭 防災関連配置



非常用井戸と防災(打瀬小)

幕張ベイタウンでの避難所運営の留意点

大規模災害時、ベイタウンの基本は在宅避難

ベイタウンは鉄筋コンクリート構造のマンションで構成されており、大規模災害時でも住居倒壊などの可能性は低いと考えられる。

大規模災害時には、各街区ごとに災害対策本部が立ち上げられる。街区内の住民同士の助け合いが重要

救援物資などは避難所ベースで配給される

避難所の運営方法が重要となる。

学校の早期再開へ配慮

避難所が学校運営の妨げとなる要素を出来るだけ最小限の抑える。

以上

以上

「自治会連合会 打瀬 3 丁目公園管理運営委員会」

2019.12.8

1. 設立時の趣意および経緯

1998年（平成10）5月24日企業庁宛て自治会連合会から「総合スポーツ公園整備に関する要望書」提出。2001年頃から公園の仕様を企業庁・千葉市と住民が検討協議する話し合いを持った。2003年（平成15）5月公園の利用調整、管理運営の一部を住民が担う目的で、「打瀬3丁目公園を考える会」を起こした。



ベイタウン内スポーツ団体であるMBTテニス、ベイバスターズ（少年野球）サッカー、グランドゴルフと自治会連合会及び民生児童協議会などから13名が参加した。後に2005年4月打瀬3丁目公園管理委員会として、委員会会則を定め、自治会連合会特別委員会となった。千葉市宛て利用調整など住民自主管理を提案した。

2. 設立時の状況

1997年からベイタウンテニスクラブが自治会連合会を通じ、テニスコート設置の要望を千葉県企業庁・千葉市へ出していたこと、ベイバスターズ（少年野球）や、住民から少年野球が出来るグラウンドの要望等があり、建設計画当初から検討協議の場が出来ていた。少年野球であっても、グラウンド（多目的広場）のフェンスの高さを10mとすることを千葉市側が条件としたため、企業庁の設計予算上難航したが、実現にこぎつけた。2004年12月企業庁から公園の移管を受けた千葉市が、公園利用条件書を提示。2005年4月から自主管理の形で利用団体が登録し、公園全体の共通鍵でもあるコートの鍵を千葉市美浜公園緑地事務所から預かり、利用調整を実施した。

3. 設立時の活動および体制

設立時の利用登録団体は、多目的広場は少年野球、サッカーとグランドゴルフの9団体とテニスの40団体である。多目的広場、テニスコートはいずれも3分の1は常時誰でも自由に利用できるように定めたルールを運用、一般開放とした。

社体（現スポーツ振興会）と連携し、春夏のソフトボールやテニス練習会、大会の開催、各利用団体に呼びかけ、清掃協力会として毎月2回、ゴミ拾いや雑草抜きなど公園整備の一部分を担った。同公園の長椅子ニス塗りや新しい土砂をいれてグラウンド整備や、オムニコート用の砂をベイバスターズやMBTテニス連合が千葉市へ寄付の形で提供の支援をした。

4. 現在の活動および体制

委員会設置時と同じ体制で、委員長はベイバスターズとMBTから原則3年交代で選出され継続している。千葉市美浜公園緑地事務所とは、その都度協議として自治会連合会特別委員会である打瀬3丁目公園管理運営委員会、MBTテニス連合、グリーンサム、菜の花クラブと風のガーデン代表のメンバーにて不定期ながら、年1~2回の会合を持ち、現状の問題点や改善提案などにつき協議運営している。最近では同公園施設の破損、劣化や夜間騒音の対策としてバスケットコート利用のルールなどを協議。夜間の公園照明など問題点や対応策等を、公園緑地事務所の業務に協力している。千葉市は住民管理の好事例として、平成20-21年度のパークマネジメント対象公園として採用。

5. 将来の希望

打瀬3丁目公園の経年劣化、テニスコートの表面オムニの張替えや多目的広場のフェンスの補修、台風被害にあったベンチの屋根補修など費用負担を含め、管理責任者の千葉市との折衝。

以上
辻 和夫 記

【はじめに】

ベイトOWNまつりは昨年第22回目を開催し、またイベント委員会は自治会連合会の常設委員会として活動していたが、現在のようにイベント委員会がベイトOWNまつりの運営を行うかたちにはなっていなかった。本稿ではベイトOWNまつり運営とイベント委員会との関係の変化を中心にその活動の変遷を中心に述べる。

【運営体制改革】

2012年にベイトOWNまつりの運営に関係するようになり、2015年には「ベイトOWNまつり事務局長」を拝命し、2016年にイベント委員長を拝命した。2014年までのベイトOWNまつりは「実行委員会」形式で運営されていた。自治会連合会事務局が各街区からの応援を募って運営する形式であった。各街区から実行委員を出してもらうことは必ずしも容易ではなく、ぎりぎりになるまで実行委員が定まらないことも見受けられた。各街区代表者が実行委員である必要はなく、誰が委員なのか確定しづらい状況があった。

この状況を改善するため、2015年から実行委員会を廃止し、イベント委員会がベイトOWNまつりの運営を行うこととした。各街区への応援要請はイベント委員会から直接街区に要請する形に変更した。これにより「誰が委員なのか？」という問題を解消し、かつ少人数で意思決定をする体制に変更した。さらに2019年にはイベント委員会内に自治会連合会会長・副会長で構成する「幹事会」を設置し、さらに意思決定を迅速かつ確実に、すみやかに実行に移す体制へと変更した。

【フリーマーケット改革】

次に着手したことはフリーマーケットの正常化である。例年フリーマーケットへの出店希望者は出店可能区画を上回る状況が継続していた。直接・間接問わずこのことがフリーマーケット運営に大きな問題を引き起こしていた。一番の問題は「重複申し込み」である。

ベイトOWNニュース2013年5月号でも取り上げられているが、一グループで何人も応募する出店者が少なからず見受けられた。さらに、同一グループ構成者が同時に抽選会に参加し、複数の当選区画を得た場合、当該グループに一番都合が良いと考える区画を選び、他はキャンセルするような行為も横行していた。イベント委員はこのような行為を目の当たりにしても何もすることができず、とても不快な気持ちにさせられたことを今でも鮮明に記憶している。

このような状況を打開するために毎年さまざまな手を打ってきた。まず2014年には応募状況から明らかに重複申し込みであると判断されたものはベイトOWNまつりHP上で「無効」を宣言した。「イベント委員会は重複申し込みをチェックしている」ことをアピールすることが目的であった。もちろんこれで全ての重複申し込みが排除できるわけではなく、抽選会の状況から判断するに少なからず重複申し込みがあったと判断している。

2016年には抽選方法を変更した。それ以前は応募者を大きく二つのグループに分け、45分間であればいつ抽選に来ても良い形式で行い、またその場で当落および区画を決定していた。また注意事項は当選者に紙で渡すだけで個別の説明を行っていなかった。2016年か

らは従来の抽選会を「説明会」に変更し、その 1 週間前にイベント委員会で「公開抽選会」を行う形式に変更した。公開抽選会で「当選」「キャンセル待ち」「落選」に振り分け、かつ説明会への出席時刻を指定する方式にした。この変更の目的は

1. 「抽選会」混雑防止
2. 重複申し込み対策（同じグループの人間を分断する）
3. 出店者への説明の徹底（説明を聞かないと区画抽選できない）

であった。

このような対策を取ってきたが、重複申し込みに起因すると思われる問題は解決していない。年によって差はあるが、公開抽選会での当選者の 2~4 割は説明会前のキャンセル、あるいは説明会無断欠席により出店していない。特に 2017 年は当選者の 28%が説明会無断欠席するという状況であった。2019 年においても当選者の 17%が説明会を無断欠席している。

この状況を放置することは「正直者が馬鹿を見る」ことにつながりかねず、ゆゆしき問題ではあるが、これ以上の対策が思いついていないのが現状である。

また出店者募集～区画決定までの業務を先に述べた抽選方法の変更だけでなくさまざまな効率化、簡素も合わせて実施してきた。これらは、特定の個人に頼らないベイトタウンまつり運営ができるようにすることも目的としており、別の表現をするならば「見える化」を順次行っている。

【ベイトタウンまつり収支改善】

最後に、今も取り組んでいる課題として「ベイトタウンまつりの収益改善」がある。2017 年には自治会連合会からベイトタウンまつりのために約 27 万円を支出した。自治会連合会会員からの拠出金は毎年 250 万円弱であること、自治会連合会の財政状況は決して楽観視できるものではない状況にあり、ベイトタウンまつりへの支出を減少させることは大きな課題であった。2018 年に自動車展示を復活させたことを皮切りに、ベイトタウン周辺の各種団体に出店していただき、その出店料による収入増を図ってきた。予算上は自治会連合会からの補助をゼロにはできていない状況ではあるが（2018 年は 25 万円、2019 年は 15 万円）決算では補助をゼロにすることに 2 年連続成功している。

【最後に】



ベイトタウンまつりの様子

ベイトタウンまつりを永続的に実施するためには、安定した財政基盤、特定の個人に頼らない組織運営、時代の変化に伴う運営の変化が必要になる。イベント委員会は守る

べきものは守り、変えるべきものは変えるという方針の下、これからもベイトタウンまつりの運営および改善に努めていく所存です。

委員長 一石 武宏 以上
記

「610地区 民生委員・児童委員協議会」

2019.12.8

I 初めに

ベイタウンも、既におよそ2.5万人、9千世帯強を越える大きな街となりました。ここに610民生委員・児童委員協議会(以下民児協)のはじめの経緯をまとめました。民生委員・児童委員は、厚生労働大臣並びに千葉市長から委嘱された委員で、準国家公務員です。3年毎12月1日からの任期で、地域からの推薦によって成り立っています。

II 設立時の状況・経緯

ベイタウンは、新しい街として平成7年発足しましたが、当時、千葉市としては、人口も世帯数も少ない関係で、5名の委員が推薦され、平成10年(1998)12月から活動を、隣の「幕張西地区民児協」として活動を開始した。しかしながら、間もなく2名の委員が都合により退任されて、残られた3名(得藤圭子(12番)、海下英子(3番街)、藤井文代(18番街))の委員が、民生委員を一から勉強すべく美浜区民児協から、膨大な資料を得て、また各署での講演会にも参加し、民生委員について必死に勉強をした。また、千葉市などとの状況把握は、都度、幕張西に行かねばならず、大変不便であった。

一方、活動として、地域住民からの相談や、敬老会の実施に当たりました。

担当区域は、パティオス1-6、7-9、10-13、16-18、更に後にパティオス13、15、およびGPE、GPW、CPWも担当区域となり、人口も1.1万人に増え、高齢者も徐々に増えてきて、大変な苦勞をされていた。

そんな状況から、

民生委員の次期改選期である平成13年(2001)12月1日に向けて、ベイタウン地区の幕張西地区からの独立と委員の大幅増強を図ることとなった。

1. 610民児協発足の状況

平成12年(2000)頃から、今後の人口増加を踏まえて、当時のベイタウン自治会連合会会長らの努力で、千葉市に地区の独立を要請し、平成13年夏頃に認められました。

また、13年10月から12月にかけて、自治連の元で、新たに民生委員・児童委員を増員すべく、各自治会にお願いしての推薦や、街中で活躍している方々に声をかけ9名の民生委員と2名の主任児童委員を推薦対象として、千葉市に提出した。

一方、委員候補者11名間では認識の共有化と打合わせを行いつつ、引き継ぎ方法、地区内の他団体との関わり、及び会長(副)の選出等を検討した。

2. 610民児協の発足

自治連須田会長や砂原氏等のご尽力により、幕張西地区から独立と同時に、平成13年(2001)12月1日付で、厚生大臣、千葉市長からの委嘱を受け11名で発足することとなった。また、この時から、地区毎に、2名の主任児童委員の配置と民生委員が児童委員を兼ねる事となった(法改正)。

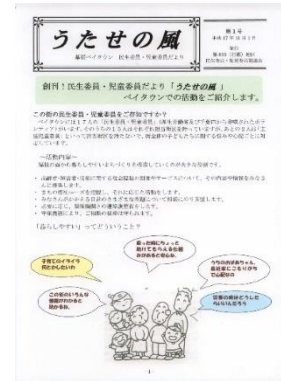
残念ながら、独立前の3委員は、全員退任されたが、新委員には、十分な引継ぎが行われた。

当初は、独立したとはいえ、全員が全く未経験の委員で、活動資金も無かった。

そこで、美浜区民生児童委員協議会 依吉所長にお願いし、数度に亘り民生・児童委員の「イロハ」を教えてもらう勉強会を行い、大変役にたった。
特に、慣れない、「個人情報の扱い」には、その後も大いに気を使っている。

3. 発足時の体制など

- 1) 対象街区； PT 1～13、15～18、21、
ミラリオ、CPW、CPE、GPW、GPE、
- 2) 人口など； 11,262人、世帯数 約3,700
平均年齢 31.5歳
高齢者 65歳以上 311人、 70歳以上
140人、 80歳以上 38人
- 3) 体制 (11名)
会長 濱 宏純、 副会長 川口正昭、
副会長兼会計、吉川(主任児童委員)、
委員 金田寅雄、吉田ちづ、松本恵子、西田のり子、
角幡玲子、小川裕二、吉識敬子、西村侑身子(主任児童委員)



4. その後の主な活動

- 1) 毎年5月を中心に高齢者宅を訪問し、状況の確認(市内一斉に実施)まとめ
- 2) 協議会内に 専門部会の設置による専門活動の推進 (2006.1～)
 - イ) 総務部会
 - ロ) 高齢者部会
 - 敬老会およびグランシニア食事会の開催 (自治連、シニアクラブ)との共催
 - 街区(一部)での高齢者茶話懇談会
 - ハ) こども部会
 - 子育てサロンの開催
 - 学校・保育園・子供ルームとの連携
 - 地域保健推進員、母子福祉相談員、食生活改善推進員 などとの連携
- 3) 広報誌「うたせの風」の発行 1回/年(2005.11～)
- 4) 日々の住民からの相談要望に対しての相談窓口であったり、関係行政機関への橋渡し等。以後、3年ごとに、委員の改選、増員を行いつつ、住民の増加に伴う活動の変遷を経て現在に至っている。

5. 現在の体制 (令和元年 10月 31日)

- 1) 対象街区； 住宅地は、ほぼ計画通りに完成。 分譲；33街区 賃貸；9街区
人口など； 世帯数 9,066 人口 25,291名 平均年齢 39.1才
高齢者数； 65才以上 2,336名/75才以上 909名/80才以上 472名
- 2) 体制 ； 熊倉会長以下民児委員 18名、 主任児童委員 2名、 計 20名

以上
熊倉英雄・確認 濱 宏純 記

1. 設立時の趣意および経緯

平成8年に打瀬中学校花香校長（初代）より推薦されて、青少年補導委員として打瀬中学校区より 三名【君島（当時6番街）・山田（3番街）・西村（当時2番街）】で地域のパトロール及び地域の子ども達の見守り活動（地域補導）に取り組みました。

その後小中学校保護者会設立に伴い、平成9年に打瀬中学校区青少年育成委員会設置準備委員会を立ち上げ学校・保護者会・地域（自治会等）の三者にて話し合いを重ねました。【保護者会からは打瀬中学校会長西田さん（5番街）他・連合自治会初代会長大武さん（当時1番街）他・学校職員から打瀬中学校渡辺校長、齋藤教頭・打瀬小学校溜校長、穴倉教頭他】 当時は隣の学区である幕張西中学校区青少年育成委員会に補導委員は属していましたので、アドバイスをもらいながら教育委員会青少年課（現在は子ども未来局）に指導を仰ぎ、平成10年6月6日発足に至りました。

2. 設立時の状況

育成委員会としての委員は当時35名でスタートしました。

設立当時は打瀬小・中学校が軸となり、地域の子ども達にとって何をすべきかをひとつひとつの活動を通して学び今に至っています。そのひとつがパトロールです。

各番街に自治会が発足して連合自治会の皆さんと一緒に街の中で建設中の危険箇所や、外部からの違法駐車による通学路の妨げなどを見て回ったり、不審者（ホームレス等）情報などを警察に届けたりしました。

登下校時通学路においての危険箇所等、各保護者会を通して注意喚起もしていました。

3. 設立時の活動および体制

打瀬地区として4部会【環境非行対策部・健全育成福祉部・レクリエーション部・広報部】で活動すると共に、青少年補導委員活動も含め千葉市教育委員会主催の活動にも参加し、各中学校区との連携をとっています。

環境非行対策部を中心とした地域の子ども達を守るためのパトロールは、育成委員会活動の根幹となる活動です。継続する事で抑止力となり街の安全につながっていると思います。

健全育成福祉部では、講演会や研修会等で子育てに関わる様々な情報を発信しています。

レクリエーション部は育成委員会初年度よりもちつき会を4番街の前で開催し、当時の街のイベントでは最初のように思います。

それからベイタウンまつりで焼き芋、商店街と一緒に盆踊りを開催した。街の風物詩の始まりでした。



広報部は当時から活動の様子を年2~3回発行し続けています。

4. 現在の活動および体制

昨年育成委員会は 20 周年を迎えました。

4 学校保護者会・地域協力者・学校職員での体制で 108 名となりました。

設立当初から比べると約 3 倍の委員数で活動しています。

各部での取り組み方もなるだけニーズにあった内容となるように、部員たちで反省会を持ち、そこで話し合いを重ねて今に至っています。

盆踊りなども 3 年前から大きな櫓を組みカラフル提灯の灯りの下で、大勢の方々が踊る姿に継続の力を感じます。

このように、時の流れに沿って活動も少しずつ変化して続けております。



5. 将来の希望

これからはベイトウンとベイパーク両地区が活動範囲となり、新たな取り組みをしなくてはなりません。このことについては以前から議論を重ねて来ましたが、子ども達の活動範囲でのパトロール・保護者会との関わり方そして地域での考え方が難しい課題となります。

その為には、活動の見直し・軽減化が必要となるでしょう。

次の担い手となる方々に関わりやすい育成委員会を目指していこうと思います。

6. その他

20 周年の記念誌で発行した「打瀬中学校区青少年育成委員会の歩み」の記事を記します。

ベイトウンにある 3 保育園・各子どもルームの開設時期も記載しております。

各項目の内容と重複されている事をご了承ください。

【育成委員会は、地域の青少年に関わる機関や団体と連携して、子ども達の健全育成活動を推進していくことを目指している組織です。千葉市内の各中学校区にあり、事務局は中学校に置かれています。青少年相談員、補導員、自治会役員、スポーツ推進委員、民生委員児童委員、学校教職員、保護者会役員、地域協力者等から選出され、市長から 2 年任期で委嘱された委員で構成されています。今から 23 年前、1~6 番街と打瀬小学校、打瀬中学校でベイトウンは始まりました。まだ打瀬地区に育成委員会はなく、当時は幕張西地区の委員会が打瀬地区を含めて活動していました。街開きから 2 年経ち、リンコスが開店しベイトウンバスの運行が始まった頃、設置準備委員会が開かれ、翌年の平成 10 年 6 月 6 日打瀬中学校区育成委員会は発足しました。初代会長は、現在も夏休みラジオ体操でお世話になっている 鎌田繁さん、学校役員や地域協力者 35 名でスタートしました。同 7 月には『育成委員会だより』創刊号が発行され、夏休みと冬休みの地域パトロールや、「こども 110 番のいえ」設置活動が始まりました。現在は環境・非行対策部を中心に育成委員会の大事な活動として月 1 回夜間パトロールを行なっています。年が明けると、育成委員会主催の初めてののおもちつきが 4 番街広場で開かれました。8 月には商店会主催の夏まつりで盆おどりを催し、もちつき会とおどりは今もレクリエーション部の二大イベントとなっています。平成 12 年、ベイトウンと幕張海浜公園の間を渡るマリーンデッキが完成。会長は君島研二郎さんへバトンタッチされました。平成 13 年に海浜打瀬小学校が開校。育成委員会はベイトウンまつりにやきいも屋さんとして参加し、活動の幅を

広げていきます。翌年には海浜打瀬小学校こどもルーム、打瀬保育園ができ、ベイトウン・コアの共用も始まり、子育ての環境が充実していきました。平成 18 年に美浜打瀬小学校が開校、こどもルームも併設されました。平成 19 年にはみらい保育園が開園。健全育成・福祉部主催の「親のしゃべり場」第 1 回が 5 月に開催されました。平成 22 年からの会長は西田のり子さん。4 校で構成される 育成委員会メンバーは 90 名を越すようになりました。平成 23 年には茶々まくり保育園が開園。ベイトウンが街開きした頃に生まれた子ども達は高校生となり、育成委員会も携帯電話やネットモラルなどの講演会を開催しました。平成 26 年からは、西村侑身子さんが会長を務めています。打瀬小学校こどもルームが開設され、打瀬地区全ての小学校の敷地内にこどもルームができました。広報部が作成している『育成委員会だより』は現在約 1 万部 発行しています。3 年前にカラー紙面になりました。創刊号より『ベイトウンニュース』に折り込んで配布して頂くことで、地域全戸の皆さんへお届けできています。この場をお借りして、改めてお礼申し上げます。来年、打瀬小学校と打瀬中学校には若葉地区からの子ども達が通うようになります。活動内容は時代によって変化しながら、これからも地域の子どもたちが健全に育っていけるよう、家庭、学校、地域が連携して、より多くの大人が関わり、自分たちも楽しみながら、育成委員会の活動は続いていきます】

以上
西村 侑身子 記

「幕張ベイタウン 商店街振興組合」

2020.3.15

はじめに

幕張ベイタウン内のバレンタイン通り、美浜プロムナードを中心に広がる商店街は、1995（平成7）年7月に「幕張ベイタウン商店会」として16店舗でスタート、年々店舗数を増やし、2013（平成25）年4月に法人化組織「幕張ベイタウン商店街振興組合」になった。

現在、医院や薬局、コンビニや飲食店など87の店舗で構成されている。歴史の浅い街である幕張ベイタウンだからこそ、地域住民と商店街とが一緒になって歴史を生み出していこうという機運が非常に強く、様々なイベントが企画・実行されてきている。



1. 誕生、および当初の活動経緯

ベイタウン街区の最初の住宅建設が出来上がる前から、商店計画が進められていた。平成6年3月に開店のボーンメッセの池上重徳氏は、未だお客のいない店舗で大変苦しした。

4月になり、プロムナードの中で少しずつ商店が揃うようになってきた。

商店会初代会長の鈴木 誠氏（現船橋市在）は、社命で最初からこの地の花屋（セリオ）を任せられ経営していたが、いきなり、まだ少なかった商店をまとめるべく、会長を引き受けることとなった。

全ての店長が初顔合わせであり、商店会の運営は、全くの素人であったが、マンション販売会社の指導を受けてスタートした。

最初に、加盟商店を住民などの皆さんに知ってもらうために考えたのが、子ども対象のイベントであった。12月にメイン通りを歩行者天国にして、クリスマスゲーム大会を行った。お金のかからない吹矢などゲームを行い、各店からの寄付を景品とした。なお、新聞社にもPRして、千葉版に掲載された。

次年度は、夏祭りや歳末大売り出し福引抽選会を行ったが、各店や、ビール会社からの生ビール、近隣ホテルの高額食事券及び、自転車やヘアードライヤーなど戴き、更に越中おはら風の盆踊りも行われた。これらは、前年同様 新聞の地方版に載り大いなるベイタウンの宣伝になった。その後、1番街より6番街まで次々とお店がオープンし少しずつ街がにぎわいだした。

発足時役員は、会長（平成7年6月-11年6月）鈴木誠氏、監事は池上重宣氏の二人である

2 その後の主な活動の経緯

1996年8月 ベイタウン夏祭り開始

2005年11月 千葉ロッテマリーンズ 優勝パレード

2006年4月 バレンタイン通りに改称（旧富士見通り）

2006年 クラシックカーのパレード、年末福引大会終了

2009年 コア横広場で、朝市（偶数月の第3土曜日）開催

2010年3月 情報誌（はっぴー・もーる）第1号発行

2010年11月 千葉ロッテマリーンズ 再び優勝パレード

（西村監督）



朝市の風景

2013年（平成25年）4月1日より、ベイタウン商店街振興組合として法人化（会長山根治仁氏）。

近年は、オータムフェスタ、ウィンターフェスティバル、商店街のオリジナル商品群（らーめん、トートバック、ワイン、おこげ、清酒うたせなど）の発売のほか「幕張新都心賑わいづくり研究会参加」、「ベイタウン商店街の商標決定」、「駐車場の開設運営」など行っている。

以上、鈴木誠氏、池上重宣氏、山根治仁氏（現会長）の手記・原稿などよりまとめ 濱

「商店街振興組合 うたせ認知症を考える会」

2019.12.9

1. 「うたせ認知症を考える会」発足の背景とキッカケ

「うたせ認知症を考える会」は、2015年10月に地域住民による自発的なボランティア団体として発足し、認知症の人と家族が普通に暮らせる街づくりに繋がりたいと、活動が始まった。

認知症と診断され困惑している人、戸惑いながら介護している人、介護の苦悩を乗り越えてきた体験者や寄り添う仲間たち、介護の専門職たちが世話人となって、「まずは、居場所づくりを！」とくベイタウンかふえの開設準備を始めた。

＜筆者の感慨＞

世話人の一人である筆者は、2007年に幕張ベイタウンへ認知症のく母と老老介護を担っていた父を呼び寄せ、両親は住み慣れた故郷を離れました。

日々、「自分が壊れてゆく、く家>に帰りたい！」と嘆く母でしたが、それでも元気でした。

父の突然の入院もあり、母はグループホームへ入所することになり、その8カ月後に、まさかの転倒骨折で3ヶ月の入院。母の認知症は進行し、そして、特別養護老人ホームへの入所でした。

母の人生にとって、これで本当に良かったのか？！心折れそうな日々でした。

現在、認知症カフェのボランティア活動をしていますが、当時、田舎の両親の老老介護の実情やアルツハイマー型認知症を理解しておらず、介護保険の知識すら皆無に近かった。

母が千葉に移り住んで13年間、楽しみも用意してあげられず、とても残念に思っている。

そして、くベイタウンかふえ>があったら、母の心はどんなに心安らいたろうか…。

2. 認知症カフェく「ベイタウンかふえ」の開催を可能にできた要因

- 1) 2015年春、認知症の人とその介護家族の集いに参加したこと
- 2) 2015年10月に「うたせ認知症を考える会」を発足させ、認知症を学ぶく集い>ができたこと
- 3) 「ベイタウンかふえ」を開催する企画運営機能として、ボランティアの世話人同士が自由に考え、発言し、情報共有する活動体（ワイガヤ会）を作れたこと
- 4) く介護する人にとって楽しい居場所があればいいね！>と共感した自発的ボランティアのカフェ・スタッフが集まったこと
- 5) 朝日新聞厚生文化事業団の「ともにつくろう認知症カフェ応援助成」の活動支援があったこと
- 6) 千葉県社協打瀬地区部会・民児協から開催場所の確保について協力があったこと。
うたせ認知症を考える会の認知症カフェ「ベイタウンかふえ」は、こうして開催可能となった。

3. 「ベイタウンかふえ」発足までの経緯

2015年10月から、後に世話人となる3人～4人と介護やボランティア活動の進め方について話し合い、草の根のボランティア団体の「うたせ認知症を考える会」を発足させた。社協地区部会や民生委員の協力もあり、く認知症を考える>集会を、2016年1月から3か月毎に開催した。

- 1) 2016年度認知症を学び、住民ニーズを収集・分析

2016年は4回の集会を開催し、延べ約200名の参加を得て、く住民の声>を収集し、自発的に参加した住民と医療・介護の専門職のアドバイザーや民生委員が、く住民の声>をまとめた。認知症の人と介護家族のく居場所>としての「認知症カフェ」の開設と運営を活動目標とした。

4. 2017年度～2019年度「ベイトウンかふえ」の発足から、その後の開催と関連活動の経緯

朝日新聞厚生文化事業団から2017年度以降3年間の応援助成（助成金支援・情報支援）を戴けたことは、草の根のボランティア活動団体にとって貴重な支えになっている。

- 1) 2017年2月22日にシンポジウムを開催し、「ベイトウンかふえ」の開設を宣言した。このシンポジウムでは、千葉市認知症医療疾患センターの臨床心理士が、認知症の人やその家族が気楽に参加できて楽しめる〈認知症カフェ〉の必要性について講演をした。
- 2) 2017年4月12日（水）に第1回「ベイトウンかふえ」を開催した。以後、毎月、第2水曜日に開催し、世話人とスタッフの36名が、分担しながら認知症カフェを運営している。
- 3) 夏休みに開催する「学びの集い」では認知症サポーター養成講座を開設、また、〈ユマニチュード〉を知り、「大切に思う人のため」、「人間らしさを尊重し続けるため」の新しい介護メソッドを学んだ。
- 4) 2018年末には、千葉県立保健医療大学・研究室の協力により認知症カフェの〈ロジックモデル〉を作成し、認知症カフェ評価のためのチャートを用意した。
- 5) 2018年秋、2020年新春に、〈ベイトウンかふえ新聞〉を発行し、全戸配布した。
- 6) 2019年度から商店街振興組合の賛助会員になり、「青空かふえ」を共催した。
- 7) 2019年10月に共催した打瀬公民館講座・〈早瀬昇さんの講演会とワークショップ〉では、ボランティアの〈参加の力〉を学び、多くの参加者から共感を得た。

5. これからの「うたせ認知症を考える会」の行動展望

- 1) 50歳前後の人口がピークを示しており、超高齢化の進行と共に、一人暮らしの高齢者課題がクローズアップされている。以下住民の課題について相談窓口役を担ってゆきたい
①認知症の親の介護②遠距離に居住する親の暮らしの心配とケア③一人暮らしの親の介護支援④見守り・生活支援のためのヘルパーリンク情報⑤利用したい介護保険制度⑥地縁血縁のない地域へ親を呼び寄せる時の留意点
- 2) 若年性認知症の発症と家庭での介護は、筆舌に尽くし難い問題であり、いずれ何人かに一人は、認知症を発症するリスクがある。たとえ認知症が発症しても、困惑しない様、〈自分たちが認知症になった時、どう生きるのか〉を考え、一緒に学んでゆきたい。
- 3) 認知症になっても普通の暮らしができる街にするために、一人暮らしの高齢者や子育て中のママ・パパたちと大勢で食事する〈食事と健康カフェ〉の開催を継続して応援してゆきたい。
- 4) これからも「ベイトウンかふえ」は、ボランティアと専門職が連携した〈認知症カフェ〉として運営し、〈千葉市認知症ケアパス〉の良き事例にしたい。
- 5) 「ベイトウンかふえ」へ来訪の児童文学者やお寺の住職、新聞社の編集者・記者は、異口同音に【面白い！だれが認知症の人かわからないくらいだ！】と感想を寄せてくれている。
また、「まくはりポータル」（検索）に毎月掲載している「ベイトウンかふえ」の写真記録はアーカイブされ、海外在住の元ベイトウン住民も見ている。
「ベイトウンかふえ」は、2019年度3月で満3周年を迎えるが、ベイトウン発の〈認知症カフェ〉の素晴らしさをこれからも継承してゆきたい。
- 6) 令和の時代も「うたせ認知症を考える会」は、代表世話人と共同代表・会計・広報企画・監査・事務局、カフェ・スタッフの担当制で運営すると共に、新たなボランティア・スタッフの参加も募りたい。

以上

山木 則男 記

1. 設立前のベイタウンの状況

1) 平成7年より、幕張ベイタウンに住人が入居を始めた。

イ) 最初に、各街区ごとに「管理組合」及び自治会が結成された。

その後、千葉市の指導のもとに、打瀬地区に自治会連合会が発足した。平成9年(1997)6月 設立総会 当初6街区

ロ) 一方で、有志により、幕張ベイタウンシニアクラブを発足
(平成12年(2000)5月)

ハ) 更に、福祉に関しては、民生委員・児童委員協議会(民児協)が、「幕張西地区」の一部として活動し、平成13年(2001)12月に610民児協として独立・活動を開始。 註) シニアクラブ、及び民児協の「はじめ物語」は、別途参照願います。



2) 地区部会設立に至る経緯

ベイタウンは、高齢者もまだ少なく、平均年齢も低いこともあり、「福祉」を考えるには、その機運の高まりは少なかったが、県内外の他地区の状況から、街が若い状況の段階から、将来を見据えて、対応が必要との意見も多くあった。

美浜区では、すでに、ほぼ、中学校区単位での地区部会が結成されていた。

幸いにも即ち、自治連、シニアクラブ、民児協、青少年育成委員会などの団体も立上っており、彼らリーダーたちの熱意と使命感等から早々に打瀬地区部会を立上げることになった。

地区部会設立については、千葉市社会福祉協議会(市社協)の手続きが定められていて

イ) 関係者への趣旨説明

ロ) 設立準備委員会の設置

ハ) 準備委員会の活動

ニ) 設立総会

などが必要になっていた。

概ね、千葉市社協美浜区事務所のご協力にこの手順に従って進められた。

主な経緯は、平成15年(2003)6月 関係者が集まり、社協打瀬地区部会に関する第1回勉強会の実施。講師は、美浜区社協の所長他

① 平成16年(2004)6月 自治会連合会の下部組織として福祉委員会を設立し、第1回会合を実施

② 平成18年(2006)7月 第2回福祉委員会(地区部会の機能 会費、など話合う)

③ 平成18年(2006)11月25日 福祉に関わるベイタウンの各団体や有志が集い、福祉問題についての意見交換会

④ 福祉委員会を軸に、自治連(伊藤正昭)、シニアクラブ(砂原正行)、民児協(濱 宏純)が中心となり 社会福祉協議会 打瀬地区部会の設立準備会に進んだ。

(規約関係、推進体制、街区への加入、市の助成、予算規模 等々)

以上 全ての基本的な要件を定めた上に発足した。

2. 発足時の状況

平成19(2007)年9月30日 18時より公民館(以下コア)で設立総会を行うに至る。
(設立総会議事録より)

- ① 設立時の状況 まずは賛同してくれた 7 街区で、加入会員は 943 世帯でスタート
- ② 規約類は、
 - 会則 ; 地区部会会則
 - 要領類 ; 会員登録の進め方要領、情報及び広報の進め方、庶務事項内規、助成金申請に関わる手続き、会計分類と処理、その他。
 なお、千葉市社協は、定款、福祉推進員設置要綱、地区部会助成金要領、会員規定などがあり、参考にした。
- ③ 体制； 部会長（自治連）伊藤正昭、 副部長（シニアクラブ）砂原正行、副部長（自治連）遠山孝行、同（民児協）兼事務局 濱宏純、会計 山口正士、小畑 幸保他
- ④ 組織（委員会）；高齢者福祉（砂原）、児童母子福祉（西田）、障がい者福祉（波木）、
- ⑤ ボランティア（高橋（榮））、福祉ネットワーク（辻）、広報（落合）、福祉活動推進員、
- ⑥ 平成 19 年度予算 約 50 万円
財政基盤は、各街区の賛同会員の会費と千葉市社協からの助成金に依っている。

3. 現在の状況（2019.12）

加入街区； 分譲住宅 33 街区中 26 街区+特別会員（1） 9 賃貸街区未加入

加入世帯数；5,528 世帯

年間のイベント参加人員；5,810 名(平成 30 年度データ)

- 1) 体制；部（副）会長、事務局、会計、監事、各委員会委員長、福祉活動推進員、同協力員
- 2) 組織； 委員会（高齢福祉、母子児童福祉、障がい福祉、認知症福祉、ボランティア、福祉ネットワーク） および福祉活動推進員、各街区福祉担当
- 3) 令和元年度予算 約 260 万円
- 4) 現在の主な地域活動
 - ① 高齢福祉；いきいきサロン、散歩クラブ、ふれあい食事サービス、うたせシニア体操
 - ② 児童母子；子育てサロン、親子ふれあい教室、食育講習会、盆踊り・こども餅つき会協賛、わくわくコンサート、夏休みキッズ教室
 - ③ 障がい者福祉；手話べんきょう会、ひだまりスペース、ほっとスペース、小中学校出前講座
 - ⑦ 認知症；認知症の方と家族の会（そよかぜ）、啓発講習会
 - ⑧ ボランティア；ボランティアの募集管理、日帰りバス旅行
 - ⑨ 福祉ネットワーク；うたせミニシアター、広報活動（「ハロー打瀬」、「〇〇月の社協」
 - ⑩ 福祉活動推進員；将棋サロン、うたせおやかフェ、手芸サロン、E X 講座、街区見守り活動の推進
 - ⑪ 全般；敬老会(自治連、民児協との共催、街区未加入の参加推進、

以上



平成 24 年 5 月 総会風景

濱 宏純 記

高齢者福祉委員会では、以下の散歩、おしゃべり、食事会を中心として、高齢者がこの街で、元気に楽しく生活していけるようにサポートしています。



1. 「ふれあい散歩クラブ」

始まりは、2008年（平成20年4月から）で以後、毎月1回実施している。

当時、街に健康増進のため「ウォーキングクラブ」があり、多くの会員が参加できる仕組みになっていたが、高齢者の方には歩く距離、歩く速度等に適応できず、参加が難しいという意見が多くあったことから、高齢者でも気楽に参加できる場を提供した。それが、「ふれあい散歩クラブ」である。

このクラブ名の通り、気楽にお喋りをしながらゆっくり歩いて、ベイタウンの各街区内のパティオに咲いている季節の花を鑑賞したり、時には海浜幕張周辺の企業訪問をしたり、ランチも計画して、高齢者の外出意欲を引き出すようスタッフ一同努めている。

また、終了後は希望者を中心にお茶を飲みながらお喋りを楽しんでもらっている。毎月1回の行事だが、毎回楽しみにしておられる方も多い。

参加者のご意見



- ① 季節の草花をゆっくり楽しめること。
- ② 未知の番街のパティオがみられること。
- ③ ゆっくり皆と歩けば、歩くのも楽。
- ④ 歩きながらの楽しい会話は、日ごろのストレスの発散になる。
- ⑤ 個人としては中々入り難いお店、ランチ等も皆さんと一緒に気楽に楽しめる。

2-1 「おしゃべりサロン」

始まりは、2003年（平成15年）で、打瀬地区（610）民生委員・児童委員協議会では発足当時のベイタウン内には、高齢者が気楽にお喋りをする場が無いことから、各民生委員・児童委員がボランティアとして、高齢者との話し相手をするなど、住人同士の知り合いができることを目的に打瀬公民館（コア）の工芸室で、月1回お喋りをする会を立ち上げた。

現状は、その後、社協打瀬地区社会が発足したことを機会に、民生委員・児童委員の趣旨を引継ぎ、定期的に毎月第一火曜日と第三金曜日に「おしゃべりサロン」として開催した。

場所を地域連携センターに変更し、高齢者福祉委員会のスタッフが「サロン」2時間のうち1時間は、様々な講座や情報提供、脳トレ等を提供する場とし、残りの時間は、

参加者の自由な会話を楽しんでもらっている。また、第一火曜日には、包丁研ぎを実施し好評である。



2-2 「街区サロン」

始まりは、民生委員が担当する街区の中で、あまり外出をしない方や住人同士の会話が少ない方のために住民同士の会話促進を目的に、該当街区の集会所でサロンを行っている。

同じ街区に住んでいてもお互いに面識がない方も多いことから、先ずは顔見知りになってもらい、災害時等にも互いに助け合いができることをも期待して開催している。



3 「ふれあい食事会」

始まりは、2003年（平成15年4月第1回）で、ベイトウンでは当初若い人が多かったこともあり、高齢者にとって気楽に食事ができる店が無かったため、「民生委員・児童委員協議会」と当時の「ベイトウン・シニアクラブ」との共催で、高齢者が一堂に会し互いに会話をしながら楽しく食事出来るよう「グランシニア食事会・年2回」を立ち上げ、2007年（平成19）4月の第7回まで行った。当初の参加者は、70才以上とした。



食事会では、協議会の女性が中心に、自ら献立を考え、高齢者が日ごろあまり作らない揚げ物等、家庭料理を主に、栄養バランスにも配慮しながら、見た目の彩にもこだわったものなど食事に工夫を凝らした。

現状

社協打瀬地区部会が発足してからは、高齢者福祉委員会と民生委員・児童委員協議会との共催で「ふれあい食事会」と名称を改め、ボランティアにより春・秋の2回実施している。2008年（平成20年4月）を第1回から2020年4月で25回目を迎えることになる。

現在の当食事会の実施は、献立はボランティアが考えて、毎回新しい料理を作るよう心掛けています。調理に当たっても、事前に千葉市の腸内検査を受診し、調理にはエプロン、帽子、マスク、手袋着用すること、弁当箱・食器等は必ず消毒をするなど衛生面に心がけています。

食事会会場は、打瀬公民館（コア）。会費制で参加者お一人400円（2019年現在）を戴いている。参加対象者は、高齢者の増加した為会場の関係で、83才以上となってきている。

4. その他

以上の催しは、全て千葉市の年間助成金対象となっている。

以上

梅田 明子 記

『地区部会 児童母子福祉委員会』

2020.1.25

当委員会で所掌している活動について記述します。

1. 「乳幼児とママのらくらくクッキング」(食育講習)

育児の上で授乳の時期から離乳食段階が

大変と聞き、「^{たの}楽しく・^{らく}楽しくできる乳児食」を新米ママに届けたい思いで活動を開始しました。



平成 23 年 12 月に乳幼児の親子対象で第一回を開催し、それから毎年一回開催して現在では8回となりました。育成委員会で食育講習が開催されたおりヘルスマイトの活動を知り、そこで乳幼児向けの講座をお願いしました。美浜区保健福祉センター栄養管理士を講師に招き、ヘルスマイトの方々に調理をして頂き試食会を開催しました。

【ヘルスマイトとは】 (高木、井上、他)

食生活改善推進員養成講座(6回)を全て修了した方です。
地域での健康作り・食生活改善のための活動をされています。



2. 「親子ふれあい教室」



「子育てサロン」では幼児向けの遊びが少なく、何かないかと当時の公民館に相談して教室を開催しました。

平成 23 年 1 月より年3回ずつ毎年開催しています。

現在では24回開催となります。

打瀬公民館主催講座から紹介していただいた保育士(美嶋稲美先生)を招いて、

1~2歳児の親子を対象にした遊びから学ぶ幼児教室です。毎年25組程の親子が参加です。

3. 「わくわくコンサート」

平成 24 年 10 月より毎年一回開催しています。

以前 児童部会におられた花藤さんの紹介により地域で活躍されている音楽サークルの【マリーンベルクワイア】によるトーンチャイムコンサートです。やわらかい音色に乳幼児から大人まで癒されるひと時となっております。



4. 「夏休みキッズ教室」



「親子ふれあい教室」を卒業した幼児達や、未就学児対象の幼児達に夏休みを利用し集える場所を提供したく開催しました。

平成30年8月に開催しました。

令和元年で2回開催となりました。

保育士（美嶋稲美先生）を招いて4・5・6歳未就学児対象に夏休みの一日幼児教室です。

5. 「子育てサロン」

当初は打瀬地区にベビーサロンがな近隣地区（磯辺・真砂・幕西等）のサロン親子で多数参加されていた状況を見て、美浜保健課・保健推進員の方々に相談してサロンを開設しました。当時は場所の選定に苦労しましたが、UR機構の御厚意によりミラリオ集会室を長年継続して使用しています。



地区部会児童母子福祉委員会発足以前に民生委員・児童委員（吉川、西村）によってサロンを開催しました。

当初から地域保健推進員（当時は母子推進員）の方々にボランティア活動として関わってもらっていました。

【地域保健推進員とは】（瀬下、友田、木下、坂井、他）

自治会長の推薦によって千葉市長の委嘱を受け、地域の方が健康課からの要請で生後2か月の乳児がいるご家庭を訪問し、保健サービスなどの案内や保健センターでの乳児検診を手伝う。地域での子育てに関する支援団体やサークルなどと連携をとって活動をしている。



昭和53年より名称が[母子推進員→地域保健推進員]に変更されているが、他の地域では以前の名称のまま活動されているところもある。

以上
西村侑身子 記

1、 はじまり（障がいのない方への啓もう活動）

「手話勉強会」の開始

打瀬地区部会が立ち上がった時、故・波木障がい者福祉委員長の呼びかけでメンバーが集まり、とりあえず、まずは手話講習会を企画した。企画は好評で、参加した方々からの要望により、2009年(平成21)4月より、月2回の手話勉強会がスタートした。



一口に、障がい者関係の福祉活動といっても、障がいの種類やご本人の年齢により、それぞれのニーズが多岐に渡るため、障がいをお持ちの方を対象とした活動には熟慮が必要である。当時、何から始めてよいか手探り状態の委員会にとって、障がいのない人に障がいのある人々へ思いを馳せてもらうための活動として、手話勉強会は大事な取り組みとなった。

勉強会開始当時から、ベイタウン在住の女性にボランティアで講師を続けてもらっており、参加者の顔ぶれはその時々で変化があるものの、回数も月4回と増え、10年続いている。活動もベイタウン内で認知されてきており、三つの小学校の福祉授業やわくわくキャンパスの依頼を受けたり、中学校のEX講座に出向いたりなど、若年層への手話の普及と障がい者理解の活動としても広がってきている。手話関連の活動は、障がい者福祉委員会の活動の柱となっている。

2、 次のステップ（障がいのある方へのサポートへ）

「ほっとスペース」の開始

手話の活動を続けながら、そのほかの障がい関連の活動も模索し、各種講座を開催してきた。（「精神障がい関連」「認知症関連」「要約筆記」「傾聴ボランティア」など。）これらの企画も、障がいのある方への理解促進の内容であるため、実際に障がいのある方やそのご家族へのサポートもしたいという思いで始めたのが、「ほっとスペース」である。（2011年(平成23)6月開始当初名は「ほっとカフェ」）

コンセプトは、「障がいのあるご本人やそのご家族に、普段言いにくい気持ちを吐き出し、ホッと一息ついて帰ってもらえる場所」である。同席する委員も、自身や家族に障がいがあるため、当事者（本人または家族）の気持ちを理解しやすいと考えており、傾聴ボランティアの講座を受けるなどして、来られた方の気持ちに寄り添う努力を続けている。これは当事者のみの集まりであり、参加者には、その場で話された事は、その場に置いて帰ってもらうをお願いし、話すことによるピアカウンセリングのような活動となっている。時には委員の持つ情報を提供できることもある。

不定期の年2～3回開催で、毎回の参加者は少ないが、様々な悩みや思いを抱えた方が必ず来られるので、なくしてはいけない活動だと考えている。

3、 さらなる展開（障がいのある人もない人も一緒に）

「ひだまりスペース」の開始

これらの活動を続ける中で、障がい者福祉委員会の中で、障がいのある人とない人を区別することへのジレンマが出てきた。「障がい者」というコトバがあるがゆえ、障がいのない人は、どうしても「障がい者福祉」を他人事として理解しているのではないかと。それを少しでも解消できないかと、障がいのある人もない人も、自由に集える場所を作りたいと願ってできたのが「ひだまりスペース」である。そのころ、毎月木曜日の午前

中、地域連携センターで手話勉強会を開いていたため、そのまま午後は地域カフェとしてセンターを解放したらよいとの意見がまとまり、2014(平成26)年10月に「ひだまりスペース」がスタートした。障がいのある人もない人も一緒に自由な時間を楽しんでもらっている。現在の利用者は中高年女性が多いが、時には、小学生の夏休みのランチ場所になったり、赤ちゃん連れの方の休憩所になったり、遠方から呼び寄せられたお年寄りの地域デビューの場所になったり、様々な利用のされ方をしている。認知症を患っている方が仲良く同席されることもあり、参加者の皆さんが自然に接して下さっている姿に、委員が学ぶことも多い。「開いてよかった、ひだまりスペース！」と言われることを励みに、地区部会の他の委員や利用者の皆さんにも手伝ってもらいながら続け、今にいたっている。

4、今後の活動

「手話」、「ほっとスペース」、「ひだまりスペース」を中心に、この街に何が必要なのかを常に模索しながら、障がい者関連の活動を続けていきたい。

委員は、子育てをしながら、自身や家族の持つ障がいにも向き合っていかなければならない立場であり、時間をやりくりしながら活動を続けてきた。頭上に大きな目標を掲げるのではなく、実際に身の回りで何が必要とされているのか、自分たちの活動は現実的なのか、今までのように討議を重ねながら、足元からの活動を続けていきたいと考えている。

また、2020(令和2)年は、委員全員がオリ・パラリンピックの地域ボランティアにも登録しているので、夏の本番に参加することで、多くを学び、活動の幅を広げていきたい。

以上

井上 延子、南雲 湊子 共同記



ひだまりスペース



手話べんきょう会



小学校での福祉授業



1. 初めに

「うたせ認知症を考える会（以下、「考える会」という）との
打ち合わせ経緯

2016年(平成28)10月末、打瀬地区部会と「考える会」
両者の代表による最初の会合が行われた。その場で両者の間で、
以下の基本合意がされた。

- ・「考える会」は打瀬地区部会の専門別委員会として組織する方向で検討を進める。
- ・「考える会」は当面カフェ開設に注力し、地区部会は開設場所の確保の面で支援する。

引き続き両者間で話し合いを継続し、ベイタウンにおける認知症福祉活動定着に
向けて活動の一体化（地区部会への参加）の議論を進めた。又、これと並行して、
「考える会」内部では、地区部会の専門別委員会として組織を一本化することの意見
集約がされた。

2017年1月の地区部会定例役員会で、「考える会」代表から地区部会への加入
について意思表示がされ、地区部会として受け入れることが全会一致で決定した。



2. 認知症福祉委員会の発足

1.項の経緯を経て、2017年5月開催の地区部会第10回定時総会において、
地区部会6番目の専門別委員会となる認知症福祉委員会の新規発足と構成役員の
任命及び付帯としての会則改正が満場一致で可決され、正式に打瀬地区部会認知症
福祉委員会が活動を開始することとなった。

これにより、美浜区内の地区部会では唯一認知症福祉の専門別委員会を有する
地区部会になった。

3. その後の変遷

「ベイタウンかふえ」は、開始以来多くの参加者があり、注目度も高く活発に運営
がされている。一方で、2017年度総会以降、地区部会内でのコミュニケーション
に関わる課題等を意見交換し、活動成果の向上を模索する話し合いが都度行われて
きた。

結果、2018年(平成30)11月に、「考える会」の要望に沿って、「考える会」は
当年度末を以て地区部会を離れ、独立して「ベイタウンかふえ」の運営をすることが
決定された。

一方、地区部会認知症福祉委員会は、活動を見直し、地区部会内で専門別委員会の
一つとして継続することも決定された。

4. 現在の活動状況

2019年度からは、改めて打瀬地区部会認知症福祉委員会として新たな構成メ
ンバーによって、活動方針、活動計画を策定し活動を展開している。
活動方針として3つの柱を視点において活動を進めることとした。

- 認知症への理解促進
- 認知症予防及び進行抑制の実践支援
- 介護されているご家族への支援

具体的な活動として、2019年7月から現在まで、認知症の人と家族の方が集う「そよかぜの会」を4回開催し、毎回スタッフも加わって参加者が交流する居場所を設けている。

又、次年度以降はこれに加えて、2年前に幕張新都心エリアに進出されてきた東都大学の協力を得て、認知症に関する講座をシリーズで開設することを計画し準備を進めている。

第1回 **そよかぜの会**

< 認知症の人と家族の会 >

7月29日(月)

14:00~16:00

打瀬公民館 (コア) 工芸室

打瀬地区で、同居または別居の認知症のご家族のいる方の会(家族の会)を始めます。悩んでいる事、他の家族に聞いてみたい事など、当事者だけで静かに語り合ってみませんか。ご本人同伴の場合はボランティアがお相手しますので、お気軽にお越しください。

<お問い合わせ> 千葉県社会福祉協議会 打瀬地区部会 認知症福祉委員会
〒260-0801 千葉県千葉市中央区打瀬 2-1-1 電話：211-6288

チラシから

以上

小柴 憲次 記

はじめに

福祉ネットワーク委員会は、打瀬地区部会の発足時に下部組織として平成19年(2007)10月に発足しています。同時発足の広報委員会を平成22年(2010)に合流して現在の福祉ネットワーク委員会とほぼ同じ業務を担当する委員会になりました。主に、「ハローうたせ」、「〇〇月の社協」の発行と「うたせミニシアター」の開催を担当しています。



1. 「ハローうたせ」の発行

打瀬地区部会の広報紙「ハローうたせ」は、平成20年(2008)7月に打瀬地区部会の活動を広報するとともに、住民の活動や声を掲載して相互の連携を深めていく役割を期待されて創刊されました(創刊時は広報委員会担当)。創刊時からA4判4ページの体裁で、ボランティアによりベイタウンニュースに挟み込まれたあと、ベイタウンの全棟全世帯に年2回配布されています。

草創期にはボランティア募集やイベント予定記事が多いのが特徴です。その後ほぼ1月号には部会長の年頭のあいさつと呼び掛け、7月号には定期総会報告(予算と役員)という広報面が定着する一方で、「読者の声」「〇〇に参加して」「街区のイベントの紹介」等によりベイタウンの「隣の人」を知る縁となっているなど創刊時の期待に沿う努力が続いています。

2. 「〇月の社協」

打瀬地区部会の委員会等の活動予定をお知らせする「〇月の社協」は、平成24(2012)年2月号が創刊で、掲示用の片面A4判のチラシです。地区部会の各委員会は赤ちゃんからお年寄りまでを対象に工夫してイベントを企画します。前月下旬発行のチラシで各イベントの日時・場所・連絡先を掲示します。創刊時には当時のシニアクラブの協力で集まったと聞きます配布ボランティアによって今も続く、公民館、ヤンマー、郵便局及びベイタウン全棟の全掲示板に掲示されています。



住民の皆さんからは地区部会の次月の活動を一望出来て重宝しているという声を聞きます。福祉の手伝い絆を深めるために企画する地区部会活動の「お知らせ」として重要な役割の一つを担っています。

3. 「うたせミニシアター」

住民の皆さんの交流を図る場の一つとして、「うたせミニシアター」は、平成22年(2010)11月にヒッチコック監督の「レベッカ」を上映しスタートしました。その後も年に4回のペースで開催されています。家に閉じこもりがちなお年寄りも、映画に集まれば、公民館ホールでのおしゃべりをし、映画後のコーヒータイムで感動も伝えたくなるはず。ついでに映画に無関係なおしゃべりも周りの人としてほしいという期待で始まったものです。著作権の制約等も乗り越えて実現されたものです。引き続き今も映画とおしゃべりの楽しい午後のひと時になっています。

以上
百瀬 文男 記

1. はじめに

シニアリーダー体操は、介護保険一般介護予防事業の一つです。

千葉市は将来的に500平方メートル四方に1つシニアリーダー体操教室を開設することを目標としています。

シニアリーダーは、シニアリーダー養成講座を受講した、介護予防指導者（ボランティア）です。

「うたせシニア体操」は平成29年(2017)7月5日に第一回の教室を地域連携支援センターで開きました。今年3年目です。

平成29年当時、ベイタウンにはシニアリーダー体操の会場がありませんでした。

私は、第4期受講中、研修のため見学した高浜公民館で指導されている議員様がベイタウン在住と聞きリーダーとして迎えベイタウンで教室を開設しようと思いました。

打瀬公民館村山館長は月1回くらいなら何とかかなるとのことでした。

それで、社協打瀬地区部会の伊藤部会長に地域連携支援センターを使わせてほしいと要望しました。伊藤部会長からは前向きに検討しようということになりました。

2. 設立前後の状況

平成29年5月の社協打瀬地区部会総会において、シニアリーダー体操教室開設について今年度から介護予防・認知症予防の一環として市が推奨している「シニアリーダー体操」を地区部会として開始することとし、その活動計画を審議し全会一致で決定しました。

社協打瀬支部の会期は4月から翌年3月までですので今季は保険の関係もあり高齢福祉委員会のサロン活動の一つに位置づけることとする。5月17日に伊藤部会長、小柴（事務局）様、伊達（会計）様、議員（リーダー）様、尾崎が会合し、シニアリーダー体操を社協打瀬地区として実施することに決定。

会の名称： 「うたせシニア体操」

対象参加者： 介護保険・要支援の認定を受けていないシニア世代

シニアリーダー養成講座を終了した指導員：

議員善英、金子ルミ、井上治、尾崎敏朗、（外部支援者）宮川節子、加藤優子、長島宣子

今期は予備費から支出9ヶ月分： 金5万円（事務用品・講師料（実質は交通費）で7月5日開講しました。

平成30年(2018)度からは「うたせシニア体操」を一部門として認められ予算（8万円）計上されました。

参加数実績は

平成29年度 28回開催 参加者480名

平成30年度 35回開催 参加者663名

平成31年/令和元年度 35回開催予定 参加者850名予定

3. 今後の課題

打瀬地区での指導員育成が大きな課題です。

以上
尾崎 敏明 記



「打瀬地区スポーツ振興会」

2019.12.5

1. 設立時

- ・振興会設立時期

2005年4月に「ベイタウン社会体育振興会」として発足

- ・発起人

吉識 渉さん(元P8番街)・辻 和夫さん(P8番街)・犬井 千年さん(P4番街)

- ・立上げ時の状況・目的・想い

地区スポーツやレクリエーション行事を行うことで、地区住民の連帯と協調を高めるとともに、健康づくりや仲間づくりを目的に発足する事になったが、設立に当たって会費徴収方法等について、当時の自治連役員関係者のご助言や適切なアドバイスにより現実的な会費徴収方法をとる形で設立の運びとなった。

2. 活動の経緯

メンバーは自治会連合会関係者・地区スポーツ団体関係者・地区内サークル関係者・小中学校関係者を中心に組織し、ソフトボール・テニス・グランドゴルフ・卓球大会等の球技大会を2005年より開催し振興会活動を開始しました。その後、子ども円卓会議で話が出ていたマラソン大会を2015年から開催するようになりました。

球技大会は地区住民を対象に年2回(春・秋)開催し、マラソン大会は地区内及び近隣地区の小中学生を中心に年1回(晩秋)開催しています。



マラソン大会は幕張ベイタウンの街開き20周年を記念して、自治会連合会・子ども円卓会議・スポーツ振興会の共催で2015年2月に第1回大会を千葉マリスタジアム特設会場で開催しました。その後、幕張海浜公園D Eブロック内で開催し、2018年から幕張ベイパーク・若葉3丁目公園に会場を移して、2019年に第6回大会を11月中旬に開催しました。

小学生を対象にした「千葉市ジュニアスポーツ大会」では毎年7月下旬にドッチボール大会を開催しており、ベイタウンからは2005年に2校(打瀬小・海浜打瀬小)が初参加し、その後、美浜打瀬小が加わり3校が参加するようになった。初出場した2005年・2018年・2019年の各大会で打瀬小学校が優勝しています。

1998年～2017年に幕張の浜で開催した幕張トライアスロン大会では、育成ボランティアの観点から、地元の「打瀬中学生」が運営ボランティアとして100名～150名程が毎年参加していました。

1997年5月にベイタウン在住者を対象にして「健康ウォークの会」が発足し、毎週土曜日に幕張新都心エリアをウォーキングするようになりました。また、この「歩く会」はベイタウンに転入されてきた方々の格好の情報収集の場ともなり、その後、健康ウォークの会から巣立った方々が公的団体や他サークルで活躍されるようになりました。

以上

内田 隆 記

「打瀬ベイバスターズ」

2020.1.13

1. 設立時の趣意および経緯

サッカーブームの真っ只中、マンションの壁に向かってボールを無心に投げている子を見つけ、それをきっかけに、この街に少年野球チームがあったらいいなと思った人がいた。

その人（21 番街）が中心になって、波木（故人）、原（17 番街）らが手伝い 2003 年（平成 15）1 月花見川緑地公園に私服の子供 31 人が集まった。ベイタウンニュースで「野球をしよう」と募集した記事を見て集まった子供達。

「チームの名はベイバスターズにしよう」という皆の夢を乗せて、打瀬地区で初めて唯一の少年野球チーム、打瀬ベイバスターズが 2003 年 1 月に部員総勢 31 名で発足した。

初代表は波木正司氏、2017 年からは原 正典氏が代表を引き継いで現在に至る。



2. 設立時の状況

設立当時は決まったグラウンドもなく、周辺の公園や砂浜など練習場所を転々としていた。

基本的に休日の日中はゲリラ的に確保したグラウンドで練習をし、練習後は、その練習場所の確保の方法だけでなく、練習方針・方法、子供たちへのサポートの仕方や審判を誰がやるのかなどについて、お父さんだけでなく、お母さんも交えて議論を夜通しやったこともあった。

2003 年 3 月には、「美浜区少年野球連盟」に加盟し、2003 年 4 月に青葉の森での千葉市招待試合に初出場、「0-32」伝説の敗退から始まった。

3. 設立時及び現在の活動及び体制

設立時から現在に至るまで、活動は基本土日祝日すべてで、学年によるが半日から終日の練習を基本とする。なお、対象は基本小学生。

場所は、初代表の波木の尽力もあって 2005 年 4 月に活用できるようになった打瀬 3 丁目公園を中心に、海浜打瀬小学校、美浜打瀬小学校、その他のグラウンドで実施。

体制は、代表を中心に 6 年生を中心としたチームから、5 年生、4 年生、3 年生、2 年生以下の各チームが現在では存在し、各チームに監督、コーチという指導者を配置して活動している。

また、所属団体は、2003 年に美浜区少年野球連盟加盟以降、主に 2004 年 9 月には「京葉少年野球連盟」、2006 年 3 月に「花磯連盟」、2012 年 2 月に「関東団地少年野球連盟」に加盟し、各加盟団体への役員等も選出している。

さらに、これらの加盟団体の大会があり、各学年チームで参加している。2003 年の大敗以降、2007 年 4 月に美浜区の大会で初優勝をしたことを皮切りに、各大会やその上位大会で優勝等、優秀な戦績をあげている。

4. 将来の展望

打瀬地区の唯一の少年野球チームとして、打瀬ベイバスターズが野球を通じた小学生の成長のお手伝いの場として継続できるようチーム運営していくこと。また、小学生の成長のサポートを通じた保護者の地域コミュニティの場として、さらには、卒部生が地域のかかわりを持てる場所として存在していくことも大切にしていきたい。

以上 原 正典 記

1. 設立時の趣旨、経緯と体制

敬老会は、従来から千葉市の高齢者福祉の一端として行われていた。

1995年(平成7年)に、バイタウンが開闢後、暫くして、高齢者福祉の担い手である「民生委員協議会(当時は606地区)」の皆さん(得藤圭子、海下英子、藤井文代、須田美智子、青木尚子)が委嘱を受け、活動を開始し、その一つとして、敬老会を実施すべく千葉市などからの指導・援助を受けて調整を始めた。

1999年(平成11年)に入り、70才以上の高齢者も89人となり、第1回敬老茶話会を、1999年9月19日に、民生委員が主催し、自治会連合会などの協力を得て行った。

参加者は、40名ほどで、場所は、3番街の集会所でお茶とお菓子を中心に行った。

合わせて、一方では、出席に有無に拘わらず、全員、タオルを配布した。

経費は、千葉市からの830円/人以内で賄った。

次年の第2回(2000年)敬老茶話会は、新たに発足したシニアクラブの協力を得て、民生委員と自治連のもとで第2回敬老会を同じく3番街で40名の参加のもとに行った。

この時から市長(当時は松井氏)、美浜区長を来賓としてお迎えし、アトラクションとしては、設立間もない地元コーラスの「瀬音」が協力してくれ、不参加者には、お土産に日本タオルを贈った。

翌年の第3回茶話会は、70才以上の45名の参加であったが、主催自治連、共催シニアクラブ、民児協の元、市長、区長の来賓を迎え、「詩吟」、「日本舞踏」のアトラクションを交えて新築のシータワー集会所で行った。

第4回からは、名称を敬老会として、70才以上の方が、徐々に増えてきた関係で、場所を打瀬公民館ホールに移し、毎年、市長などの招待者のもとに茶菓子を主に地元中心のアトラクションを交え行っている。活動は、主に、主催を自治連とし、実務面では、民生委員・児童委員協議会とシニアクラブが協力して行った。

2. その後の経緯

第10回(2008年)以降は、主催が社協打瀬地区部会となり、民児協と自治連が協力して行っている。第12回からは高齢化増の対応として千葉市は、参加を75才以上の対象としたためそれに従った。また初めて打瀬中学生徒がボランティアで参加された。

以後、インフルエンザ流行や、台風のため中止せざるを得ない年もあったが、場所も一時参加者人数の関係で、小学校のホールを借用したりしてきた。

また、第20回(2018年)からは、参加者も75才以上で約220名となり、コアホールでの1回では収容しきれず、午前午後の2部制で行うことにしている。

3. 現状

現在は、民児協による出席者の確認と当日の受付と主催者・主賓のあいさつ、アトラクションをメインにし、出席者には、おみやげのお弁当とお菓子をお渡ししている。

必要経費は、千葉市からの助成金と上記3団体からの拠出で賄っている。

また、主催は、2018年より地区部会、民児協、自治連が毎年順番で行うことにした。なお、2019(令和元年)9月現在で、75才以上の人口は、900名を超えている。

以上

濱 宏純 まとめ記

はじめに

シニアクラブの設立から、その活動、及び、収束まで、専ら故砂原正行氏(8番街)のご指導の下に進められてきた。

創設は、平成12年(2000)5月で、およそ10年の活動を行い、平成19年10月の社会福祉協議会打瀬地区部会の発足に伴い、平成23年(2011)4月に活動を終結した。

その趣旨と活動は、地区部会に引き継がれたが、ベイタウン開設時に大きな足跡を残した。ここでは、砂原氏の遺作を読み解きながらその思いと共に活動を紹介する。

1. 誕生までの経緯 平成22年(2010)5月20日「10周年記念小冊子」より

シニアクラブが発足した平成12年(2000)3月末のベイタウン人口は、まだ8,912人(3,124世帯)平均年齢31.1歳の若い街であり、少子高齢化のトレンド中であって活気に満ちた街であった。しかし、学校以外の公共施設は無く、街づくりの第一歩として住民参加による公民館や図書館の建設に向けて「コミニティー・コア研究会」が活発な活動をしており、若い世代から「保育園」「こどもルーム」の必要性が提起され、街としての情報集約・情報発信機関として平成9年(1997)6月1日「幕張ベイタウン自治会連合会」が発足した。

当時、民生委員は、幕張西の下部組織として5名の方々が活動し、地域コミュニティーの基盤となる「社会福祉協議会」や「老人会」の設立、敬老会の開催などを強く要請して居ました。

平成11年(1999)9月、「高齢者の知識及び経験を生かし、生きがいと健康づくりを通じ、高齢期の生活を豊かなものとすると共に明るい長寿社会づくりを目的」として、当時、自治会連合会の副会長を担当していた私が老人会設立企画を纏めることになりました。民生委員協議会メンバー(青木尚子、須田美智子、海下英子、得藤圭子、藤井文代)の助言を得て、「設立準備委員会」を発足した。平成12年(2000)3月31日現在、60歳以上の高齢者人口は僅か425人(0歳から14歳までの人口は2,263人)であり、高齢者の意識も世代により様々であった。

A;健康増進、趣味、旅行、スポーツなどを生き甲斐としてのボランティア活動を通じて地域の活性化に寄与しながら多くの住民との親睦を図りたいグループ、

B;まだまだ健康で豊かな「知識」と「技能」を生かして社会の為に役立つ仕事をしたい「労働意欲旺盛なグループ」

C;家庭や施設での「介護を必要とされているグループ」

に対して、どのような組織としてスタートするか協議を行い、まずは、「コミュニケーションを求めて居られるAグループ」の方々を対象に企画することとなった。

平成12年(2000)1月2日「運営計画」「会則」「活動計画」「予算」等を検討して「設立委員会」(メンバーは、須田善勝、野田重敏、金田寅男、山根治仁、市川和子、布施順子、砂原正行)にて千葉市高齢者保健福祉課の指導により、書類申請を行い、会員募集に努めながら、平成12年(2000)5月20日パティオス8番街集会室にて「設立総会」に漕ぎつけました。

82名の参加者がまずは名称を決め、活動の骨格についても熱心な討議があり、役員を決め、広報誌の発行、ふれあいの場、クリーンデーなどの基本的な活動の他、各種サークル活動の要請、活動拠点の問題など熱い議論が展開された。特に山根副会長のご好意により、

活動拠点としての「ギャラリー・キキ」の一角を 4 年間に亘り提供して戴いたことは、会員のふれあい、パソコン教室などを含む活動拠点として、創成期のシニアクラブ活動に大きく貢献した。

2. 発足時の役員など

1) 役員

会長； 砂原正行、 副会長； 須田善勝、戸部登世子、

役員； 宮田充子、山根治仁、布施順子、小川裕二、野田重敏、金田寅雄、市川和子

2) サークル活動(当初の世話人)

グランドゴルフ(野田重敏)、テニス(辻和夫)、写真(山根治仁)、詩吟(金田寅男)、

ゴルフ(堤秀文)、バトミントン(落合清)、白ゆり会(名菓とお茶)(海下英子、得藤圭子)

後から、 オアシス通信、オアシス談話室、クリーンデー、グランシニア食事会、

お花見会、バス旅行、社交ダンス、太極拳、祭り時の焼きそば、などなど

その後の、ベイトウン内のサークル活動や諸活動の大きな礎を築いた。

3. オアシス通信

オアシス通信は、クラブの活動報告と活動案内および会員のエッセイ(サークル活動や、日帰り旅行など)や会員からの投稿による旅行記やお国自慢、俳句などを掲載し、平成 12 年(2000)10 月から毎月 1 回の発行で、平成 22 年(2010)までの 10 年間、60 号の発行となった。

この間、会員はもとより関係諸団体にも配布され、

その活動が評価され、次号が待ち遠しい感があり、特に、会員の皆さんには、お互いのコミュニケーションの場でもあり、投稿者からの刺激や感銘を大いに受けました。

編集は、主に鍵和田潔氏(後に副会長)を中心に、企画及び、原稿集めや構成、製本・配布と編集委員の皆さんがボランティアで協力しあって発行された。

なお、平成 22 年(2010)7 月には、特集号として、会員の皆さんの戦争体験を収録した小冊子「創立 10 周年記念誌(戦中戦後の記録) 山口正士・鍵和田潔共編」を発行した。



(ベイトウンシニアクラブ) 第 1 号

2000年7月1日

発行者：ベイトウンシニアクラブ 砂原正行 編集者：広村 山根治仁

高齢者を健康で心豊かに！

ベイトウンシニアクラブ会長 砂原 正行
平均年齢 30 歳の街にシニアクラブを設立する事に躊躇していましたが皆さんの自主的な意欲や要望がどの程度なのか、この半年間意見集約しながら準備を進めてきました。

4. オアシス談話室

高齢者のおしゃべりの場としての談話室は、当初、民生委員の得藤圭子氏らによってはじめられ、最初は、2 番街で、約 20 名が参加し行われた。(平成 12 年以前)

その後、シニアクラブの立ち上げにより、正式のオアシス談話室として、金田寅雄氏が引き継ぎ、毎月 1 回、西の街の集会所をベースに会員相互のふれあいの場として行われた。

5. シニアクラブの解散に伴う継続活動

活動名	継続先	継続後名称	活動名	継続先	継続後名称
オアシス談話室	地区部会	ふれあいサロン、街区懇談会	グランシニア食事会	地区部会	ふれあい食事サービス
クリーンデー	自治連	クリーンデー	バス旅行	地区部会	バス旅行
お花見会	地区部会	散歩クラブ	祭りの焼きそば販売	地区部会	同左その後、ウィナー販売

以上

聞き取り 鍵和田潔氏、得藤圭子氏
まとめ 濱 宏純 記

1. 発足の経緯

当初、当会は、シニアクラブのサークル活動の一つとして始まった。世話人として、須田善勝氏や堤秀文氏が中心となり、主にシニア世代を中心に参加を呼びかけた。結成は、2000年(平成12)10月頃で名称は「ベイトウンシニアゴルフクラブ」であった。



2000年(平成12)10月の会員名簿によると、17名が参集し、第1回を「季美の森ゴルフクラブ」で11名の参加で行った。

その後、第38回(2004年12月)まで、堤氏や坂本卓聰氏などのご努力が進められてきたが、当時は、ゴルフ場の選定、現地までの車の手配、組み合わせなど全てを堤氏や坂本氏にお願いしてきたので、大変ご苦勞をされたと思います。

2. その後の経緯

2005年(平成17)に入り、世話人も変わり、上記の体制・進め方に齟齬を生じるようになり、スムーズな運営も難しくなって、一時存続の危機となった。

そこで、先輩方の意見も取り入れ、全く新しいベイトウンのゴルフ組織を有志の4人(飯島耕造、鍵和田清、最首尚也、濱宏純)が中心となり、再発足することにした。

名称も、「シニアゴルフ会」から「ベイトウンゴルフ会」として、ゴルフを通してのベイトウン内の親睦を旨とし、会員が相互に主体となって楽しく運営・プレイできることを目指すことにした。

ここで、4人で相談して制定したのが、「会則」と「運営方針」、「設定要領」、その他で、毎年1月に総会を開き、現在まで、若干の改定を経ましたが、規範としている。

運営主体は、毎年3人の「運営委員」が1人ずつ交代し、「会計・監事」と共に行う。

これは、会員相互に交代で担当することで、皆が等しく本会の維持を図るという会の基本的考え方によるためです。

なお、月々の定例会は、幹事(前々回の優勝者他)が行う事として、実施日、会場の選定、メンバーの組合せ、を作成する。また、当日の進行を終了後の会まで担当する。

また、ゴルフ場への交通は、一時ゴルフ場の往復バスを利用していたが、最近では、当該バスの運航が少なくなった事もあって、会員相互に運転の相乗りとなっている。

3. 現在 (2019年末)

会員は、33名、2000年当時の方は、ほとんど退会し、出身地は、北海道から九州まで、年齢は、66才~87才、男女別では、男24名、女9名です。開催コースは、千葉県内で、過去77コースで行われ、多い所は、房総カントリー12回、南茂原カントリークラブ10回、東千葉カントリークラブの6回、オークヒルズカントリー、源氏山ゴルフクラブ、ヌーヴェルゴルフ倶楽部と市原ゴルフクラブ(柿の木台)などの5回となっている。

毎月(冬の1,2月は休止)の定例会は、およそ25~30名の参加で賑わっている。

会員規定では、35名以内としています。新たな参加希望者は、運営委員に申し出て対応している。欠員があり次第、補充されることになっています。

以上
濱 宏純 記

1. 設立時の趣旨および経緯

1997年松村、野田、得藤、古川、清水さんら有志10名ほどで、打瀬小学校グラウンドを借用立ち上げた。高齢者の健康増進と親睦を目的としてスタートした。用具、コースのホールポスト、スタートマットなどを揃えるため、分割払いでの調達などに苦労した。打瀬小の子どもたちにグランドゴルフを手ほどきなど、学校といい気の交流の場となった。

2. 設立時の状況、活動及び体制

一時的に小学校内に仮小屋を建てて、用具を保管したが小学校校庭以外の2丁目公園へプレーの場所を移す等の事情もあり、重い用具を会員の自宅へ運び保管などの必要も生じた。会員数も増え続け、千葉市のグランドゴルフ協会に登録し、公式試合出場した。ベイトウンまつりでは、親子でグランドゴルフをプレーする活動もした。

4. 現在の活動および体制

現在グランドゴルフ打瀬会の名称。会員数は34名、最高齢は90歳を超える会員もいる。打瀬3丁目公園の多目的広場で、毎週月、水、金曜日の3回練習プレーの日として楽しんでいる。

プレーは4人一組のルールのもと、常時5組から8組に別れ、休憩を挟んで4ラウンド約2時間。月に1度月例会として大会を行っている。用具は公園の小屋へ保管、当番が交代で搬出入を担当。

なおメンバーの高齢化に伴い、公式試合会場への交通手段として自家用車を運転する人が減ったため、協会は脱退し、専らベイトウン内の活動、打瀬スポーツ振興会の行事の一つとして大会を持っている。

上半期、下半期に1度ずつ成績発表と併せ懇親会を開催、和気藹々とできる時にできる人たちとプレーして、親睦・交流の場となっている。

5. 将来の希望

6. その他

以上



野田重敏・鍵和田潔 談

1. 設立経緯

平成 12 年（2000） 喫茶店で栗原氏、故戸部氏、落合氏、木内氏、山根治仁氏の数名でベイトウン写真クラブの呼びかけをしたところ多くの方より反応があった。

最初の会員募集入会金 2000 円、月会費 200 円で募集。

平成 14 年（2002）4 月 1 日ベイトウン写真クラブ規約制定

平成 14 年（2002）11 月財団法人千葉県福祉ふれあい財団加盟

正式な声を取るため写真に関する文化活動を行っている千葉市社会福祉協議会のサークル活動部門に設立書を届け受理された。

2. 活動

◎コアで毎月第一日曜日に定例会を行っており、年数回講師を呼んで勉強会を行っている

◎年数回 野外撮影会を開催

作品の展示

* コアのギャラリーで展示を行う3ヶ月に1回、1ヶ月間

* 地元京葉銀行のショウウィンドウでの展示（年1回）

* 地元ベイトウン郵便局へ2ヶ月に1回展示

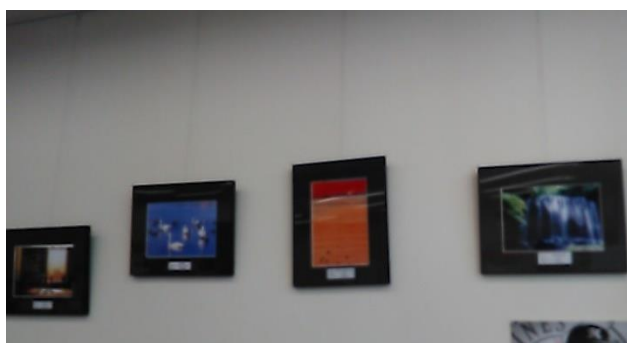
* バス内（平和交通バス）展示

3. その他

◎現在の会員数は、11名で、会長は、山根 治仁氏

以上

小林 滋 記



郵便局での掲示（2020.3.）

「 詩吟を習う会 」

2019.12.9

1. 設立時の趣旨と経過

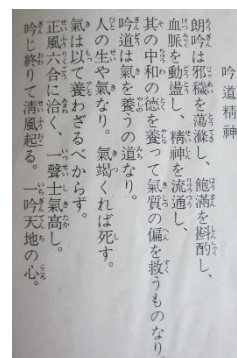
最初に、1999年（平成11）9月より、公園西の街の集會にて「社団法人日本詩吟学院岳秋会」第15教室として金田寅男氏が多恵子夫人と二人で立ち上げた。

立ち上げの動機は、新しく誕生し、住民が全国から多く集まるこの地区に、自らが習得してきた日本古来の吟道の精神を普及することで、新しい街の一端を担う心つもりからであった。

日本詩吟学院は、明治に諏訪で生誕した近代吟詠の祖 木村岳風先生によって起こされ、その精神の一端に「吟道は気を養うの道なり」とあり、

漢詩、和歌、俳句などを士気高く腹の底(腹式呼吸)から詠じることにあります。

金田虎男氏は、「金田岳虎」と称され、(社)日本詩吟学院の師範の腕前です。



2. 設立

その後、2000年5月 シニアクラブの発足に伴うサークル活動の一つとして数名の参加者で「詩吟を習う会」を発足させた。

一方で、岳秋会は、継続しての二本立てで活動した。

3. その後の経過

「詩吟を習う会」は、その後、入会者も増え、毎週1回の定例会では10名前後が参加し公園西の街およびコアで金田先生の元、詩吟を教えてもらった。

その成果を、秋のバイタウン・コアフェスティバル で、全員が、一人ずつ吟詠を披露した。

2011年(平成23)に入り、師範の金田岳虎さんの体調が悪くなったことで、会の継続が不可となり、一旦解散となり、岳秋会の加入者も、全員退会した。

そこで、改めてリーダー役の鍵和田潔氏を中心に、「詩吟を楽しむ」ことを重きに置く会を、発足し、(社)日本詩吟学院のテープを聞きながら一人ずつ、1, 2回の詩の単独吟詠を楽しみながら今日に至っている。

現在のメンバーは、高齢化などのため退会された方もいるが、常時10名ほどが、鍵和田氏のもとに、2週間に1回、コアの講習室で行っていて、詩吟とともに参加者のコミュニケーションの大切な場としても継続されている。

一方、一時体調不調であった金田氏は、その後回復され、新たな会員で、「公益社団法人日本詩吟学院認可千葉岳風支部打瀬詩吟の会」として、現在も公民館でのサークルとして活躍されています。

以上
金田氏、鍵和田氏に 確認後 濱 宏純 記

「太極拳サークル」

2019.12.17

1. 発足の経緯

2000年（平成12）10月、小川、砂原、高橋ら数名が相談、高齢者の健康、予防介護等を目的にシニアクラブの活動の一環として始まった。シニアクラブ名簿の趣味欄を頼りに2番街の松井一子さんに講師をお願いした。

当時、公民館は未だ出来ておらず、練習場所探しから始まった。幸い鈴木美奈子さんのお蔭でパティオス11番街の集会室を借りることができ、20人の会員で練習が始まった。

太極拳には多くの流派があり、中国人民共和国体育運動委員会で制定された国家制定拳だけでも5種ある。松井先生にはその中で最も型式が少なく、108もあった煩雑な技を24式にまとめ誰でも覚えやすい「楊名時気功太極拳24式」（簡化太極拳）と八段錦を教えてもらった。

春には桜の名所香澄公園に行き、満開の桜の下、芝生の上で思いっきりのびのびと八段錦と太極拳をやったり、半年ごとに食事会をやったり、打瀬中学の体育館で中学生に太極拳を教えたりした。

2. その後の経緯

2010年10月太極拳サークル設立10周年記念会を開催し、松井先生の「立禅、スワイショウ、八段錦、24式太極拳、立禅」をDVDに撮り、記念写真と共に全会員に配った。2013年5月1日急に松井先生が辞任されたので、5月15日ホテルニューオータニで送別会兼謝恩会を開き、会計もめめて解散した。

新しい太極拳の先生を探していたところ、市会議員の米持克彦さんから朝日ヶ丘や幕張西公民館で太極拳を教えておられる八百坂範子先生のご紹介をいただいた。

八百坂先生は「姜氏門内功武術研究会」の会員でご指導内容は

1、練功十八法 前段 後段 益気功

2、内功八段錦

3、伝統太極拳 楊式八十五式 ということであった。

面白そうであったので早速契約し、2013年6月5日（平成25年）、第2回目の太極拳サークルが発足した。

伝統太極拳というのは清の17世紀中頃、河南省陳家溝で陳王延によって編成され、後世全中国に楊派、呉派、孫派などの各派が派生し、伝承され発展し続けているものである。

そして楊名時太極拳24式の基になったものである

八百坂先生はまた八段錦については「日本気功養生学研究会」代表の星野稔先生に師事されており、年に1度私達の練習場にお呼び頂き、「内向八段錦」の尊いご指導を仰いでいる。

太極拳の動きの中には、体を損なわず、体質を強化して、心身を練り上げる為の、経験と知恵が、たっぷりつまっている。

今後とも会員の皆様と共に健康の維持向上と心の安定により、明るい生活と親睦交流を図っていきたい。

以上



「幕張ベイタウンテニス (MBT) 連合」

2020.1.8

1) 設立前のテニスサークルの状況

1996 (平成 8) 年頃テニス愛好家が打瀬中のテニスコートを約 20 名学校開放の形で利用し、併せて翌 97 年コア研究会がはじまった時「テニスコートが欲しい」この指とまれに参加した。1997.4.26 記事「企業庁はきちんとした管理団体などの体制があれば、テニスコートを検討する」と。

2) 設立に至る経緯

1997 (平成 9) 年 6 月 28 日幕張ベイタウンテニスクラブ設立趣意書 (発起人 5 名 島・山北・辻他)、ベイタウンテニスクラブ発足・会則策定 10 月 5 日現在会員 115 名
同年 9 月 30 日企業庁宛てテニスコート管理体制・テニスコート建設に付き打診 (自治会連合会文化・スポーツ委員会 (仮称) 辻)

1997 年 11 月 11 日千葉県企業庁・千葉市松井旭市長あてテニスコートの要望書
・住環境の向上を図り、住民交流が街全体の付加価値を高める

3) 当初の活動

- ・土日を中心として会員があつまり、OVTA (海外職業訓練協会) や打瀬中のテニスコートを借用、練習会、テニス大会を開催
- ・打瀬中と協働で、コート整備、バケツ、水撒きホース、砂など購入。忘年会として子どもたちも参加の餅つき
- ・1997 (平成 9) 年 12 月より毎年忘年打上会を開催
- ・1999 (平成 11) 年 5 月ベイタウン祭り テニスクラブとしてカレー店出店、以降毎年出店し打上会
- ・2001 (平成 13) 年頃から打瀬中軟式テニス部コーチを会員から派遣
- ・例年適時、公園ピクニック・花見などを家族参加で交流
- ・2000 年 (平成 12) 9 月 30 日 第 1 回白子テニス合宿家族子どもを含め 17 名参加



OVTA コート トーナメント

4) 打瀬 3 丁目公園テニスコート利用調整管理

1998 (平成 10) 年 5 月 24 日企業庁宛て「総合スポーツ公園整備に関する要望書」提出

2003 (平成 15) 年 5 月 31 日 ベイタウン内スポーツ団体 (MBT テニス、ベイバスターズ (少年野球) サッカー、グランドゴルフと自治会連合会及び民生児童協議会など) 13 名が参加し、打合わせ会。打瀬 3 丁目公園管理委員会を自治会連合会特別委員会として設け、千葉市宛て利用調整など住民自主管理を提案

2004 (平成 16) 年 2 月 自治会連合会と千葉市公園管理課話し合い

2004 (平成 16) 年 4 月 19 日 公園の仕様内容、工事スケジュールを報告
テニスコートについてはベイタウンテニスクラブが代表を出し、球技広場についてはベイバスターズが代表を出して 2 部門夫々が管理運営に当たることを確認
企業庁と自治会連合会連絡会にて、3 丁目公園の仕様を検討。「3 丁目公園を考える会」を自治会連合会特別委員会として設置

2004 年 (平成 16) 5 月 22 日 3 丁目公園を考える会第 2 回会合開催

- 2004年(平成16)6月1日 千葉市公園管理課と協議
 (自治会連合会)伊藤、小畑、辻、波木、山北
 (公園管理課)豊田課長補佐、本多施設係長、成田課員
- 2004年11月5日 花見川・美浜緑地事務所にて千葉市公園管理課・
 緑地事務所と3丁目公園を考える会(辻、波木、中西、山北、広末)が協議。
 公園管理の利用ルールづくり、管理方法など管理運営システム案を作成し、協議
 を進めることを決める
- 2004年12月 行政側から打瀬3丁目公園利用条件書案の提示
- 2005年(平成17)1月14日 打瀬3丁目公園管理運営ルールを協議
- 2005年2月7日 テニスコート利用ルール・多目的グラウンドの利用に関する細則
 案を公園管理課に提示
- 2005年3月6日 第5回打瀬3丁目公園を考える会開催、会則を制定し
 「打瀬3丁目公園管理運営委員会」に改組、管理運営体制をしいた。
- 2005年3月22日 第1回テニスコート利用調整会議 16団体が登録ルール決定
- 2005年4月1日 打瀬3丁目公園テニスコート部分がオープン利用開始
- 2005年5月7日 第1回球技広場分科会開催、11団体が登録、利用決定
- 2005年6月1日 (多目的広場)球技広場オープン利用開始
- 2009年(平成21)~2010年(平成22)、打瀬3丁目公園は千葉市・千葉大学共同
 研究対象、パークマネジメントの住民管理モデルと指定された。

5) 幕張ベイタウンテニス連合の現況

一つだったベイタウンクラブを11に分割し(各クラブ会員15名程度)たが各グループが集まりベイタウンテニス(MBT)連合を組成。11団体のテニスサークルは幕張ベイタウンに在住又は就業するメンバーで構成された組織とする。テニスを通じたコミュニティ活動、会員相互間の親睦を目的に地域社会に貢献。

平成?年度より打瀬地区スポーツ振興と連携し、新人練習会と春男子・女子ダブルス、秋混合ダブルス各1回テニス大会を開催。個別にサークルごと千葉市のテニス大会エントリー参加。

- 打瀬3丁目公園管理運営委員会活動として打瀬3丁目公園施設の維持管理を目的に、月第一土曜日の8:30~9:00の30分間にボランティアによる清掃作業を行う。千葉市の清掃協力会制度へ登録。
- 打瀬3丁目公園管理運営委員会テニスコート分科会として部会長を出す。
 全体の管理運営委員会会長・委員長を2年毎、バイバスターズと交代で候補者を選出
- 2011年3月大震災ではテニスコートの液状化対応として約40名が出動し、コートの吹き出した土砂を整備した。



以上

辻 和夫 記

1. 設立時の趣意および経緯

幕張ベイタウン・コアは住民が建設段階から関わりながら、千葉県企業庁により建設された。公民館、図書館、子どもルーム、専用音楽ホール並の多目的ホールからなる複合施設で、千葉市に管理運営は移管され、現在に至る。

1996年(平成8)コア事業化研究会がスタートした。千葉県企業庁が、千葉市、住宅事業者、住民に呼びかけ協議の場を作ることにより1997年春に住民によるコア研究会発足。住民代表の下川、海下、岩瀬氏ら3名を選出し、住民が集まり複合施設のありかたについて議論した。

2. 設立時の状況

1997年(平成9)3月第1回コア研究会の会議開催。1番街集会所に21名が参加4月第2回は36名が3番街集会所に集まった。学童保育クラブを、コアの建設を急いで欲しい、テニスコートを、家庭菜園を、便利な図書館をなど要望が出された。

企業庁加藤主幹らからコアの建設計画を聞いた。「子どもルーム」「VATV」「テニスコート」「ミニコンサート」「幕張探検隊」「メッセボランティア」「マルチメディア」「家庭菜園」の8グループが「この指とまれ」として全戸配布。5月に約50名が参加、ゲストとして下村幕張メッセ専務が「地域との連携」を提案。活動はコア建設を考える会の結成、コア運営委員会の開催などへ繋がった。

3. 設立時の活動および体制

各グループ任意の参加で企業庁との協議、子どもルームを目指す会が全住民アンケート、図書館研究会が市川図書館、あすみが丘分館、高洲図書館など見学調査、ベイタウンのホームページ開設へテスト版運用、メディア研究会が自治会連合会活動をビデオ収録。コア研は複合施設への個別の要望をまとめて一つの提案にする活動をした。その間97年6月にベイタウン・ニュース創刊。ベイタウン・ニュースに「あなたのアイデアをコア建設に」掲載。住民希望を募るとあわせ98年には企業庁と千葉市長宛、自治会連合会名で要望書を提出。コア研拡大運営委員会が何度か開かれ、設計者高谷時彦さんやコンサルタントの尾辻さんなどからコア設計の現況を、永田音響の福地さんから音響設計について説明を受けた。2,000(平成12)年ピアノ選定委員会の隅山さん等がコンサートピアノ「ファツイオリ」導入案をまとめ、千葉市予算に加え住民の寄付、篤志家チェスキーナさんの多額の寄付の他、御木マドカ・安藤あゆみコンサート、幕張総合高校文化ホールにてベイタウン合同ピアノ発表会、神田外語大にてチャリティ・クリスマスコンサートなどによるピアノ購入のための活動により資金を集めた。2,002年ファツイオリ購入。コア研から波及して公民館を語る会、開館イベント実行委員会などを経て、2002年3月公募で決まった「コア」の名称で複合施設が開館した。

4. 現在の活動および体制

ファツイオリ購入の寄付金はコア研がベイタウン・コア音楽ホール文化振興基金として管理してきたが、2017年9月文化振興基金は解散。自治会連合会の特別委員会として形を変えた自治会連合会ピアノ委員会(コミュニティコア研究会ピアノ委員会)が基金残金を受け継いでいる。

5. 将来の希望

6. その他



以上

1. ベイタウンコアの趣意および開設経緯

ベイタウンコアは、公民館、図書館、多目的ホールと、子どもルームを併設する千葉市の複合施設。県企業庁が千葉市、住宅事業者、設計者、住民代表を集め設計計画段階から協議され、コンサートピアノは住民主導で選定、導入された。企業庁によりベイタウン・マスタープラン策定の中で「街の中心に位置する、コミュニティの中核施設」が計画された。1997(平成9年)コミュニティコア事業化研究会(企業庁、千葉市、住民、ビジネス街他による研究会)発足、早期施設と将来施設の分離建設の方針確認。1998年事業化研究会のまとめバブル構想崩壊、一転最小限の施設として公民館、図書館、郵便局(その後プロムナード沿いの店舗へ)、音響を重視した多目的スペースを建設とした。

1999年(平成11)企業庁が建設し、千葉市が移管を受け建物管理を行うと決定。

2000年春基本計画、コア設計は設計・計画高谷時彦事務所、ホール音響設計は永田音響設計。電気音響設備の会議・スピーチレベルをコアで必要とされる電気音響システムへ、総工費内に電気音響設備も含めるよう要望、実現。

2001年(平成13)建設着工、延床面積2080.9平。

2002年(平成14)竣工。『幕張ベイタウンコア』の施設愛称は2001年公募により付けられた。

2. 開設前後の状況

住民のコミュニティづくりにつき(コア研究会の項参照)、1997年より学童保クラブ、図書館の設置、コアの建設を急ぐ等要望があり、企業庁主導のコア事業化研究会においても住民の声が吸い上げられる手法があった。コア建築研究会、子どもルーム建設を目指す会、図書館研究会等が設計者を決めるまでにベイタウン居住者の考えとして「基本構想」提案。自治会連合会長名で要望書提出。コアを考える会やコア研拡大運営委員会が開かれ、コミュニティ・フォーラムの形で基本計画の説明があった。

2001年ピアノは市役所予算内の標準備品であるアップライトであったが、これをコンサートピアノ購入へ住民がチャリティコンサートや寄付などでコンサートピアノ選定実行委員会(隅山雄介氏)、チャリティコンサート実行委員会等が活動購入を実現した。

2002年(平成14)にコア開館イベント実行委員会。開館時には開設式典のみでなく、3月から4月にかけて、ベイタウン・コア設計者と語る会、防災、防犯などの展示、

打瀬中学生や打瀬図書館の展示、ダートマス大学混声合唱団コンサート、地域教育映画とワークショップ、W杯アイルランド応援関連イベント、こども狂言クラブ公演、おはなし会、ベイタウン寄席、ベイタウンミュージックフェスタ、仲道郁代ミニ・コンサートなど、もり沢山のプログラムが行われた。

「公民館運営懇談会」とは別にコア研による公民館の運営を考える会が開かれ、公民館から公民館利用方法の現況、利用申請などルールの説明があり、住民側からの意見など、街の中核施設としてのコアの役割が意識されてきた。

2002年(平成14)第15回千葉市優秀建築賞、第20回千葉県優秀建築賞、2006年第10回公共建築優秀賞受賞。仲道祐子、天満敦子、藤原真理、ウイーン5重奏団など一流の演奏家や若手演奏家を招いてのクラシックコンサート、中年バンドの様

な地元のアマチュア楽団、合唱団、オーケストラ、また京劇、ガムラン演奏や音楽関係イベント、講演会、まちづくりのシンポジウム等多目的ホールを十分に活用してきた。以上がコア開設に関わるはじまりの経緯である。

打瀬図書館は、教育委員会生涯学習課や公民館館長の交代により紆余曲折はあるが、稲浜公民館の分館ながら特異な活動を展開利用者数も多い。

以上

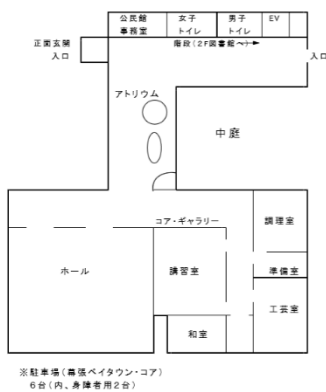
HP 「Makuhari BAYTOWN CORE」 を参考にした。

辻 和夫 記

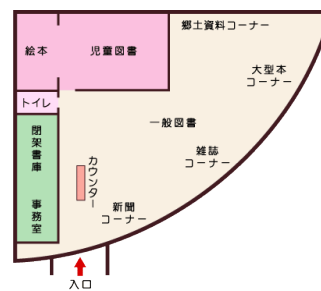


打瀬公民館 正面

打瀬公民館 1階平面図



1階平面図



2階図書館

「幕張ベイタウンニュース」は、1997年(平成9)6月に創刊された月刊のニュース紙です。

現在幕張ベイタウンの全戸に無料で配布しています。

1. 創刊の経緯

当時、ベイタウンでは街区単位ではなく、住民全体で情報を共有し活動する組織の必要性が唱えられていました。未整備の公共施設などについて住民全体の意志を決め、行政に対して希望を伝えるなどの観点からもこれは重要なことでした。

この運動はその後の自治会連合会結成へとつづくこととなりますが、その準備段階として住民全体で情報を共有する手段が必要となり、情報誌の発行が検討されました。

この情報誌の編集を担当したのは、3番街在住の金氏、1番街在住の板東氏、そして10番街在住の松村の3人です。

創刊号は三井不動産からの広告掲載により資金的に潤沢であったためA4サイズ6ページフルカラーという豪華なものになりました。これは5番街在住の下川氏のアドバイスによるものでした。創刊号(1997.6.1)

2. その後

ベイタウンニュースはベイタウン周辺の企業からの広告費を発行の資金とし、無料でベイタウンの全戸に配布することが通例となりました。

ベイタウンニュースは現在、創刊時の自治会連合会の広報誌という形態ではなく、住民ボランティアによる自主的な情報誌として発行されています。これは外部からの資金援助を得ることで編集に偏重があることを避けるためです。

以上

松村 守康 記



創刊号(1997.6.1)

「ひまわり会」

2019.10.26

5. 設立に至る経緯

‘新しい街に新しい友だちを作ろう’をモットーに、林（3番街）、海下（3番街）らが発起人となって、当時1～12番街まで婦人だけの会員募集を呼びかけた。

女性55歳以上に限定。月1度の会合は親睦の目的

1997年（平成9）に約20名の会員をもって設立。

場所は3番街集会室を借用。

初代会長は林郁子、以降互選で会長職の交代をしている。

2) 会の活動

集まってお茶とおしゃべり、子育てが終わった女性たち（学校のPTAの役割を終えた女性等）の居場所、情報交換。

他に社会貢献として、打瀬小学校の清掃、トイレ掃除などボランティア活動、各小学校の「昔遊び」、中学校のAT（現行EX）講座のプログラムの一つとして戦時の食料事情の講義及び「すいとん作り」を生徒たちと一緒に料理し、食べる行事の主幹ないしお手伝い等。

適宜、千葉市美浜区役所のサポートを得て講師を派遣してもらい、講習会を開催。

当初多数いた会員の中から、他のサークルないし自分で立ち上げたサークルへ移行した人がおり、全体としてコミュニティでのお付き合いの多様化が進んだ。

出入りはあり、他の組織・サークルと掛け持ちの人もいたが、略々20～30人の会員数で推移している。シニアクラブが出来たのはひまわり会の後である。

毎年ベイトウン祭りに、自分たちの手作り小物を販売の出店。

3) 現況

毎月1回の集まり2～3時間で、茶果と談話、みんなでカラオケ的に歌を唄う。他にバス旅行など行事と交流を多数行っている。1～6班を編成し、班長を置き、2ヶ月の活動を交代で担当している。2019年(令和元)10月現在会員数25名。

現在はボランティア活動やベイトウン祭り出店はお休みしている。



ベイトウン周辺部より

以上

文責 辻 和夫

「子どもルーム」

2020.2.28

1) はじめに

子どもルームは、児童福祉法に基づき千葉市が、国の放課後児童健全育成事業(学童保育)として平成 27 年度より条例に基づき(社会福祉法人)千葉市社会福祉協議会が受託し、実施している。保護者が就労等により昼間家庭にいない小学校に就学している児童に対し、放課後(夏休み等長休日は、8:00~18:00 又は、19:00)の遊びと生活の場を保障することにより子ども達の発達支援と保護者の就労・子育て支援を目的とした事業です。

子どもルームは、社会福祉協議会から委嘱を受けた支援員が複数配置され、学校や家庭とは違った視点から子ども達の毎日の生活を手助けしています。

2) 学童保育の経緯

学童保育は、もともと必要に迫られた保護者たち自らが立ち上げ運営していましたが、全国的な需要の高まりの中で法制化がなされ、平成 12 年 4 月千葉市でも市が事業主体となり施設の整備及び児童の募集に関しては、千葉市(子ども未来局健全育成課)が責任を持ち支援員の雇用を含む運営全般については、(社会福祉法人)千葉市社会福祉協議会へ委託をす公設民営の形となっている。

現在では市内全域に 130 を超える子どもルームが作られ、今現在も高いニーズがあり市も市社協も施設の整備・支援員の確保に追われています。

平成 26 年 9 月 22 日に条例 51 号が成立し、27 年度より高学年ルーム(4 年生)の受入れが始まりました。さらに 29 年度からは 6 年生まで利用できるようになりました。しかし、31 年度、海浜打瀬小学校高学年子どもルームは、開設されていません。

3) 打瀬地区子どもルームの経緯

平成 6 年 打瀬小学校開校~平成 10 年『磯辺子どもルーム』に通う
平成 10 年 『幕張ベイタウン子どもルーム』開設 但し市からは
補助金のみで場所の確保・

運営の工夫・指導員の雇用の全てを利用者の父兄

美浜打瀬小子どもルーム

自らが行き 11 番街の店舗用スペースにて児童 20 名足らずでスタートをした。

平成 12 年 児童福祉法の改正で地方自治体に本事業の義務化がなされた。

現場の窮地を父母会がまとめ、千葉市に緊急要望書を提出した。

平成 13 年 1 丁目公園隣の空き地に仮設プレハブ開設 (打瀬小・海浜打瀬小の児童 87 名)

平成 14 年 コア完成に伴い『打瀬子どもルーム』と改称し移設(児童数 100 名県最大規模)

平成 15 年 『打瀬子どもルーム』をコア横(現地域連携センター)に開設 海浜小はコアへ

平成 18 年 『美浜打瀬小学校子どもルーム』を校舎横に開設

平成 24 年 『海浜打瀬小学校子どもルーム』をエコパーク内に開設 打瀬小はコアに残る

平成 26 年 打瀬小校舎内に『打瀬小学校子どもルーム』を開設



4) 現在の子どもルーム状況 (2019 年(令和元年))

打瀬小及び高学年ルーム	140 名	海浜打瀬小(高学年も含む)	100 名
打瀬(コア)	120 名	美浜打瀬小(*民間委託)	80 名

『打瀬子どもルーム』には海浜打瀬小、美浜打瀬小の一部が入る。

以上
吉川 伸子 記

設立時の趣意および経緯

2002年千葉県・幕張ベイタウンに結成。2006年からは本格的に合唱アンサンブルを目指した活動を開始し、幼稚園児から高校生までのメンバーが「透明感のある美しい歌声」を目標にして練習に励んでいます。国内外のアーティストや合唱団との共演、リサイタル・各種イベントへの参加など、活動の範囲も広がっています。

～設立者 森本先生談～

『私がジュニアコーラスに携わるようになった原点には二つの体験があります。

一つは、小学5年生の時に故郷・松江にやってきたウィーン少年合唱団の歌声でした。それまで聴いたこともない美しい歌声と気品のある文化の香りに心を奪われ、大きな感動と衝撃を受けました。その時から、私の中で子どもたちの澄んだ歌声は特別で神聖なものになったのだと感じています。

もう一つは、主人の赴任先の神戸で遭った阪神大震災。あの時、当たり前のように音楽ができることがどんなに幸せなことか、初めて知りました。幼い子を含む多くの命が震災で失われ、生命の尊さについても改めて考えさせられました。

私は、成長期の子どもたちの歌声に、生命の輝きや喜び、かけがえのない尊さを強く感じます。そして2002年、「透明感のある美しい響き、躍動感あふれる音楽」を目標に「ジュニアコーラス フェアリーズ」が誕生しました。子どもが本来持っている素直な心と豊かな生命力を歌声に乗せて多くの人に届けたい。これからもそう願い、活動していきたいと思えます。』

主な活動・受賞歴

☆毎年、定期演奏会を千葉県美浜区打瀬公民館（幕張ベイタウンコア）音楽ホールにて開催。

（2019年11月には第15回を開催）

- ・2010年8月 千葉市の姉妹都市・ヒューストン市で親善友好コンサートを開催
- ・2015年9月 日韓国交正常化50周年記念行事である青少年合同音楽会に参加
- ・2018年8月 NHK千葉放送局にて第59回ランチタイムコンサート「美しい日本のうた」に出演
- ・県民の日幕張フェスタ2018 県民アート&コンサートに出演
- ・千葉県合唱祭 2006年より毎年参加

◎関東ヴォーカルアンサンブルコンテスト 2019・2018・2016年金賞受賞、2013年銀賞（一般部門千葉県代表）

◎千葉県合唱アンサンブルコンテスト 2020年～2010年、2008年に11年連続、12回の金賞受賞

（うち、2020年・2019年・2013年・2010年・2008年は朝日新聞社賞受賞）

◎東京春のコーラスコンテスト 2014年ジュニアの部1位

（幕張総合高等学校合唱団との合同チーム『MSCC フェアリーズ』でエントリー）

◎声楽アンサンブルコンテスト全国大会 2019年2位銀賞受賞、2015年・2014年銅賞受賞

◎東京国際合唱コンクール2019・2018年金賞受賞

◎第18回千葉市芸術文化新人賞受賞

現在の活動と今後

対象 ☆リトルクラス 幼稚園年長～小学2年

☆レギュラークラス 小学3年～高校生

練習日 土曜日曜の午前中（クラスによって異なります）

練習の場所 幕張ベイタウン・コア音楽ホール、海浜打瀬小学校特別教室 他

会員数 60名（2020年2月現在）

今後の目標 本年日本で行われるオリンピック・パラリンピックに関連する行事への参加や、海外への遠征も検討しています。また、コンクールにも出場し、結果を出していきたいと思います。

今後も千葉県を、日本を代表する合唱団として活躍していけたらと思います。

指揮・指導 森本真由美

東京音楽大学音楽学部声楽科卒業、千葉大学大学院教育学研究科芸術専攻修了

千葉県合唱連盟理事、JCDA 日本合唱指揮者協会会員

合唱講習会の講師やコンクール審査員なども務める。

ピアノ 臼田圭介

東京音楽大学ピアノ演奏家コース卒業、同大学院伴奏修了

第15回千葉市文化芸術新人賞奨励賞受賞

ハンドフルートとピアノのデュオ CHILDHOOD では作曲・アレンジもこなす。



第15回定期演奏会 幕張ベイタウン音楽ホールにて

以上

事務局 中村 美紀子 記

「むかし遊び」(小学校向け)

2020.1.28

1. 発足

平成13年(2001)に海浜打瀬小学校が開校した。開校初年度は、学校の内部の組織固めが中心であるが、その間に、次年度からの対外的なことの準備が必要になってくる。私(鎌田)が体育施設開放の準備をお手伝いということで、学校にたびたび足を運んでいた。

初代の星校長先生と話し合うことが多かった。いわゆる「学校開放運営委員会」のことだけでなく、ベイタウンの6年間の歩みなどいろいろと雑談もしている中で地域の大人と子どもとの接触が話題になった。星校長は幕張小学校の経験もあり、この地域のことに精通されていたのだが、まるっきり新しくできたベイタウンは、幕張地区と違っていた。



そこで、まず1年生と地域の大人との交流を考えて「むかし遊び」が話題になり、2年目に実施してみようということになった。

当時、打瀬小学校のプールを使って「プール会報」が実施されていたので、地域と打瀬小学校とのつながりができていた。そのプール会報運営委員のメンバーに呼掛けて準備をはじめた。

最初に集まったメンバーは、遊びの専門家・小畑さんはじめ松村さん、野田さん、星さん、重松さん、荒川さんたちであった。むかし遊びとは何か、自分の子どもの頃の遊びはどんなだったか、どんな種目ができるだろうか……。

ちゃんばら、たけうま、めんこ、ビー玉、くぎ打ち、たこ揚げ、おりがみ、おはじきなど、楽しかった子どものころのことを思い出しながら語り合った。

実施日が雨天であったらできない種目もあるという事で、室内での遊びに絞ることにした。

準備している間にお手伝いのメンバーが少しずつ増えてきた。当時の記録書類を破棄してしまっているので正確には書けないが、いろはかるたや缶馬なども入って楽しい遊びができた。

その缶馬では、江副さんがスティールの空き缶を集めて、穴をあけ、ひもを通して用具を一切作り、遊ぶ時には転んで足をくじくことの無い様に周りにマットを敷いたりときめ細かな配慮をされた。また、モノづくり名人の小畑さんは、市販の竹とんぼと違い、15m以上も飛ばすスーパー竹とんぼを自作して子どもたちを喜ばせている。

当時のベイタウンの活動グループには、林さんが中心となっていた「なのはなクラブ」と砂原さんが会長をなさっていた「シニアクラブ」があったので、そのメンバーの方々に呼掛けてお手伝いをしていただいた。しかし、公的な団体ではなかった為にその準備は個人がするようだった。

今ならメールで流すこともできるけど、各人のお宅を回ってご都合を聞き、プリントを作ってお配りするという原始的な運営であった。

おかげで各番街のエントランスやポストの場所など覚えられて、私としては、ベイタウンの財産が増えた気がする

海浜打瀬小学校ではじまった「むかし遊び」が打瀬小学校、美浜打瀬小学校にも広がりベイタウンの行事に発展していった。

2. 現在

その後、社会福祉協議会 打瀬地区部会が、平成 19 年(2007)に発足し、部会長の伊藤さんがとりまとめてくださるようになって、順調に進められるようになった。

個人の力には限界がある。組織の力で動かせば、大きく成長できることを実感した。

種目も、こま回し、紙飛行機、竹とんぼ、お手玉、おはじき、あやとり、折り紙、トランプ、いろはかるた、ぶんぶんごまと定着し、担当者が殆ど固定されて、子どもたちから「名人」といわれるほどに上手に教えていただけるようになってきている。

そして、その時間だけの交流でなく、街で出会った時に「あ、けん玉の名人だ」と声をかけてもらえるようになって、子どもと地域の大人とのつながりが盛んになってきている様に思う。

また、参加している私たちにとっては、はち切れるような元気を持った子どもたちからエネルギーをもらい、軽い足取りで学校を後にすることができて楽しい一日でもある。

以上



鎌田 繁 記

追記 (濱)

最近(令和2年)の3小学校での「むかし遊び」の内容例

こま回し、紙飛行機、竹トンボ、けん玉、おはじき、あやとり、折り紙、トランプ、いろはかるた、ブンブンごま、お手玉

以上

1. 始まり

平成7年(1995)7月21日、打瀬小学校の夏休みが始まった。学校で配られたラジオ体操カードを持って赤玉青玉公園に来ている3人の児童がいた。

その翌日も同じように来て、しばらくしてあきらめて帰っていった。それをベランダから見ていた鎌田は、ラジオ体操の場所を探しているのだと思った。

ベイタウンは始まったばかりでそのような活動は何もなかったのである。そこで、打瀬小学校に行って聞いてみると、「学校ではラジオ体操はやっていません、地域の方がやってくさるので あればどうぞ」との返事だった。それなら楽しみにしている子どもたちのためにと思い、準備を始めた。

- ① 期日は夏休みの最後の10日間(21日から31日まで、日曜日を除く)
- ② 場所は、パティオス4番街のプロムナードコート
(初年度は学校の校庭は使えなかった)
- ③ 最終日の子どもたちへのご褒美は千葉興業銀行さんをお願いする
- ④ ポスターを手作りして、1~6番街の掲示板に貼ってもらう
- ⑤ 美浜郵便局に行ってラジオ体操カードを余分にもらってくる
- ⑥ 出席のハンコは鎌田の「鎌」の字の手作りのもの



8月21日の初日、7、8人が出てきて、楽しいラジオ体操会が始まった。ところが、朝早くから子どもの声がうるさい、ラジオの音もうるさくて寝てられないとの投書が届いた。そのことを子どもたちに話して、できるだけ騒がないようにとお願いして体操は続けた。エントランスの掲示板に貼ってあったポスターに「ラジオ体操はやめないで」と書いた子どももいた。最終日(31日)には30人くらいの子供が集まって、体操の後ご褒美をもらった。このご褒美のことを知った近所の田村さんがお勤め先のNTTから品物をもたらってきて追加されて、子どもたちは大喜びだった。

翌年から小学校の校庭が使える様になり、広い校庭でのびのびと体操ができるようになった。夏休みに入った最初の10日と8月最終の10日間の合計20日間実施するようになった。

小学生だけでなく小さい子どもから大人まで幅広い参加者になった。出勤前のお父さんが、かばんを小脇に抱えて、第1体操だけをして駅に向かって歩いて行かれるほほえましい風景もあり、のどかな楽しいラジオ体操会だった。周りのマンションがまだ少なく、京葉線の電車が見えたり、ホテルなども見える広々とした校庭であった。

最初の数年間は鎌田が前に出て指導していた。

2. その後

打瀬小学校の校庭でも近隣の方から「うるさい」の苦情があったのでお伺いして事情を聞いてみると、早くから来る子どもの声が聞こえるとのこと。これも子どもたちに話し、ラジオの音も最小限にし、6時29分から40分までとして了解して頂いた。

参加者が多くなりご褒美の準備が大変になってきたので平成11年にご褒美をやめることにした。恨めしそうな声も少しはあったが、納得していただいた。

海浜打瀬小学校が開校して二つの校庭が使えるようになったが、メッセ大通りの横断が心配になり、交通整理のサポートをお願いした。早朝の横断で心配していたが、1件の事故もなく無事に過ごすことができた。

平成 17 年 1 月に鎌田が左ひざの骨折をして入院、手術ということがあった。6 月まで回復できるかと心配していた時に、前でやる模範体操を子どもにやらせたらという提案をいただいた。打瀬、海浜の両小学校に相談しご了解をいただき、今のようなリーダーが誕生することになった。希望者を募ってリーダーの練習を始めたが、朝礼台に上がって左から動く体操を覚えるまでには大変であった。でも素晴らしい体操をするようになり、今ではテレビで見る体操に劣らない動きができるようになってきた。

このリーダーたちは、小学校を卒業しても毎年の体操会に参加している。リーダーの特別練習で模範演技を披露したり、個人の指導にもあたっている。また、100 台 200 台の自転車の整理をしたり、交差点で横断の安全の見守りなど、陰の仕事に気を配っているありがたい存在である。A 君などは 6 年生の時はもちろん、中学校、高校の 6 年間も一日も休まずみんなの面倒を見てくれていた。低学年の時からリーダーにあこがれて、6 年になったらリーダーに立候補して立派に勤め上げた子どもがたくさんいる。

毎年のポスターは森山郵便局長さんのお嬢さんがかわいらしい絵を描いてくださっていたが、局長さんの退職によって令和元年からは、打瀬中学校の美術部の皆さんに描いてもらうようになった。

平成 19 年からは美浜打瀬小学校の校庭もつかえるようになり、3 校のローテーションができ、ベイタウンの伝統行事が確立した。

ベイタウンニュースではたびたびトップ記事として扱っていただいている。No.4 の「夏休みはやっぱりラジオ体操」に始まり、No.183 のトップ写真では千人以上が校庭にあふれている。また No.207 では「千人のラジオ体操が始まりました」のタイトルが踊っている。

リーダーに対してスポーツ振興会から「あんしん保険」の保険料と消耗品の助成をいただくようになった。この数年、誰一人保険のお世話になることなく過ごしている。

3. 今年の体操

令和元年の今年は学校の夏休みが 7 月 13 日からになり、ラジオ体操も 14 日から始めることになった。第 1 期が 14～20 日で美浜打瀬小、第 2 期は 21～27 日で打瀬小、第 3 期が 8 月 25～31 日で海浜打瀬小となった。郵便局から届いた「ラジオ体操カード」には 7 月 21 日からしかなくマスクがなく、何となく違和感のある開始になった。おまけに今年例年になく雨が多く、雨天中止となった日が多かった。まったく雨の心配をしなかったのはわずか 4 日しかなかった。雨天でもリーダーは出てきて雨のかからない廊下やピロティーで練習し、傘をさして出てきた数名の人と本番の体操をした。1000 人のラジオ体操と自慢していたのががっかりの年になった。

4. 付記

平成 8 年 8 月 第 35 回 1000 万人のラジオ体操会（マリスタジアム）に参加

11 月 小さな親切 全国大会（虎の門ホール）で発表

14 年 3 月 朝日新聞に紹介

17 年 10 月 ラジオ体操優良団体（関東地区）としての表彰

19 年 9 月 読売新聞に紹介

24 年 5 月 千葉を美しくする会から表彰



以上
鎌田 繁 記

1. 発足

打瀬公民館の開館式があった2002年（平成14）3月23日その日から活動を始めた。

ベイタウン内のサークル活動の草分けであると自負している。

開館式に参列された方、見学に見えた方々を対象に、子どもルーム横のスペースで竹とんぼ、紙トンボ、ぶんぶんごま、竹の笛、紙の笛など200点を用意していたら全部はけてしまった。

*それ以前

ベイタウンの街開きの2年後1997年くらいに、土曜日の子どもの居場所を作ろうということで鎌田他数名が集まって、打瀬小学校の中庭で、割り箸鉄砲、水鉄砲、自転車のパンク修理、パラシュート、幕張の浜の貝探しなどを始めていた。

2. 現在は

毎月第4土曜日の午前中、工芸室で「工作ランド」を開催。

1月 お箸作り	2月 紙のコマ	3月 レイボースコープ
4月 ベンハムのコマ	5月 紙トンボ	6月 紙の笛
7月 せみ	8月 ぶんぶんごま	9月 竹の笛
10月 木の実の笛	11月 やじろべえ	12月 でんでん太鼓

3. 最初のころは

工作だけでなく手芸や科学実験なども実施していた。手芸は2年近く続けて子どもたちに好評であったが、指導者の関係で中止になった。

現在は前記の12種目に行っているが、竹馬を作ったり、松ぼっくりの鶴、クリスマスリースなども作っていた。

中学生や小学校高学年も多く来ていたが、その数がだんだんに少なくなった。最近では小学校1,2年生がほとんどで、10名以内になっている。

4. 運営

塾保険に加入。作業中のけがの心配はほとんどないが、家から家までの保険（往復の交通事故対応）に加入している。参加者が毎回50円を支払う。

小畑、鎌田の二人で指導しているが、後継者が欲しい。

親子の参加も増えてきているので、お手伝いを頼んでいる。

必要な工具の購入が思うようにできない。

材料費として集金すればよいだろうが、現在は保険費だけ。

子どもたちへのお知らせは、3小学校の1～5年生の各クラスにチラシを3枚ずつ配っている。そのほか、公民館アトリウムにポスターと見本を展示し、ベイタウンニュースにも掲載してもらっている。

幕張インターナショナルスクールにもチラシを配って呼びかけたが、1年間反応がなかったのでチラシ配布を中止した。

5. 雑感

- 多くの参加者があればいい。工芸室に入りきれなくて、講習室まで借りたことが数回ある。
- 工具購入費用が欲しい。のこぎりの刃など消耗品に近い。私物を使っているが限界に近い。参加者が多ければ保険費として集金した中から支出できるけど。
- 高学年向けの内容を取り入れたいけど。月2回は部屋が取れないし、高学年は学習塾、習い事、ゲームなどで忙しそう。
- 親子の参加が増えている。親はただ見ているだけではなく、子どもと一緒に同じものを作ってもらっている。そうすることで要領がわかり子どもに教え易くなる。紙のコマの時は、長時間競争で「さすがはお父さん」と賛辞を浴びることになる。
- レインボースコープの時など、ただ作品を作るだけでなく虹の七色を覚えたり、赤外線紫外線のことまでも話して興味づけている。
- 紙に糊をつけるときは必ず薬指を使うようにしている。そのため薬指を「のりゆび」と呼ぶようにしている。
- この工作ランドの様子を東京都港区の長寿社会文化協会の方が知り、その全国大会で発表することもあった。それを契機に世田谷区や我孫子市からの依頼もあり、そちらの子どもたちにも作品を紹介したこともある。
- 幕張総合高校の放送部の生徒さんが「地域のこどもたち」というテーマで取材に見え、半年にわたって子どもたちの様子をビデオに収め、コンクールに出展したこともあった。

以上



鎌田 繁 記

1. 設立時の趣旨

「花時計」は、ベイタウンの歌の好きなシニアが集う場として、2003年(平成15年)1月に発会しましたので、17年も時を刻んできたこととなります。

当時、私は民生児童委員として活動しており、担当の高齢者の方から「あちこち悪いけれど、じっとしているとよけい辛いので、好きな歌でも歌っていたい。でも、本格的な合唱団だと体力的についていけないので、もっと気楽な歌の会をつくってほしい」と言われたことがきっかけでした。

ベイタウンは、街がまだ発展中で、住民の平均年齢が31歳、高齢者の集う場所がほとんどなかったため、シニアが集い、歌い、友人を作れる場所が必要と思っていました。福祉的な意義のある会として、私の住む東の街理事会からのご支援も頂き、スタート。月に2回(第2・第4月曜日13時30分～15時30分)東の街集会室で定例会を開催、会員は最多で65名在籍したこともありましたが、現在は47名です。

ベイタウンだけではなく近隣から来て下さる方もいますし、比較的若い方も参加されています。

2. 発会後の経緯

あっという間の17年のような気もしますが、年齢だけは着実に重なり、発足以来ご指導下さった東の街の山口先生がご高齢を理由に指揮者を辞められ、2017年(平成29年)からは後任として、長年ピアノ伴奏をして下さっている21番街の澤田先生のお嬢さんの香萌(かほ)さんに指揮を引き受けて頂きました。

小さかった香萌さんも、桐朋学園大学院大学を今年卒業となり、可愛がっていた孫に教えてもらうような形に。さらに、ピアノ伴奏の澤田先生は2018年からは会の代表も引き受けて下さいました。また、桐朋学園大学の香萌さんの友人たちの協力体制もあり、ご指導の先生方の若い力で、今まで以上に明るさと華やぎと、世代間ギャップに大笑いする笑顔の 때가多くなりました。

歌の合間に、20分程のティータイムがあり、季節のお菓子とお茶とおしゃべりを楽しみに来て下さる方も多いようです。楽譜が読めなくても、楽しく、いつの間にか歌えるようになりますので、専門家の力は素晴らしいと思いますし、若い先生方に親切に教えて頂き、若返っているようです。随時会員募集中ですので、興味のある方は是非見学に来てください。

3. その他

振り返るといろいろなことがありましたが、会員に支えられ、ベイタウンの皆様に支えられ、何にもまして東の街の皆様の温かなご支援に支えられた17年間でした。会員がいる限り、花時計は皆さんと共に佳き時を刻み続けていきますので、さらなるご理解とご協力をお願い申し上げます。



以上

副代表 吉田ちづ 記

「打瀬卓球クラブ」

2019.11.29

打瀬卓球クラブは美浜打瀬小学校のアリーナを活動拠点にして毎週土曜日の午後3時から6時までとウィークデーが祝日で学校がお休みの午後2時から5時まで卓球を通して老若男女が楽しく交流しています。



1. 結成時の状況

当クラブは13年前(2006)に美浜打瀬小学校が開校したその秋に学校の体育施設が一般に開放されることになり、その時に

イ) 他の練習場所で練習をしていた愛好者の団体、

ロ) シニア(高齢者)の愛好者グループ

ハ) ベイタウンテニスクラブの会員で雨天時に他所の場所で卓球を楽しんでいたグループが一緒になって結成されました。

クラブ結成時の会員数は30人弱でしたが、現在は40人を超えており、練習に参加する人数は毎回20数名ととても盛況です。

2. その後

結成された当初は、技量のレベルが、①競技大会で上位入賞を目指している上級者、②若い頃に卓球部に所属していた中高年のベテラン、③ピンポンを楽しむ程度の初級者や④初心者とバラバラでしたので上級者の多くがクラブから離れてゆきましたが、「ベイタウンに住むスポーツ愛好者が卓球を通して楽しく交流する」ことを基本姿勢にして今に至っています。

今では、この基本姿勢を理解して参加している上級者は多数おり初級者や初心者への指導を率先してやってくれております。

その結果、入会当初はピンポンレベルの初球者や初心者だった人が今では競技大会へ出場し入賞するほど上達した人も多く育っています。

卓球というスポーツは、高齢者でも本格的なスポーツとして楽しめますし、天候(雨天)や気候(暑い夏/寒い冬)に左右されません。

また、プレーするためにかかる費用(ラケット、シューズ、ユニフォーム、プレー代)は少額でとても経済的なスポーツです。(当クラブの年会費はたったの¥1,000です。)

3. 現在の状況

この街で「卓球を通して楽しく交流することを基本」にしておりますので、毎年、年度末には「定例年次総会」と称して懇親会を催していますし、他にも“暑気払い”、“忘年会”、“新年会”など楽しい交流会を催しています。

クラブ結成当時の会員15人ほどが今でも残っており、この基本姿勢を守っていますが、これからも引き続きこれを守りながら、体力増強/技術向上(レベルアップ)/卓球を通して楽しく交流することに邁進したいと思います。

以上
熊倉 英雄 記

「将棋サロン、こども将棋大会」

2019.12.12

1. 始めたきっかけ

以前より、将棋の楽しみをベイタウンにも知ってもらいたいと思っていました。
将棋は、囲碁と並ぶ日本の知的な伝統文化である。

当初、2009年(平成21)に美浜打瀬小の「わくわくキャンパス(将棋サークル)」の指導員の募集を見て応募したのが始まりです。

当時の参加者は、3～6年生の10名ほどでした。

2. その後の活動

1) 2010年(平成22)11月の第1回「コアフェスタ」に「ちびっこ将棋大会」を開催し、その後「こども将棋大会」と名前を変えて参加している。

① 将棋盤、駒は、自分と美浜小の所有品

② 運営に当たって、参考にしたこと

・プロ棋士の将棋道場(柏市)での子供将棋大会の見学

・日本将棋連盟(千駄ヶ谷)に赴き、大会方式を聴取

運営は、上記「わくわくキャンパス」のコーディネーターや協力員の女性に手助けしてもらって毎年、行っている。

2) 「ふれあい将棋サロン」

8年前(平成23年頃)、社協地区部会の落合 清さんから活動参加を誘われ、また、故波木正司さんから勧められ、福祉活動推進員としての「将棋サロン」を毎月センターで始めました。

3) 「夏休みこども将棋大会」 社協地区部会主催

2014年(平成26年) 開始。小学生を主体にご両親たちと一緒に20数家族が参加し、毎年、楽しく、真剣に戦いました。

大村(久)、高橋(朝)、須藤(麗)、村田(知)さんのお手伝いを得ながらスムーズに実施している。

4) 「わくわくキャンパス」、コアフェスタの「ちびっこ将棋大会」、社協「将棋サロン」、
「夏休みこども将棋大会」は、以後、毎月または毎年継続している

以上



高田 朋治郎 記

「 男の料理教室 」

2020.1.7

1、設立時の趣旨、経緯と体制

後に「男の料理教室」の先生になるベイトウン在住の調理師 小泉恒子さんが当時の「ベイトウンシニアクラブ」の会合において、女性同士の雑談の中で、料理を習いたい人がいれば私が教えても良いと話されたことが噂となってシニアクラブの連絡担当役員であった落合清氏の耳に入った。

数日後、落合氏が小泉さんと会って噂話の真偽を確かめたところ、ボランティアで先生を引き受けてくれるとの快諾を得て、大まかな約束事を決めた。

落合氏は男性の料理の会を作るべく、早速賛同者を募る活動を開始し、落合氏を含め 11名の賛同者を集めた。

当初の会員は、槇田茂雄、山田寿規、高橋栄寿、小畑幸保、加藤邦夫、本藤幸男、徳光脩、川口正昭、濱宏純、落合清、大垣靖仁の各氏であった。

平成16年(2004)3月6日に初回の「料理の会」をベイトウン・コアの調理室で開催した。開催に当たっては、事前に先生から材料、数量、作り方を書いたメニューを落合氏が 預かり、それをもとに本藤幸男氏がパソコンでレシピを作り教科書とした。また、会の名前を「男の料理教室」とすることに決定した。

メニューは、小泉先生の得意なイタリア料理が中心であったが、素人の私たちに野菜の切り方や、焼き方、煮方、茹で方、調味料の按配などを丁寧に教えてくれた。



発足時のメンバー

2、その後の経緯

開催は不定期であったが、年に4～5回のペースで行われてきた。平成23年(2011)2月から場所を後に会員になった奥貞操氏の斡旋で、マリンフォートのキッチンスタジオに変えた。

同年9月からは先生の体調がすぐれず長期に休んだためその間復習でしのぎ、その後 先生がベイトウンから転居したため、ボランティアで教えてくれる先生を探したが見つからず存続の危機に陥った。そこで平成25年(2013)8月に会員間で相談し、徳光氏が 毎回メニューとレシピを作ることにし、メニューとレシピは料理の本を参考にして、和洋中など幅広く作った。作るに当たっては、過去に作ったものと重複しないように配慮した。

平成26年(2014)1月からは「メニュー決定委員会」(委員はメニュー作成者、輪番制の当番、食材購入者(大垣氏)で構成)を設けて、種類毎に作った多品目のメニューの中から2品目を決めて実施している。

3、現状

開催頻度は概ね2か月に1回、場所はマリンフォートのキッチンスタジオ、時間は10時から13時、会費は実費(会場使用料を含め、1人千円程度)。令和2年(2020)1月現在の会員は当初から参加の会員5名を含めて8名、リーダーは、徳光 脩氏。実施回数は74回。習得したレシピは、146種(メイン、総菜、汁など)に及び。

会員の中には、奥さんの評価を得ながら、自宅で自ら包丁をもって活躍をされている方も居られる様である。

以上
徳光 脩 記

1. コア設立時の経緯

当初 500 人ホール・美術館・ブチホテル を含むベイタウンの中核コミュニティ施設として計画されました。1997 年(平成 9)に企業庁の呼びかけにより住民がコミュニティコア研究会を立ち上げました。各種調査、意見集約、建築設計案作成、企業庁との話し合いなどを繰り返し、大幅に計画縮小された施設のキラリと光る特徴としての「生音重視のホール」というコンセプトを創り上げました。そして 2002 年(平成 14)3 月 200 人の音楽ホールをもつ複合施設「幕張ベイタウン・コア」として開館しました。

この音響のすばらしいホールに見合い、他にはないベイタウンの革新性と国際性を象徴するコンサートピアノとしてイタリア製の「ファツィオリ」が選定されました。

しかし、千葉市の予算は不十分で、開館前から、住民自ら数回のチャリティコンサートを開催し、募金を募りました。開館後も有名演奏家を招いてチャリティコンサート、チェスキーナー洋子さんから 200 万円の寄付などで、コンサートピアノの購入に至りました。そしてこのピアノは、今まさにベイタウンの音楽文化の象徴となっています。

2. ベイタウン音楽愛好会の設立から現在に至る活動

コア設立前の 2000 年(平成 12)のはじめでの合同発表会の後、音楽講師や音楽愛好者の連携が出来、2002 年(平成 14)6 月に「ベイタウン音楽愛好会」が設立されました。

そして、上記のように住民の念願であるコミュニティー環境を出来る限り利用して頂くために、音楽愛好会の活動を開始致しました。現在会員数は 30 名、そのうちこの活動に初めから参加し、志を一つにして活動を続けている会員は半数以上です。そして新しい会員にも、街の音楽文化活動を担うのだという心構えを持ってご入会いただいております。主な活動は下記の通りです。

① ベイタウン音楽会

初めのころは年に複数回、その後、年に 2 回「ベイタウン音楽会」ウインターコンサートとサマーコンサートを開催し、住民の方々の演奏発表の場を企画運営しています。

先月 2019 年 12 月 15 日のウインターコンサートで、35 回を数え、出演者は述べ 3000 組以上です。打瀬中学校にも毎回ご出場頂いており、他のサークルとの連携を持ち、公私の枠を超えて合同でミュージックベルの演奏をしたりと、地域で音楽を学ぶ人たちの重要な発表の場となり、また街の方々の楽しみの場となっております。

② ファツィオリの会

ファツィオリを皆様に高い頻度で、ご利用頂こうと行われているのが「ファツィオリの会」です。毎月ベイタウンニュース、コアのホームページで、出演者を募集し、会場設営、プログラム作成、出演者との連絡など、愛好会担当者がボランティアで一手に引受け、みなさんの演奏の場のお膳立てをしています。



2019年末までで188回を数え、演奏者は延べ2500人をゆうに越えています。

③ コアフェスタへの運営・参加

第1回コアフェスタより先日11月の第10回コアフェスタまで毎回参加し、ホールでのファツィオリを使った音楽サークル発表のまとめ等、運営を担い、サークル連絡協議会の他のサークルの皆様との交流を深め、地域の皆様との親睦を深めています。

3. 今後のベイタウン音楽愛好会の役割・方向性

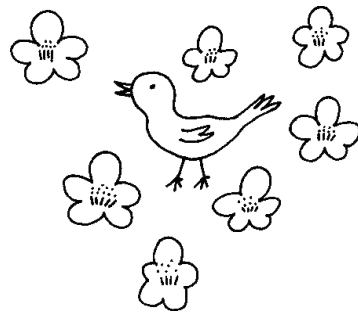
今、ベイタウンは、住民が2万5千人になり、当初の住民活動を知らない方々が増えています。こんな素晴らしい住民活動の結果、「ベイタウン音楽ホールとコンサートピアノ・ファツィオリがこの街に存在するのだ」との広報をするためにも私たち音楽愛好会が頑張らなければならないと、責任を感じています。

そして、ベイタウン音楽愛好会が、「公民館サークルの一つという認識ではなく、ベイタウン全体に開かれた住民の発表会であるベイタウン音楽会の運営、自治会連合会所有のファツィオリを住民全体に開かれた形で利用して頂くための『ファツィオリの会』の運営を担う団体」とのご理解を深めて頂くために、さらに活動に透明性をもたせ、街の音楽文化活動であるということの広報に、もっともっと力を注いでいく所存です。今後とも、ベイタウン音楽愛好会、応援を宜しくお願い致します。

以上



音楽会プログラムの例



代表 大垣 真利子 記

「ベイタウン 中年バンド」

2019.12.30

1. 設立時の趣意および経緯

ベイタウン中年バンドは、2000年(平成12)春に、ベイタウン在住の柴崎 隆の呼びかけで、同じベイタウンに住む音楽好き、特にロックやポップス、またはジャズなどの軽音楽と呼ばれるジャンルでバンドをつくろうということで始まる。

当初の趣意は、ベイタウンを「音楽が溢れる賑やかな街」にしたい。

その趣旨を組み、集まった故鈴木真、小野吉夫が中心となり、ネット等を介して更にメンバーが増えてゆく。

まず最初の活動としては、2000年の5月に開催した自治会連合会のベイタウンまつりの野外ライブのプロデュース及び、自らの演奏。

出演は20団体くらいになり、大盛況。

但し、天候不順で途中で終了という不運なスタートであった。

このベイタウンまつりの取り組みは数年に渡って続く。

尚、ベイタウンまつりで知名度が上がったお陰で、同年の夏頃にはメンバーが40人を越えるなど大盛況だった。

2. 設立時の状況

設立時の2000年以前のベイタウンはまだ街が出来たばかり、ハード先行で、まだ住民のコミュニケーションが充実していなかった。しかし、急速にネットによるコミュニケーションの発達で、街づくりの意見交換や、サークル等のメンバー募集に有利に働き、御多分に漏れずベイタウン中年バンドもネットのコミュニケーションのお陰で仲間が飛躍的に増え、また自分達の出演するライブの告知にも大いに利用した。

また、ネットの露出が多くなるのと同時に、ベイタウン中年バンドは、街づくりの役割も担っていった。

3. 設立時の活動および体制

設立直後は5名の楽器をいじれる人間がライブに出演するなど活動に留めるつもりであったが、ご縁があって、ベイタウンまつりのイベントに関わらせて頂いたことにより、イベントのプロデュースや、ディレクションに参画するようになる。

数年後のベイタウン・コアのソフトの立ち上げに於いては、相当な協力をさせて頂いている。例えば、同所のホールの音響設備の設計や、導入機種などの選択は音響機器会社に勤務するメンバーが中心となって行ってくれた。

また、ベイタウン・コアのオープニングイベントは、ベイタウン中年バンドがプロデュースとディレクションを任せられ、2日間で、アーティスト総数200人以上の出演者が集まった壮大なイベントとなる。

これは今でも、ホームページに記載されている。(ベイタウン・ミュージック・フェスタで検索)

4. 現在の活動および体制

2000年の設立から約20年経った現在でも割合アクティブに活動している。常時動けるメンバーは10人程度となってしまったものの、他のバンドとの交流も多いので、たくさんのイベントに関わらせて頂いている。

5. 将来の希望

バイタウン中年バンドとしているが、設立時は確かに中年だったメンバーも今や半分は老年になっている。だからと言って、一線を退くわけではなく、ますます盛ん。ただ、後進も育ててゆきたいと思っている。

できれば、現在中年である三十代後半の世代、あるいはまだ若い世代に繋げてゆきたい。

6. その他

2010年に海浜幕張駅前で、幕張新都心賑わいづくり研究会とのコラボで、駅前コンサート（幕張音楽祭）を開催しているが、奇しくもその10年後である2020年1月に再び海浜幕張駅でのライブを開催する予定である。

以上



柴崎 隆 記

「混声コーラス GAFU」

2019.12.25

1、 設立について

女性コーラス「瀬音」の設立から数年経った2002年(平成14)、「瀬音」の指導をされていた佐藤 柳先生が ピアノの永木先生と共に誰でも気軽に参加できる混声コーラスを作りたいとの事で設立されました。

ベイタウンにお住まいの方ばかりではなく合唱を通して深く近隣の方々との交流を深め豊かな人間性を築いて欲しいとのお考えからでした。



2、 設立時の状況

当初は男性で参加されたのは3人、その中でも毎回きちんと出席できる方は1人だけ、女性は18人でしたので混声合唱とはいえアルトが男声と一緒に歌うような状態でした。それでも毎回出席された最長老の男性部員が「GAFU」という名前を提案して下さり、団員皆やる気満々でした。中国の漢時代音楽をつかさどる官庁「楽府(がふ)」があり、長い間、詩歌音曲の構成、選定、伝播の中心だったそうです。

この由緒ある名前にあやかり私たちの団が豊かに成長することを願って「GAFU」に決めました。

3、 現在の活動及び状況

18年目を迎える現在、男声部員19名、女性部員24名となり、両先生方の熱心なご指導で本格的な混声合唱を楽しめるようになりました。

第2、第4土曜日の午後2:00-4:00 打瀬公民館コアホールで

第3土曜日の午後2:00-4:00 公園西の街集会室

月3回の練習を行っています。

打瀬公民館が開設されたので2003年から2007年までは、「花時計」、「瀬音」と私共「GAFU」の3団体で協力し合って10月に演奏会をいたしました。2008年からは同じ佐藤先生のご指導の「瀬音」「GAFU」で「コーラスの集い」演奏会を継続して今日に至っています。

4、 将来の展望

2020年(令和2年)10月末の日曜日に第18回「コーラスの集い」演奏会を予定しています。団員皆、コーラスの練習を通して心豊かな生活になっています。

2012年(平成24)年には10周年の祝賀会を2017年には15周年の祝賀会を開き団員相互の絆を深めました。

真面目で歌う事が大好きなメンバー、一人一人に幸多かれと願います。



以上

斎藤 章子 記

1、 設立について

20数年前、打瀬にはまだ公民館がなく、真砂コミュニティーセンターで行われていたコーラスサークルに、バイタウン在住の方も数名参加されていました。

その後、バイタウンでもコーラスサークルを作りたいと、真砂でご指導されていた佐藤 柳先生にバイタウンに来ていただき3番街集会室で活動を開始しました。

2、 活動について

当初活動場所は、3番街集会室でしたが、コアホールができてからは、下記の場所にて活動しています。

第2、4木曜日 打瀬公民館コアホール 10:00~12:00

第3木曜日 公園西の街集会室 10:00~12:00

コーラスが好きな方でしたら、どなたでも参加できます。

3、 現在までの活動

1998年(平成10)9月活動開始

1999年6月 幕張メッセイベント参加「親子三代コーラス」
打瀬小、打瀬中の生徒さんと共に参加

1999年~2004年まで、毎年打瀬中学校文化祭に参加

2003年 打瀬公民館音楽ホールにて、第1回コーラスの集い開催
以降現在まで年1回コーラスの集いを開催

なお、第5回までは、「花時計」「GAFU」との3団体合同

第6回からは、兄弟団である「GAFU」との合同開催

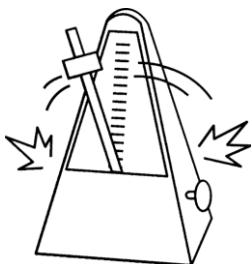
来年2020年10月には第18回コーラスの集い開催予定

2014年、2017年には、東日本大震災チャリティー合同演奏会に参加

2018年には、瀬音20周年記念祝賀会開催



4、 これからの活動



現在36名の団員で10月開催予定の「第18回コーラスの集い」に向け、清少納言の女声合唱「枕草子」や見上げてごらん夜の星をなど、その他数曲練習中です。

以上

花藤 留美子 記

1. 創設の経緯

「コア・チェンバーシンガーズ」は2002年ベイトウン・コアがオープンすると同時に結成された混声合唱団です。ベイトウンは音楽熱が高く、コア開館前には打瀬中学校や各番街で小さなコンサートがたびたび開催されており、その中で街に合唱団をつくろうという気運が盛り上がりました。

こんな空気の中、5人の歌の好きな住民によってコア・チェンバーシンガーズは結成されました。名前の「チェンバーシンガーズ」はコア開館のときに出演した米国ダートマス大チェンバーシンガーズからとったものです。

2. その後

コア・チェンバーシンガーズは街の合唱団として、特にジャンルを限定せず幅広い合唱曲を歌っています。年齢層も30代から70代まで、広い層の団員が所属しています。これまでほぼ1年半に1回のペースで定期演奏会を開いており、今年（2019年）12月に12回目の定期演奏会を行いました。

以上



コア・チェンバーシンガーズ

松村 守康 記

1. 設立時の趣意及び経緯

千葉市にはギター合奏団は多数あるものの、ソロギター中心のサークルを探すも見つからず、無いなら作ってしまおう、という事で、2008年(平成20)11月にギター講師1名とギター愛好家2名(代表の上原淳を含む)の有志3人で「ステージ演奏の度胸を付ける為に演奏の機会を作ろう!」

という趣意で千葉ソロギターサークルを設立。

サークル名にも「ソロギター」を入れ、合奏団とは明確に区別した。

第1回目の練習会(ステージ練習会と命名)は2008年12月に千葉市中央区の末広公民館で開催。その後2009年頃より活動拠点を幕張ベイタウンコアに移してステージ練習会を重ねている。2020年2月現在ステージ練習会は213回目を迎えている。

2. 設立時の状況

3人でサークルを立ち上げ活動がスタートし、ネットや公民館の掲示板など色々なところで仲間を募集するがなかなか増えず、練習会を開催するのに毎回人集めに苦労する状況がしばらく続いたが、次第に口コミを中心に少しずつ認知され始め、いつの間にか数年で登録会員が100人以上に増加。

その後も年々会員数が増え続け、2020年2月現在155名が在籍する日本最大級のソロギターサークルに発展して現在に至る。

合奏ではなくソロギターを弾く機会を求めている人がこんなにも大勢いた事に改めて驚くと共に、サークルを設立して良かったと実感している。

3. 設立時の活動及び体制

2008年の設立当時は会員も少なく、活動は1~2ヵ月に1回のステージ練習会のみであった。また、活動の場所も決まっておらず、その時々で末広公民館、蘇我勤労市民プラザ、幕張勤労市民プラザ、佐倉コミュニティセンター、西志津ふれあいセンター、美浜文化ホール、など様々な会場で活動を行っていたが、2009年頃より素晴らしい音楽ホールを持つ幕張ベイタウンコアを拠点として活動を行うようになる。

活動を開始して3か月ほど経過したころにはサークルの規約を制定した。2009年10月にはプロギタリスト吉田佳正氏のマスタークラスを開催。

サークル設立1年後の2009年11月に第1回定期演奏会を佐倉コミュニティセンター・ホールで開催。ホールに入りきれない程のお客さんが来場した。

2010年8月には吉田潤、小暮浩史、福井浩気と言う優秀な若手学生ギタリストによる「ギターコンクール優勝者の競演」シリーズ第1回を開催。

2011年(平成23)2月には第1回千葉ギター音楽祭を幕張ベイタウンコア・ホールにて開催。同じく2011年10月にはプロギタリスト新井伴典氏のギターリサイタルとマスタークラスを開催。

このようにしてサークルの活動の幅を広げながら順調に発展していった。

4. 現在の活動及び体制

会員数が100人以上の大所帯になった為、ステージ練習会に参加できない会員が始まる。解決策として2014年よりステージ練習会を毎月2回開催に増やして活動している。活動拠点は幕張ベイタウンコア・音楽ホールが中心。ギターのみならず、ピアノ、

ヴァイオリン、フルートなど各種楽器の入会も歓迎し、これらの様々な楽器との共演も積極的に行っている。

これまでにマスタークラスを開催したプロギタリストは、吉田佳正、新井伴典、宮下祥子、大萩康司、坪川真理子、レオナルド・ブラーボ、富川勝智、建孝三、藤井敬吾、池田慎司、渋谷環、田部井辰雄、岩崎慎一、鈴木大介、斎藤明子、小原聖子、益田正洋、山口修の各氏を開催。2020年3月には小川和隆氏を開催予定。

コンサートを開催したプロギタリストは、新井伴典、大萩康司、益田正洋、國松竜次、宮下祥子、クアトロパロス、渋谷環、小暮浩史、坪川真理子、山口修の各氏を開催。

2020年9月には斯界の第一人者である福田進一氏を予定している。

2010年より将来のギター界を担う優秀な学生ギタリストが中心に出演する「ギターコンクール優勝者の競演」シリーズを開催。このコンサートシリーズは、以降毎年1~2回開催し、2020年には16回目を迎える好評のイベントになっている。若手ギタリストに演奏の機会を提供し、活動を支援している。

2020年にはプロギタリストの高橋力氏を講師とする「本番で実力を100%発揮するためのメンタルトレーニング講座」というギター愛好家にとって興味深いユニークなイベントも開催。

定期演奏会は2009年(平成21)の第1回開催以降毎年年末に開催し続けており、2020年は12回目の開催となる。様々な団体のイベントや公民館まつりなどへのボランティア出演も多数行っている。

また、サークル員の中からプロになった方や、セミプロとして演奏活動を行う方、ギター講師になった方、各種コンクールで優勝する方など、様々な成果が出ている。

5. 将来の展望

今後も自分たちが演奏を楽しむのみならず、引き続き上記のような様々な活動をさらに活発に行い、ギター音楽を一般の方々へ紹介、地域社会への貢献を通してギター界の発展に寄与し、クラシックギターの魅力を幅広く伝えるサークルへと発展させたい。

6. その他

千葉ソロギターサークルを母体として「千葉ギター協会」の設立を目指している。

千葉ギター協会設立後には、千葉ギター音楽祭、千葉ギターコンクールなどの大きなイベントを開催したい。



以上

上原 淳 記

「 ナツメロ打瀬 」

2019.12.21

1. 設立の趣意

ナツメロを合唱し、余暇を有効活用しながら、会員の健康の増進と親睦を図る。

2. 設立時の状況

NPO 法人「歌友クラブ」の活動の一環として、2011年に、打瀬公民館でナツメロを歌う会が開始された。打瀬地区におけるその後継団体として、2013年(平成25)に、「ナツメロ打瀬」が設立された。

3. 設立時の活動及び体制

有志が役員になり、打瀬公民館で月2回の例会を開始した。

4. 現在の活動及び体制

毎月第1、3火曜日の10～12時に、打瀬公民館講習室で開催。歌手が歌うCDに合わせて、会員全員がナツメロを一緒に歌う。歌う歌を毎月更新し、20曲前後の歌を載せた歌集を作成し、配布している。

年1～2回の懇親会とカラオケを実施し、会員間の親睦を図っている。

外部団体からの依頼を受けて、ナツメロの歌唱指導を行うことがある。

5人の役員が協力し合って、会を運営している。代表：渡辺博（打瀬1丁目）、副代表：三浦勇吉（打瀬1丁目）、会計：大塚太平治（打瀬3丁目）、庶務：木村文子（打瀬1丁目）、庶務：三浦清子（打瀬1丁目）。

5. 将来の展望

歌唱は、高齢化しても容易に行うことができる活動なので、ナツメロを皆で歌うことは、高齢化社会にふさわしいとすることができる。今後も末永く活動を継続することが、目標になる。

6. その他

多くのサークルにおける共通の問題だが、特定の会員に、会の運営における負担が行きやすい。また、世話人になることを、積極的に希望する会員の少ないことが、サークルの活動において長期的には困難をもたらす。

以上

渡辺 博 記



ナツメロ打瀬定例会
2018年10月2日

1. 発足の経緯

2006年千葉県生涯学習センター「市民講座の募集」ではじまり、第1期から第4期まで続きました。1期生の講座が終了しましたが、講師として指導をして頂いていた渡部直子先生が熱血指導、他、素晴らしくこのままで終わりたいとの思いから有志の方が先生にお願いをして2007(平成19)年1月に誕生、発足したグループです。

2. その後の経緯

「コアフェスタ」参加前は、「千葉県生涯学習センター祭り」の参加をしていましたがメンバーが多数になり、会場を探していましたが、コアを2010年に紹介して頂き、第2、4火曜日午前中を練習日が固定になり現在に至ります。

毎年コアフェスタに参加し、お客様に良い音で演奏をお聞かせ出来るように練習に励んでいます。コアのホールは音響も良く、天井も高く、素晴らしいピアノ(ファツィオリ) FAZIOLI もあり、自慢出来るホールで練習をしています。

3. 現在の活動

活動14年目、現在メンバー数は57名で活動しています。

メンバー一同と一緒に練習をしているのは、千葉県でも都内でも無いそうで、フルート専門の楽器会社の方は「自慢しても良いくらい素晴らしいグループです」といわれています。

ルバートの活動は2年に一度、「若葉文化ホールで定期演奏会」を開催し、毎年コアフェスタにも参加をしています

2017年7月9日10年目「第7回定期演奏会」では市民講座を担当して頂きました、中村様より祝電を頂きました。

ルバートには3つの宝物もっています。

- 1、基礎練習は何処にも負けないくらい練習をしています。
- 2、年齢に関係なく一同で練習をしていること。
- 3、ピアノを弾いてくださいます先生の貴重なアドバイスが一層素敵な演奏になっています。



フルートの例

ルバート (Rubato) とは・・・

音楽用語の「Tempo Rubato:部分的にテンポを変化させ、表情をつけた演奏をする」に由来。「自由気まま」がモットー。(命名者の名誉リーダー(豊川)いわく「イタリア語で『盗っ人』って意味なんだよ」)

～無理なく、楽しく、極上の音をめざして～ 「みんな違って、みんな良い」
今年も楽しみながら、より個性的に、より美しいアンサンブルを目指していきます。

以上

鈴木 登美子 記

1. 発足の経緯

平成9年(1997)11月30日 パティオス18番街の集会室に、同番街居住の林さんの呼びかけで砂原(8番街)、小杉(17番街)、上田(2番街)さんなど6名の方々が集まり、囲碁会結成の協議がなされ

- ① 17番街または18番街の集会室で、毎月2回日曜午後開催する
- ② 世話人の正副は、林、砂原の両氏、会計は上田氏とする
- ③ 当分の間、碁盤碁石は、会員が毎回持ち寄り、持ち帰る

という誠にささやかなベイトウン囲碁クラブ(以下当クラブとする)が発足した。

そして貼り紙の呼びかけに応じて参加の方も加わり、10人ほどの会員で、はじめから楽しいひとときを持つことができた。望外の成功に慰労を兼ねた忘年会を衆議一決、後日ホテルスプリングスで杯を掲げたが、その記憶は20年後の今も鮮明である。

そのような事情から、会の基盤強固のため、会費を月千円と高めに定め、1年足らず+で必要備品を自前確保した。

2. その後の経緯

逐次会員も増加、次には会場の手狭が課題となったが、林さんに代って新設の会長に就いた砂原さん居住の8番街集会室に変更することで解決した。

新集会室は、広さに加え厨房設備が完備し、倉庫の相当部分を貸与して貰えること、1階にあって道路に面している入口から直接出入りでき、管理人や当番街会員の奥さんなどを煩わさずに入れるなど、使い勝手が良く、加え需要の高い日曜午後が占用できるとあって、願ってもない好条件である。コアがオープンした際はそちらでもやろうと、有志による平日囲碁会開催への広がりがあったが、コアへの主会場変更などは話題にならなかった。

他方、ベイトウン祭りの参画など地元活動にも積極的に対応した。子供会での囲碁講座の開催、講師の派遣などである。

そんなことから、真砂女性囲碁クラブの役員お二人が、クラブ運営の参考を得たいと短期間入会した。当クラブ20年の歴史に刻む唯一の女性会員である。

また、見学に訪れた子供達は会友として処遇、会員が手分けして囲碁のイロハから、指導に当たったが、中には、当クラブ高段者の寺田さんの特訓に耐え、数年で4段の実力者となって、多くの会員たちの教え碁を土産に渋谷幕張高校へと羽ばたいた子もいた。

初めの頃は、職を持つ会員などの退会の多さが危惧されもしたが、入会者の方が常に上回り、毎回集会室一杯の順風満帆の運営が10年ほど続いた。しかし4年前、意図せぬ試練に直面した。会長の砂原さんが長期入院のため囲碁会活動ができなくなったのである。8番街の居住者は砂原さんだけである。非居住者に使用権はない、副会長の曾田さんを先頭に新会場探しをしたが備品類の保管まで引き受けてくれる所はなく、当クラブは存亡の危機にさらされた。



3. 現在の状況 (2019 秋)

最終的にはコアと協議の結果、当クラブ碁盤碁石の寄贈をお受け頂き、保管してくれることとなり無事に決着、今まで一部の会員で開催していた月2回の火曜日碁会に全員による開催を移行した。コアの有難味がしみじみと身に沁みたまものである。

しかし、すべてが順調ではなかった。椅子対局から和室への移行は、私と同年代のより高齢会員の退会を招いた。今もって無念である。ただその数を上回る新会員が入会、コア開設後の新入会員数は既存会員数と拮抗し、その多くは私の息子の若さ?である。

「昭和働 平成遊や 令和寂」九十路の老会員は、コア時代の会員が令和の風の中で、どのようにクラブ運営を進めていくのか静かに見守りたい。

過日、真砂女性囲碁クラブで解説用大盤を使って、紅白のグループ対抗戦を楽しまれたことを耳にした。その大盤は移行の際、当クラブから寄贈したものである。嬉しい話である。

増田 啓一 記

1. 設立時の趣意および経緯

2002年(平成14)11月24日第1回句会開催。ベイトウンの文芸を通じての親睦、コミュニティづくりを目的として3名(宮田、山根と辻)を発起人とし18名の参加を以って設立。場所はベイトウンコア。同年にベイトウンコア(公民館複合施設)が開設された事に伴いこれを利用した活動。俳句同人「山火」の幹部、麓農平氏に講師をお願いした。

2. 設立時の状況

シニアクラブの広報誌「オアシス通信」があり、その14号2002年から文芸欄1ページに句会の結果、講師による選句と自薦句が掲載された。見浜園へ吟行した時は中学生2名が参加。披講と称し、各自が選んだ他の人の句を選び講評し、最後に講師の選と講評を受ける。



美浜園

3. 設立時の活動および体制

活動開始時は3ヶ月に1度の句会であったが、参加者も入れ替わり、2010年1月第46回以降は8月の夏休みを除き毎月1回、コアの工芸室にて開催。世話役幹事と会計係を置き、講師は麓先生に2019年(平成31)12月の第142回まで継続してお願いしている。

句会の進め方は当初設立時と同じく、それぞれが評を通し、意見を開陳し和気藹々続けている。

4. 現在の活動および体制

現在会員は16名、体調を崩して休会の人もいるが常時12,3名は月齢句会に出席している。2015年(平成27)には一人50句を選び、第1回「合同句集」を発表、今年2019年下旬には、第二回の「合同句集」発行。いずれも打瀬図書館に寄贈。

5. 将来の希望

6. その他

以上



辻 和夫 記

「土筆（つくし）の会」（かな書道）

2019.12.13

1. 始めたきっかけ

最初は、2002年(平成14)11月の打瀬公民館講座の講習から始まった。

毎月2回の講座で、講師は、新井芳洋先生の指導の下「かな書道」に興味がある十数名が参加した。



2. その後の活動

講座が終了後、受講者を中心に集まり、2003年(平成15)2月にかな書道「つくしの会」が発足した。

活動は、かな書道の技術の向上と「つくしの会」の親睦交流を図るものです。

創設会員は、打瀬地区6名、他地区の6名 計12名で、代表は、濱悦子、副代表は、金田幸子、講師は、ベイタウン在住の新井芳洋先生にお願いして、月2回金曜日の午後、公民館の工芸室にて行った。



進め方は、講師から課題を戴き自習し、アドバイスを受けながら、作成後は、講師から講評を得るようにしている。

毎年のコアフェスタには、作品の掲示をしている。

また、講師の方の展覧会の掲示を見学したりして、楽しく学んでいる。

3. 現在の状況

2019年12月現在の会員数は、12名で、代表は、菅野千恵子氏で、講師は、湯浅宗中先生にお願いしている。

活動の成果は、ホール外廊下に、毎年夏ころ、展示しています。



土筆の会

以上

濱悦子 記

1. 設立時の状況

ベイトウンコア設立（2002年）と同時に他場所で行われていた絵画教室が移動開設されたと聞いている

2004年絵画教室に入会当時は7～8名の女性会員で男性は私のみ、講師と女性会員の親睦会の状況で男性の入会に違和感があったように思い出す。（当時の会員で現存するのは私のみの状況）運営はすべて講師だのみで講師の絵画教室であった。

2004年末男性会員が2名入会したところで11名（男性3名、女性8名）で会合を開き、会の運営や会則についてまとめた。今思えば、内容は満足のいくものではないが、従来の講師中心の運営から会員の合意による運営への意識改革の会合であった。

2005年以降実行に移したことは、このサークルの出発点となっている。

2005年当時の運営状況（2004年会員11名による話し合い内容）

- 1) コア使用毎月第1・3火曜9時～12時モチーフ当番制の実施
- 2) 代表、副代表、会計の任命と役割
- 3) 会費講師月謝30000円＋モチーフ代500円
- 4) 講師謝礼30000円
- 5) コア廊下展示6月・12月

2. 経緯と現状

以降15年、サークルの成長は目ざましいものがある。

- ・会員数は工芸室の許容人員の関係で18名を定員とし、各年ごとに1～2名の出入りはあるものの、ほぼ定員数を維持・推移している。
- ・会の運営も会員で年間計画を立案、実践し、静物・風景スケッチ等作品作成を楽しんでいる。更に単に描くだけでなく、コアギャラリーへの展示、コア行事への参加・郵便局への展示・市民病院への展示等々年間を通して、多方面で活動している。
- ・年間を通して、新年会、暑気払、バス旅行等々楽しい行事を全員参加で楽しんでいる。
- ・個々の会員もサークル活動の中で、夫々経年に応じた個性豊かな作品が描けるようになりつつあり、より楽しいサークル活動となっている。

[2019年の改革]

- ・講師制の中断
自主運営の気運の高まりと自己啓発の自覚の高まりから、会員の総意で当面講師制を中断することとし、4月より実践している。今のところ、より一層自主性も高まり順調に推移している。
- ・会費
講師謝礼の不要から、月500円（モチーフ代）となり、会員の負担が軽減された。
- ・これを機に一段と主体性と個性を重んじつつ、会員内で啓発し合い、ワンチームを旨とした、より楽しい活動を目指したい。

3. 今後の課題

- ・高齢化への対応
私も66才で入会して現状81才、描くことのよろこびが高齢者の活性化に貢献することは実感している。

体力的に減退することは止むを得ないことだが、若い人との組合せで、円滑な絵画サークル活動を持続することが肝要で、子育てが終わった主婦の方や、退職されて時間的ゆとりの出来た方の入会を期待し、定員も増加させる等々の方策を全員で実行したい。

• 広い世界を

趣味の水彩画であっても、自分の描きたいことが適格に表現出来る、又観る人の心をとらえることが出来る作品を描けるようになることが、個々人の目標である。普通の作品が描ける様になったことで満足しないこと、要は水彩サークルの中で井の中の蛙とならないことが肝要、広い絵画の世界があることを自覚することが大切で、その実践が会員個々の成長を促し今後のサークル活動の推進力となる。

以上

東山 孝幸 記



バイタウン銀座（五番街前）

東山さん 絵画

1. 結成の趣意

2000年(平成12)4月にダンススケッチベイタウン支部は生まれました。今年で成人式です。今では多くのダンスサークルが打瀬の街にはありますが、当時は、子ども達がダンスを学べる機会はあまり無く、ダンスを習いたいという娘の気持ちをひとりのお母さんが以前の先生、田島純子先生に話したところ、「踊りたい子どものいるところにはどこでも行くわ!」と田島先生が即答したことで誕生したのです。

2. その後の経緯

まずはダンスができる場所探しからのスタートでした。いつも外の公園で踊るわけにはいかず、マンションの集会所は住人の方々優先なので、お母さん達の協力が欠かせません。ダンス好きの子どもたちとそのお母さんたちとで、ピカピカの街ベイタウンで踊れる場所を求めて彷徨ったのです。ベイタウンコアができてからはベイタウンコアが活動の拠点になり、スケッチメンバーのホームになりました。

ダンススケッチは、年に一度の発表会を開いていますが、その場所も、最初はパティオス11番街の集会所(素敵なところですが)でしたが、今では千葉市美浜文化ホールで開催しています。更に、田島先生が理事を務める洋舞連盟が主催する秋の祭典や、新宿都庁前で開催される大江戸舞祭りコンテストなど、大きなステージへと活動の場を広げてきました。ダンススケッチの発表会は、学年別のオリジナルダンスの発表に加えて、全員参加のミュージカルステージが特長です。これまで、キャッツ、不思議の国のアリス、かぐや姫、白雪姫、ライオンキング、オズの魔法使い、ネバーエンディングストーリー等々ダンスと音楽と芝居が融合した感動を届けてきました。

発表会に向けては、みんな、学校の勉強や部活動にも追われながらも、多くの時間を費やし、汗と涙を流して、厳しくて楽しい練習期間を過ごします。そして迎える発表の当日は、ステージの上で、多くの観客に成果を見せる緊張と喜びに震え、人生にこんな瞬間が自分に訪れるなんて、と話すメンバー也大勢います。

ダンススケッチベイタウン支部の20年間は、本当に、成長の年月でした。初期には、幼児クラスと小学生クラスしか無かったのが、中学生クラスが出来、高校生クラスが生まれ(中高生以上はやがてRiseクラスに)、大人のクラス“リブ”も誕生しました。最初の頃に幼稚園児だった子の中には、ずっと踊り続け、今ではインストラクターになっているメンバーもいます。ダンススケッチでの経験から大学のサークルで踊っている子も、自分では踊らなくなったけれど、ダンス関連の仕事をしている人、観客としていつもスケッチを見に来てくれる人も。

ベイタウンという街にも育ててもらったのがダンススケッチでもあります。最初は集会所だけで踊っていたのが、地元のイベントにどんどん参加させてもらうようになりました。千葉国際駅伝やトライアスロンでは、ルートの途中で応援のダンスを舞い、わくわくキャンパスでは放課後子ども教室でボランティア参加、ベイタウン祭りや夏祭りでは屋外でキレイのいいステップを披露してきました。プロ並みに腕前を上げたメンバーたちは、

“ライブ”ダンスを自らの振り付けで東京都内のライブ会場で発表し、若い観客を魅了しています。

3. 現在の活動

講師は、田島純子氏にお願いし、代表は今津直子氏のもとに、ダンスキッズ(子どもの部)35名、レディーススケッチ(大人の部)15人が、月4回、コアまたはマンション集会室で活動を行っています。



4. これからの事

ダンススケッチは、クラシックバレエの基本にも倣いながら、ジャズダンス、ヒップホップ、そしてストレッチクラスも開催しています。ジャンルに囚われることなく、踊る喜びを多くの人たちと共有したい、年齢も性別も国籍も超えて広がりたい（ニューヨークに先生と勉強に行ったこともありました！）。打瀬の街が年月を経て落ち着いてきているのに合わせ、ダンススケッチも、シニア向けのクラスを開いたりもしていきたいと考えています。打瀬の街がまた新しいマンションやショッピングモールで更に広がっていくように、ダンススケッチも次の世代のメンバーたちと一緒にあってまだまだ成長し続けたいと思っています。

We love dancing. We love Baytown. May the Dance be with You!

以上

溝口 智子 記

1. 設立経緯

2010年(平成22)5月25日より6月29日までの6回にわたって打瀬公民館主催の「中高年健やか教室」最終日の6月29日には受講した全員が先生の熱心さに感動し、サークル活動として続けてほしいと懇願し新しい会を作ろうということでスタートした。

名称を「すこやか健康クラブ」とし、活動目標としては「健康な体づくりを目標とし、東洋医学を取り入れた理論と運動を行う事を旨としスタートした。

2. 活動及び体制

当初は、代表を小林 滋氏とし、他4名でスタートとなりました。

会費；入会金2000円、会費月2500円、

例会；月2回(第2・4火曜10:00~12:00)

現在会員は13名になったのも、渡部先生と生徒の入部勧誘努力の結果であります。

講義の評判は良く東洋医学を取り込んだ内容はベストです。(例えば足もみ、手足のツボ刺激、ストレッチ、呼吸法等)以下に実務例を記しますので参考にして頂きたい。

実例

① 月ごとにテーマを決めた健康・保健に関する話を講義形式で学ぶ

② 足もみ・手・ツボ刺激

手・足には気の通り道である経路が集まっています。それらを刺激することで全身を調整します

③ ストレッチ&エクササイズ

柔軟性・筋力・筋持久力・バランス感覚を向上させ体の歪も調えます。

④ 呼吸法

天の気を全身に行き渡らせ、自律神経のバランスを整えます。
終わった後気持ちよくなり、免疫力が高まります。



3. その他

以上が日常の会(例会)の内容です。会員様からのご意見には、ツボ刺激や健康体操で積極的な健康づくりを行っているサークルもありますので、ぜひ当サークルでも良い健康作りが出来る様楽しく学ばせていただきたく思っております。

(実例については渡部富美子講師記)

以上
小林 滋 記

1. 設立時の経緯

コア設立時、(平成14年(2002)4月)お花の好きな人が、楽しく生け花を習える「草月流生け花教室」を講師の山根 貴以子氏の呼びかけで発足した。

生け花を、各々の個性を自由に表現するグループである。

(イ) 会員資格

初心者から経験者まで、どなたでも興味のある方は、随時入会できます。

(ロ) 活動日時・場所

月2回、第二・第四火曜日 10:00~12:00 コアの工芸室

2. 設立時の状況および現在の活動

設立時から現在までの会員は、毎回約10名で活動している。

(イ) 活動は、一人一人が、生け花作品を制作して、講師および会員全体で講評など行う。

(ロ) 毎年、お正月には大作を郵便局のショーウィンドーに展示している。

講師： 山根 貴以子氏 (雅号：山根 草似) バイタウン在住
草月流師範で、内外に多くの出展などを行い活躍している。

以上



山根 貴以子 記

(コアのロビー展示)

1. はじめに

- 3B体操とは、ボール、ベル、ベルターという3種類の道具を使い、音楽に合わせて身体を動かす健康体操です。
- サークル誕生のいきさつ
指導者の宮澤政子先生に伺いました。

「2002年(平成14)4月、公民館の開館と同時にサークルを立ち上げました。

誰にでも楽しく簡単に出来る健康体操なので、一人でも多くの方に体験して頂きたいと思いました。

最初は、4、5人でスタートでした。なかなか人数が増えませんでした。会員さんがお友達を連れて来てくださったり、チラシを配ったりを繰り返して、今の人数に落ち着きました。今まで続けられたのは、サークルをまとめて下さる役員さんのおかげです。感謝しています。これからも、楽しみながら続けられますようにと思います。」



2. 現在の状況

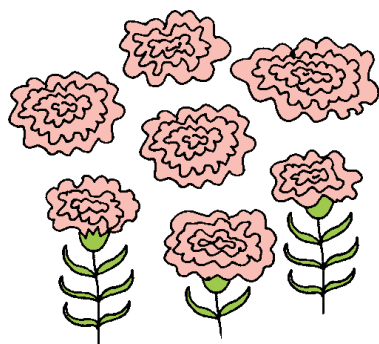
現在、会員は40代から80代までの女性11名です。10年以上続けている方が半数近く、中にはサークル発足時からという方も何人かいます。え、そんなベテランばかりでは、途中から入りづらい?いえいえ、そんなことはありません。みなさん、とても優しい方たちばかりです。それに何よりも、先生がとても分かりやすく指導して下さるし、3種類の道具を使うことで、初めての方でもラクラク運動できます。興味のある方、運動不足が心配な方は、ぜひいちど無料体験にいらっしゃいませんか。いつでも歓迎です。

活動は発足時から現在までずっと月2回、第2、4火曜日の午後1時から3時まで、コアホールで行っています。

これからも、健康で元気なシニアでいられるよう、活動を続けたいと思います。

以上

縹(まとう) 幸子 記



1. 設立の経緯

ベイトウンでは、とある NPO 法人が、かなり以前から（2011 大震災以前から）ベイトウン及び周辺在住外国人向けの日本語教室などの各種支援活動を行ってきました。私自身もボランティアとしてその活動にかかわってきました。



しかしながら、2018 年(平成30)末にその NPO の活動が無期限休止となりました。そこで、私を含む何人かの有志が、新たに 2019 年 1 月にこのベイトウン日本語教室を立ち上げて現在にいたっています。

2. 現在の活動及び体制

現在毎月 2 回（第 2 及び第 4 土曜日の午前中）ベイトウンコア或いは（コアが取れない場合は）ベイトウン内の他の場所で、日本語教室を開催しております。毎回約 10 人前後のボランティアが、同じくらいの数の地域在住の外国人参加者に対して 1 対 1 で、主に日本語会話を通して日本語の習得を助けています（人数は日によって異なりますが）。これは MEJC 時代を含め、設立時からあまり変わっていません。

学習者及びボランティアの募集や教室の告知については、リンコス・イオン・ヤンマー・郵便局などに掲示のご協力をいただき、更に千葉市国際協会や千葉県国際交流センターにも HP への掲示などの協力をいただいています。

3. 将来の展望など

ご存じのようにベイトウン及び周辺地域では、年々外国人居住者が増えています（幕張インターナショナルスクールの存在も影響していると思います）。最近よく言われているように、こうした外国人住民との「共生」が、ベイトウン地区は元より千葉県全体さらには日本全体の各コミュニティで大きな課題となっています。千葉県や千葉市も次第にこの課題への取り組みに力を入れています。

そうした流れの中で、私どもの日本語教室が、単なる学習支援にとどまらず、地域での外国人居住者との「共生」促進へ、ささやかながらお役に立てるようになりたい所存です。

以上

堀 康二 記

「をどり組」

2019.12.25

1. 発足時の経緯

2002年（平成14）1月に11番街集会室で誕生しました。

現在第1・3火曜日はコア。第2・4火曜日は11番街集会室で1時間程行っています。

始めに座って全ての関節を動かし、次に立って音楽に合わせて体を動かします。そして座り腹筋運動、クールダウンという流れで汗を流しています。他人との競争ではなく自分のペースで関節を動かし筋肉を付け転ばぬ体作りをしていきます。〇〇年かけて付いた脂肪・錆を落とし、“10年後の輝いている私”を想像し“百歳まで自分の足で歩く”をモットーに活動しています。コア・フェスタにもできる限り参加して活動を広め仲間を求めています。

講師の石亀先生は11番街集会室で小学生を対象としたバレエ教室1997年（平成9年～15年迄）を主宰していました。そこで付き添いに来ていた保護者にも健康体操を提案し、当時10番街在住の倉持さんが講師に石亀先生を招請して始まりました。

生まれたてのをどり組は先生1人、会員1人のマンツーマンレッスン状態でした。有難くもあり休めない辛い時期でもありました。数ヶ月後会員は4人になりましたが、人が入れ替わるだけで中々増えない状況が続きコアがオープンした2004年（平成16）も似たような状況でした。ホールを利用させて頂いておりましたが「ホールの使用は10人から」の規定が重くのしかかり更新が可能かいつもドキドキしていました。

2. その後の経緯

街は大きくなりましたが会員数は比例することなく過ぎておりました。が2008年（平成20）人が人を呼びベイトウンだけではなく近隣の幕張町、真砂、磯辺の方も会員になり、ついに10人を超えました。これでもう更新時の心配がなくなり堂々と使えるようになりました。

2年間位でしたが男性会員もいました。女性の中でやりにくくないものかと案じておりましたが、「股関節を柔らかくする」という目標に向かって一緒に楽しく体操をしました。

3. 現在の活動

折からの健康ブームで「ストレッチ体操が良いらしい！」と放送されたことにより4・5年前から体験者も増え、自分には激しすぎる、物足りない等々色々ありましたがあれよあれよと現在会員19名。設立当時には信じられない人数です。

昨日出来たことが今日出来ない、そんな事がないよう日々頑張っています。体が喜んでいる、そう感じる事ができると長く続けられます。皆さんも是非一緒に如何でしょうか。



以上
本宮 厚子 記

「着付け教室 一水会」

2019.12.28

1. 発足の経緯

打瀬公民館コアが出来て間もない、平成 15 年 1 月～3 月にかけてコア主催の「着付け入門講座」がありました。定員を超える希望者があってとても盛況でしたが、7 回で終了というものでした。やっと何とか着られるようになったところで終わってしまうのがとても残念な気持ちでいたところ、コアの主事さんからサークルとして立ち上げませんか？という提案があり、すぐにその場で立ち上げが決まりました。今の私達があるのは、あの時言って下さった主事さんのおかげです。

コアの講座が毎週水曜日だったため、活動はとりあえず月 1 回第 1 水曜日ということに決まり名前も「一水会」となりました。しかし、月 1 回ではなかなか上達しないので増やしてもらえませんかという声が多く上がり、先生のご都合もあって第 4 水曜日にもう 1 回増やして月 2 回のお稽古になりました。現在も第 1、4 水曜日で活動しています。

当時の会員の中には、今はお引越されで在籍していませんが、「ガラスのうさぎ」というご自身の戦争体験を書かれた児童文学作家の高木敏子さんがいらっしゃいました。元氣にお話をされる方で、いろいろなお話を聞かせていただきながら一緒にお稽古したのはいい思い出です。

先生はコアの講座の時からお稽古をしてくださっている山崎富代先生で、とても気さくな方です。「初めから新しく着物を買ったらダメよ。着られるようになったら好きなものを買えばいいの。お稽古はシミがあっても古くてもいいからね。」と言って下さるので、昔の物でタンスのこやしになっていた母の着物が日の目を見るという事もよくありました。

着付けを始めた理由は人それぞれです。日本舞踊や茶道、三味線を始めたので着物もきちんと着られるようになりたい、子供の卒業式や入学式に、孫のお宮参りに着ていきたい、昔は着ていたのに着方を忘れてしまった等々。

もちろん、ただ着物が着られるようになりたい！という方も多数です。特に行事が無くて、ちょっとしたお出かけに着物が着られるというのは嬉しいですね。



2. その後の活動

今までには皆で出かけたこともあります。気候の良い時に近くの日本庭園「見浜園」に行きお茶席でお抹茶をいただいたり、花の美術館で写真を撮ったりしました。毎年 1 月には新年会を行います。大人数の着物の集団は目立つので、知らない方から「今日は何かの行事ですか？」と声を掛けられることもしばしば。それも楽しみだったりして。

現在会員は 10 名程で、新しく入られた方もいるので長く居る方が教えてあげたりと和やかに楽しくお稽古しています。自分で着る「自装」はもちろん、他の人に着せてあげる「他装」も練習出来るので、自装と人に着せてもらった時の仕上がりの違いなどを見て勉強にもなります。帯の結び方もお太鼓だけでなく、変わり結びを教えていただいたり、時には振り袖や袴の着付けをしたり、着物と帯と小物の合わせ方をアドバイスしてもらったりと、お稽古を続けているからこそその有難さや着付けの奥深さを感じています。

「着物の伝統文化を絶やさないで！」と先生も仰っている通り、日本の伝統文化である着物を身近に感じて自分も受け継いでいるのだと思えるのは嬉しく、少し誇らしくもあります。より多くの方が着物を自分で気軽に着られるようになってほしいなと思います。

以上

パティオス 1 番街 重村由香 記

「 わくわくおはなし会 」

2020.2.5

1. 設立の思い

「わくわくおはなし会」が発足したのは、1998年(平成10)の秋。まだベイタウンにヒバリがさえずり、カルガモの親子が散歩をする空き地があるころでした。その空き地に建つ「かるがも館」に、「絵本の読み聞かせをする読み手を養成しましょう」という松本くみ先生のお声かけによって、ベイタウン在住の女性たち20人ほどが集まりました。絵本は楽しい、もっと上手にこどもたちに絵本を読んでやりたい。それが私達のスタートです。

松本先生のご指導のもと、一冊の本をみんなでかわるがわる読み合う練習から始めました。最初の一冊は、『しちめんちょうおばさんのこどもたち』(吉野公章・作 福音館書店)。ミラリオの集会室で練習を重ね、半年後に最初の発表会を行いました。少しずつレパートリーを増やし、七夕、クリスマスと、季節ごとの小さなおはなし会を行いました。2年後には近隣の幼稚園へも出張公演しました。

2. その後の経緯

その後、コア研の会議に参加。ベイタウンを住民の力でもっとよくしようという、街の皆さんの熱意に触れるうち、私たちわくわくおはなし会も、地域に貢献する活動を目指したいと思いました。

そんな私たちに、コアのオープニングに合わせてホールで読み聞かせのおはなし会をする機会をいただきました。100人以上のお客様の集まる音楽ホールでのおはなし会です！毎日のように準備と練習を重ねました。

そして2002年(平成14)4月、立ち見が出るほどのたくさんのお客様にご来場いただきました。翌月から、毎月の定例おはなし会をスタート。ホール公演もしました。ベイタウンまつりやコアフェスタにも参加し、自治会、小学校のイベントにも招かれました。読み聞かせだけでなく歌やダンス、ゲームも加えた楽しいプログラムを組んでいます。

現在も、定期的にコアでおはなし会、近隣の子どもルームや「子育てひろば・うたせ」での読み聞かせも続け、ちば生涯学習ボランティアセンターにボランティア登録もしています。



3. これからの活動

絵本に描かれる絵や言葉は、こどもだけでなく、おとなの心にも響くメッセージです。そのメッセージを声にのせて大人にも届けたい。そんな活動も始めることにしました。

2019年(令和元)7月には、「おとなのための絵本の会」を開き、多くの方の共感を得ました。季節やテーマに沿っておすすめ絵本を紹介する「コレヨモ通信」にも力を入れています。絵本セラピストの資格を持つメンバーによる「絵本セラピーの会」も好評です。

さらにより多くの人に絵本の魅力や私たちの活動を知っていただけるようにSNSで発信しています。

さあ、《こどもも、おとなも、家族も絵本の時間》を私たちと一緒に楽しみましょう。

以上

田中 典子、井上 広恵 記

1. 設立時の経緯及び趣意

- 千葉県教育委員会主催の「平成 16 年度県立学校開放講座：楽しく刻す篆(てん)刻入門講座」が県立幕張総合高校で開講されました。
- 受講応募者が定員をオーバーし、抽選となるところを、本講座の講師の同校書道家教諭、湯浅昭弘先生の厚意のもと、前 8 回の講座を午前・午後の 2 部制にして応募者全員が受講できました。
- 講座が終了して閉講式後に「折角 篆刻を勉強して印を彫る楽しさも分かってきた。このままでは勿体ない 続けてやりたい」とメンバーから声があがり、講師の湯浅先生に相談したところ、「石門印会・舟橋支部」・「同市原支部」と、既に開放講座後に篆刻サークルを主宰しており「石門印会・千葉支部」としてサークルを立上げる運びとなりました。

2. 設立時の状況及び体制

- サークル名 : 「石門印会」
- 設立日 : 2004 年(平成 16)11 月
- 会場 : 県立幕張総合高等学校・芸術棟 4 階書道室
- 主宰 : 湯浅昭弘 (宗中先生)
- 幹事 : 中田 勲 (稲毛区小仲台在)
- 会計 : 菅原りつ
- 会員 : 29 名



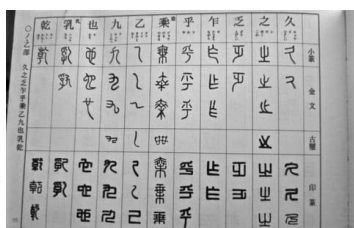
3. 現在の活動及び体制

- 会場については、湯浅先生が、幕張総合高校の異動に伴い高校の書道室が使えなくなったため、「打瀬公民館」でサークル活動されている打瀬在住の会員の方が居られたので、使用申し込みをし、「工芸室」を借用できました。
- 毎月第 3 週、日曜日に「月例会」として、講義・作品発表、技術指導などの活動をしています。

4. 将来の展望

「篆刻サークル」を発足して 15 年、もともとシニア層の多いサークルでしたので、入退出も依然として多いですが、「篆刻芸術」を極める愛好家も集まっており、楽しみなサークルです。

以上



中田 勲 記

1 はじまり

2011年(平23)2月16日、23日打瀬公民館主催講座「初めてのパン作り教室」として開催された。

当講座に参加された方々から「もっと色々なパンを作りたい」「自分が作ったパンを孫に食べさせたい」、「孫と一緒にパンを作りたい」などの要望があり、先生にお願いしたところ、

パン作りにこんなに興味を持って戴けるならと先生も前向きになられ「教室・クロワッサン」を開設することになった。

2 その後の経緯

教室を始めて、2020年(令和2)で10年を迎えましたが、この間、当初生徒7名は、一人も欠けずに続けています。また、先生のこだわりもあり、今まで同じパンを作ったことがありません。

この10年で、100種類以上のパンを作ったことになります。

メンバーの方が、その日作ったパンのレシピをまとめ、作ったパンの写真を添えて、メンバーに配ってもらっていますし、皆ファイルに保存しています。

良い先生と良い仲間をめぐり逢い、皆張り切っています。今後も先生のご都合のつく限り、メンバー一同続けて行きたいと皆思っています。

3 教室の概要

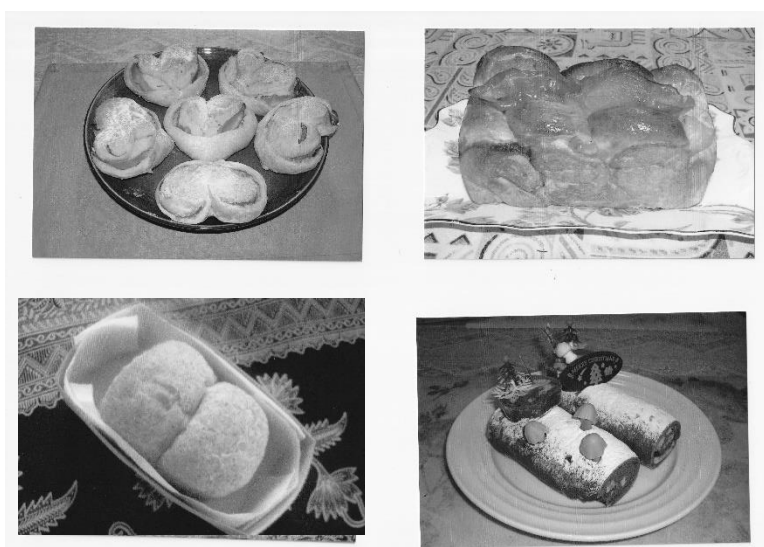
教室は毎月1回、第2水曜日、午後1時から5時 コア調理室

先生 木下^{キタ}徹子さん 若葉区みつわ台在住

生徒 打瀬地区 5名 磯辺地区 2名 (50歳~70歳代)

謝礼 月一人1,000円 その他パン材料費は実費

以上



ある日の作品例

梅田 明子 記

3. あとがき（終わりに）

2020年(令和2年)4月

昨年(2019年)初夏に、幕張ベイタウン地域運営委員会に属するベイタウンの公的団体について、設立の狙いや、規模、活動、体制、予算などの概要を纏め、公表しました。

その後、何人かの方と話をしている中で、そもそも、これらの団体の「はじまり」は、どのような考えや思いがあって始められたかを知りたいと思うようになり、調べることにしました。

一方、ベイタウンの始まりの頃は、各地から集まった多くの方々が街づくりに携わり、苦労して、現在の住みやすい街をつくる努力をされていたことを再々見聞きするにつけ、益々その始めたころの思いを執筆してもらい、それをまとめて、次世代の方に伝えることが、今の我々に必要との思いも強くしました。

更に又、当時の私もお世話になった先輩の多くが、転居したり、お亡くなりになった方もおられて、この時期にまとめておかなければ、ますます「はじまり」が判らなくなってしまうという思いを一層強くしました。

そんな時、この街での古くからの友人で、私がリタイア後に地域にデビューさせてくれた辻 和夫氏に声掛けしたところ、大いなる賛同を得、勇気百倍の気持ちで取り掛かることにしました。

その上で、遠山孝行さん、須藤麗子さんをお誘いし、始めたわけですが、とにもかくにも「ベイタウンの各団体のはじまりを関係団体にそれぞれ書いてもらおう」という思いのみで、対象団体、集める方法、編集(整理番号、文字サイズなどフォントその他)、締切日、締切り後の製本の形、予算など、全く何も無い状態での開始でありました。

このため、辻さん達と、何度も議論して進めてきました。



今回の活動は、当初 3項目を予定していました。

- 1) 本書の「ベイタウンのはじまり物語」の編纂
- 2) 更に、皆さんから戴いた資料・原稿を基に、ベイタウンの「詳細年表」をつくる
- 3) ベイタウンの過去の膨大な資料を、集積整理し、できれば打瀬図書館に寄贈する

当初、「はじまり物語」は、公的団体に絞ってと思いましたが、この街には、本当に多くの団体サークルがあり、それぞれの歴史をもって大いに活動していることもあり、可能な限り、多くの団体・サークルから原稿をお願いし集めることに変更しました。

今回は、特にサークル活動に関して、公民館の安齋洋一館長はじめ公民館の方々、その関係者に大変お世話になり感謝しています。

辻 和夫さんは、ベイタウン開闢の直後から、率先して、街づくりの推進に力を入れて幾多の行事・イベントを自ら主宰したり、コーディネートしていたことと、更にベイタウン内外に大いなる人的ネットワークをお持ちでもあり、その知識と実行力には、多くの仲間とともに本当に感心していました。この度もご案内の様に、自ら、早々に、数団体の「はじまり物語」を執筆してくれました。

その辻さんが、今年に入って、急に体調を崩され、入院したとの連絡をうけて、お見舞い

に行こうと思っていたその矢先に、ご子息から急逝されたと聞き、正に驚き以外の何物でもありません。今は、ご冥福を祈りつつ、安らかにお眠り下さいと申し上げるばかりです。

まだ、原稿が集まりきらない中で、輪をかけたのが、新型コロナウイルス騒動です。

関係者に集まってもらうこともままならず、行きがかり上、私が、全ての編集・編纂をする羽目となり、この種の活動に慣れない身にとっては、大変でしたが、一方では、時間的にゆっくり進めることもできました。

なお、「はじまり物語」に収録すべき、団体、サークル、行事などは想像以上に沢山あり今回は、全ての団体・サークルにお願いできたわけではありませんが、多くの団体、方々のご協力を得ることができ、その第一段階として、纏めることができました。

今回、60余の原稿を戴きましたが、前述の様に、今回の企画の狙いのみをお渡しての原稿依頼でしたので、お手紙やPDFで戴いた方もあり、wordに打ち直したり、文字変換、行送りの修正、目次の順番等でテンテコマイの有様でした。その上に、各頁の中での下欄の目立つ空欄を写真やイラストなどで埋めたいと思い、後から皆さんにお願いをし、ご負担をかけてしまい済みなく思っています。どうぞ、ご勘弁願います。

今回収録できなかった団体・サークルの第二弾に続ければよいでしょうが、はたして私ができるのか、後継者が出てきて作成してくれるか不明ですが、後者を期待しています。

さて、次に印刷・製本作りですが、今回は、ご覧の通り、A4版の製本糊を使ってのまとめをすることにしましたが、これには、シニアクラブで、ご経験の鍵和田潔さんにノウハウを含めて教えて頂き、また、幾人かの方々に大変お世話になりました。



次に、

- 1) 「詳細年表」も、それなりに纏めることができましたが、暫定版と思っています。一応それぞれ確認していますが、年月や、数値の間違いもまだあるかもしれません。団体ごとにベイタウンの状況などを年代別に表すと、大変大きな規模となり、大変読みにくくなってしまいますのが、残念です。
 - Ⅰ) 項の資料類との整合ある年表ができないかが、課題です。まとめる良い方法があれば、どうぞ教えて頂きたいと思っています。
- 2) 併せて、昨年春纏めた、地域運営委員会所属の「公的各団体概要」も一部手直しして収録しました。これも大量のデータ故、字が小さくなり、恐縮です。
- 3) 最後に、「ベイタウンの開設以来の資料」の整理は、今回、全く手付かずです。在京のコンサルタント（ベイタウンの街づくりに当初から寄与してくれている）の住宅都市問題研究所（通称 hup）の平井允氏、元県企業局にお勤めの加瀬靖博氏、ベイタウン住民協議会の大屋道夫氏などから多くの資料リストを戴きましたが、まだ、全く手付かずです。これから、元気の内、始めて行ければと思っています。

終わりに、本冊子が、これからの街づくりの土台として、何らかの寄与ができることを願いつつ、今回、ご協力戴いた多くの方々に、改めて心からの感謝を申し上げます。

幕張ベイタウン在住 濱 宏純 記